KORG

クイック・ガイド

J 1

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

CAUTION
RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN

AVERTISSEMENT:
RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.

注意　感電の恐れあり、キャビネットをあけるな

マークには次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性があります。

- **電源プラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。**
- **電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。**
  ○ 電源コードやプラグが破損したとき
  ○ 異物が内部に入ったとき
  ○ 製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、コルグお客様相談窓口へ依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。**
- **電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。**
  電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠ 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります。

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
  本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。**
- **長時間使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を抜く。**
- **電池は幼児の手の届かないところへ保管する。**

- **本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。**
  電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。

- **付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。**
  付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **電池を過度の熱源（日光、火など）にさらさない。**
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の隙間に指などを入れない。**
  お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **LCD画面には、次のようなことを絶対にしない。**
  ○ シャープ・ペンシルのように先の鋭いもの、硬いもので LCD 画面を強く押したりこすったりする。
  ○ LCD 画面の隅を、ペンや爪などで強くこする。
  本製品が損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

LCDディスプレイについて

本製品のLCDディスプレイは、非常に高い技術で作られた精密機器であり、品質には十分に注意を払っておりますが、次の内容については、LCDディスプレイの特性から生じる状態であり、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

・画面の一部に黒点(点灯しない点)や輝点(常に点灯する点)がある。
・表示内容によっては、画面の明るさにムラが生じる。
・表示内容によっては、横縞の陰が見える。
・表示内容によっては、ちらつきやモアレを生じる。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

また、本製品の使用に伴い、メディアに書き込んだデータの消失、破損などの、お客様に対してなされた損害賠償請求に基づく損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

目　次

付　録

イントロダクション

はじめに

コルグ・プロフェッショナル・アレンジャーPa900をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

Pa900は、パワフルなアレンジ機能が搭載され、プロフェッショナル用として、またご家庭用として、あらゆるシーンで十分ご満足いただける自動伴奏機能を装備したシンセサイザー・キーボードです。

おもな特長

- ベロシティ、アフタータッチ付きの61鍵セミウェイテッド鍵盤を搭載しています。
- ワイドで視認性の高い7インチTFTグラフィック・ディスプレイを搭載。画面に触れて操作できるタッチビュー・グラフィック・インターフェイスを採用し、さまざまなコントロールが可能です。
- 2ウェイ・アンプを内蔵した高品質オーディオ出力回路（D/Aコンバーター）を搭載しています。
- RXテクノロジー（Pa900のパワフルな機能を使うことができるように大型タッチ・ディスプレイによる使いやすい操作性、機能、サウンドをもつテクノロジー）を採用しています。
- アサイナブル・スイッチ、アサイナブル・ノブ、ジョイスティック、アサイナブル・ペダルをコントローラーとして使用することによって、サウンドにさまざまな表情をつけることができます。

サウンドとエフェクト

- パワフルな音源システムによるクリアでリアルなサウンドが得られます。
- ダイナミック・ニュアンス・コントロール（DNC）機能によって、これまで以上にリアルでビビッドなサウンドを実現しています。
- 192MBのユーザーPCMサンプル用メモリーを搭載。インポートしたサンプルをエディット可能なサンプリング機能を内蔵しています。
- 最大同時発音数128。
- ジェネラルMIDI2（GM2）に準拠したサウンドを内蔵。GM規格のソング・ファイルもさらに高品位なサウンドで再生が可能です。
- ステレオ・ピアノを含む1100以上のサウンドと77のドラムキットを内蔵しています。
- 320のパフォーマンス・ロケーションと、スタイルやソングブックの4つのシングル・タッチ・セッティング（STS）によって、キーボード・サウンドとエフェクトを瞬時に設定することができます。
- コルグ独自のREMS™（Resonant structure and Electronic circuit Modeling System）テクノロジーによるリアルなギター・エフェクト等をはじめ、125種類のエフェクト・タイプを内蔵した4基のマスター・エフェクトを使用することによって、さまざまな効果が得られる。
- マスタリング・リミッターと4バンド・パラメトリックEQを内蔵しています。

スタイルとソング

- 400種以上のファクトリー・スタイルを内蔵。各スタイルとも、4バリエーション、4フィルイン、ブレイクを内蔵。さらに12種類の「お気に入り」スタイルや3種類のユーザー・スタイル・バンクを用意し、膨大な量のスタイル・データやセッティング・データを格納することができます。
- スタイル・レコード機能やパッド・レコード機能には、さらに進化したギター・モード2を内蔵し、これまで以上にリアルなギター・パートのレコーディングが可能です。
- リアルタイムにコード進行をプログラムできる「コード・シーケンサー」機能を内蔵しています。
- Xフェーダー内蔵XDSダブル・プレーヤーを搭載。スタンダードMIDIファイルとMP3ファイルが再生可能です。ボーカル・キャンセラー機能も内蔵しています。
- フル機能の16トラック・シーケンサーを搭載。演奏したスタイルのクイック録音などが可能です。
- 歌詞や楽譜、マーカー表示機能を内蔵。多言語の拡張文字セットに対応。歌詞表示機能は+Gフォーマットに対応したスタンダードMIDIファイルやMP3ファイルに対応しています。
- 自在にエディット可能なソング・ブック・ミュージック・データベースを内蔵、瞬時に目的のソングの検索が可能です。

マイク・プリアンプ、ボーカル・エフェクト

- 高品位マイク・プリアンプを内蔵し、ダイナミック型のマイクを接続できます。
- 3声のハーモナイザーなど、プロ・クオリティのボーカル・エフェクトを作り出せる先進のTC-Heliconボイス・プロセッサーを内蔵しています。

その他の機能

- サウンドやファイルを瞬時に検索できるサーチ機能を内蔵しています。
- オペレーティング・システムのアップデートが可能。新機能の追加など、常にPa900を最新の状態に保つことができます。
- マイクロSDカード・スロットと大容量メモリーを搭載し、膨大な量のデータを保存することができます。
- USB 2.0ホスト・ポートを搭載。ハード・ディスク、CD-ROMドライブ、USBフラッシュ・メモリーなどの外部デバイスとの接続が可能です。
- PCとの接続用にUSB 2.0ポートを内蔵。これにより、ファイル転送やMIDI接続が可能（PC専用のMIDIインターフェイスは不要）。

パッケージの確認

Pa900をお買い上げになりましたら、最初に付属品等がすべて揃っているかどうかをお確かめください。万が一、何か足りないものがありましたら、速やかにお買い上げの楽器店等にお問い合わせください。

- Pa900
- 譜面台
- 電源ケーブル
- クイック・ガイド
- アクセサリー・ディスク (ビデオ・マニュアル,マニュアルPDF、USBドライバーなど)

取扱説明書について

クイック・ガイドは、Pa900のすべての情報を3つの章に分けて掲載しています:

- **イントロダクション**では、Pa900の概略とごく基本的な操作方法をご説明します。
- **クイック・ガイド**では、Pa900の操作方法をご説明します。
- **付録**では、Pa900の内蔵電池の交換方法やmicroSDカードの取付方法などを記載しています。

このクイック・ガイドは、Pa900の操作方法などの手順をご説明するものです。

Pa900の各ページやパラメーターなどの詳細を調べたいときはユーザー・マニュアルをご覧ください。ユーザー・マニュアルは、Pa900の付属アクセサリー・ディスクに収録されています。また、コルグ・ホームページにも掲載されています。

なお、付属アクセサリー・ディスクにはPa900の操作方法などを分かりやすくご説明している多言語版の**ビデオ・マニュアル**も収録されています。

Pa900 の最新情報について

コルグでは、Pa900の情報を以下のサイトで提供しています。

http://www.korg.co.jp/

オペレーティング・システムの最新版やさまざまなシステム・ファイル(例えば、ファクトリー・データのバックアップなど)があるサイトです。

データのバックアップについて

バックアップをとる

エディットしたオリジナルのデータ(サウンド、パフォーマンス、スタイルなど)がある場合、定期的にデータのバックアップをとることをおすすめします。Mediaモードのユーティリティ「Buckup Resource」コマンドを使用すると、すべてのデータのコピーをコンパクトなファイルにまとめることができます。

また、Mediaモードの「Save All」コマンドを使用すれば、データ別にファイルをセーブしたり、ロードすることも可能です。

バックアップ・ファイルを読み込む

バックアップ・ファイルの読み込みは、Media モードの「Restore Resource」コマンドで行います。

Mediaモードの「Save All」コマンドでセーブしたデータは、同じくMediaモードの「Load」コマンドでロードすることができます。

ファクトリー・データに戻す

工場出荷時のファクトリー・データに戻すには、Media モードの「Factory Restore」コマンドを使用します。

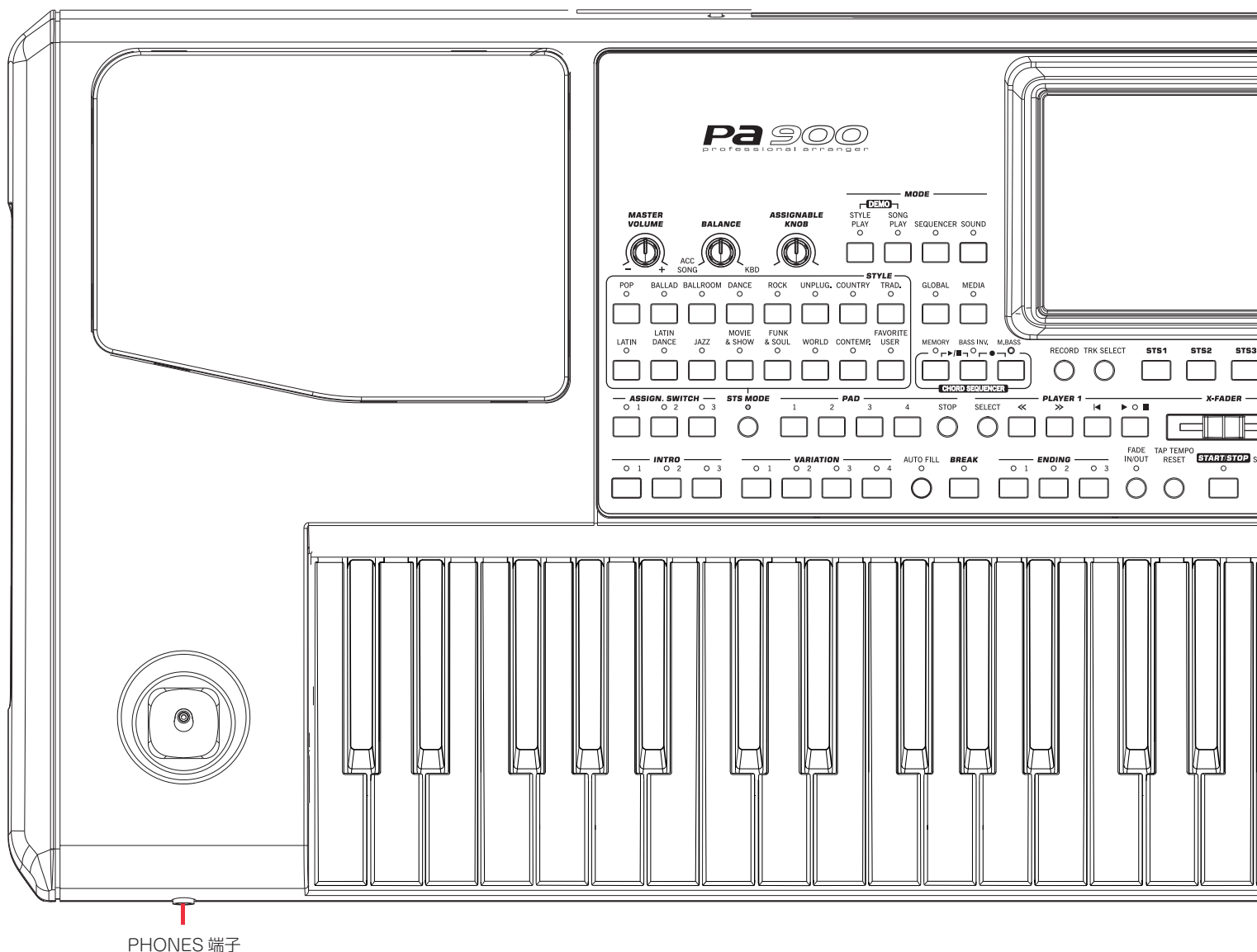
Warning: この操作を行うと、既存のファクトリー・データ、ローカル・データ、お気に入り、ユーザー・データのすべてが上書きされます。

オペレーティング・システムのロード

コルグでは、Pa900 のオペレーティング・システムを常にアップデートしていますので、お手持ちのオペレーティング・システムも最新版にアップデートできます。オペレーティング・システムは、www.korg.co.jp からダウンロードできます。オペレーティング・システムと一緒にダウンロードされる「Readme」ファイルを必ずお読みください。

Pa900 のオペレーティング・システムのバージョンは、Media モードのユーティリティ・ページで確認することができます。

Warning: コルグから供給される Pa900 用のオペレーティング・システム以外はインストールしないでください。他の Pa シリーズ用に用意されているオペレーティング・システムをインストールすると Pa900 の故障、破損を招く恐れがあります。オペレーティング・システムの不正なインストールに起因する故障や破損については、コルグは一切の責任を負いません。

各部の名称と機能

PHONES 端子

フロント・パネル

スピーカー

Pa900のサウンドを忠実に再生するスピーカーを内蔵しています。このスピーカーは、PHONES出力端子にヘッドフォンを接続すると、自動的に出力がオフになります。また、スピーカー出力はGlobalモードAudio & Video : MP3/Speakerページの“Speakers On/Off” パラメーターでオン/オフが可能です。

ヘッドホン

PHONES端子

ヘッドフォンを接続する端子です。インピーダンスが16～200Ωのヘッドフォンを使用することができます（50Ω推奨）。

また、ヘッドフォン分配器（スプリッター）を使用すれば、複数のヘッドフォンを接続することができます。

ジャックにヘッドホンを接続したときは、内蔵スピーカーから音が出力されなくなりますが、AUDIO OUT端子からは出力されます。

ジョイスティック・レバー

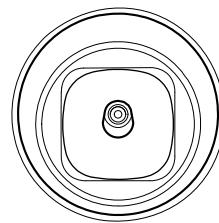
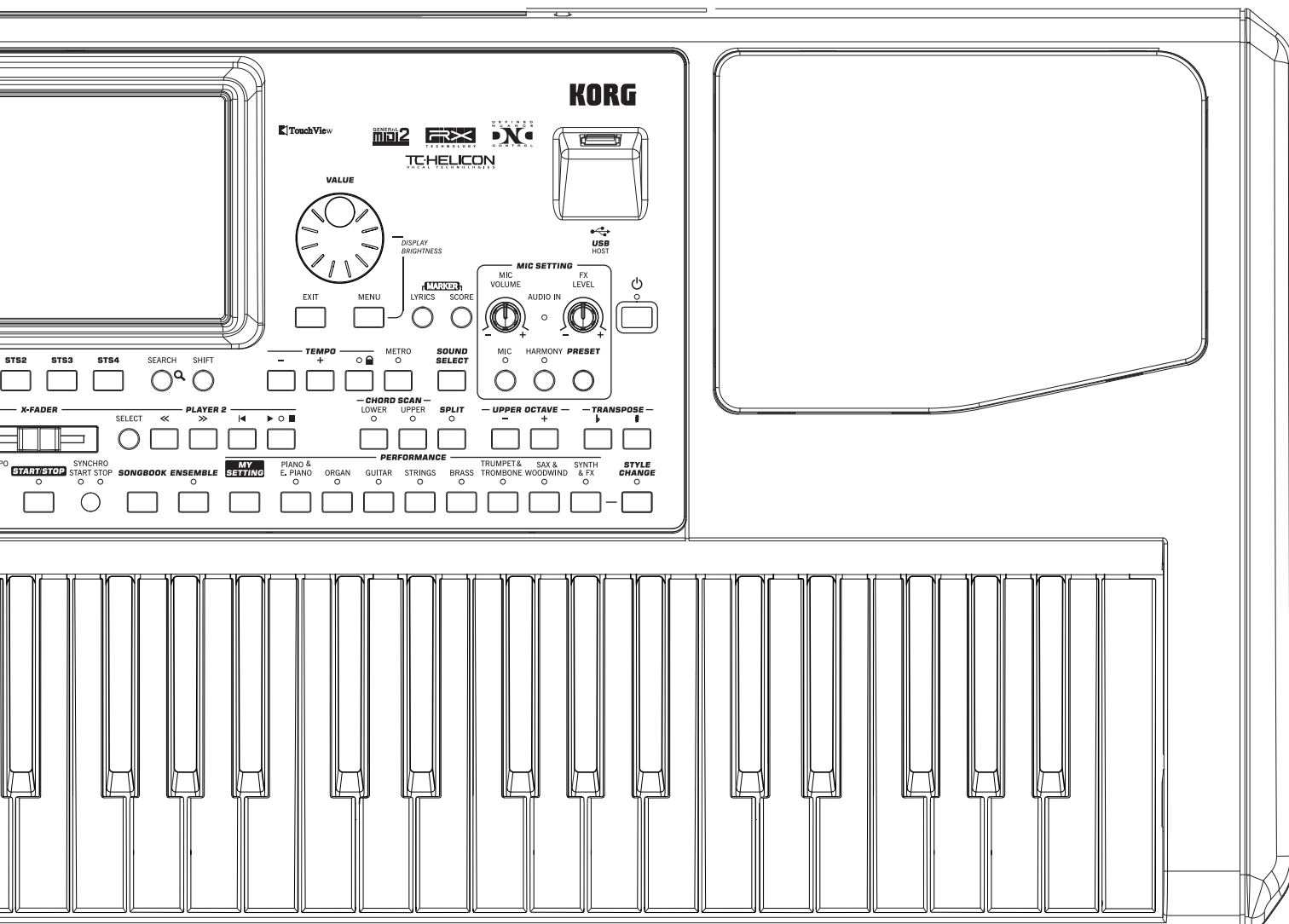
ジョイスティックはフロント・パネルの左側にあります。

ジョイスティック

操作する方向によりさまざまなパラメーターをコントロールします。

X（+/ −）　ジョイスティックを左（−）に動かしてピッチを下げ、右（+）に動かしてピッチを上げます。ピッチ・ベンドとも呼ばれます。

Y+　ジョイスティックを向こう（奥）側に傾け、モジュレーション効果をかけます。

Y −　ジョイスティックを手前に傾け、Sound モードで割り当てられた機能をコントロールします。

ボリューム・コントロール

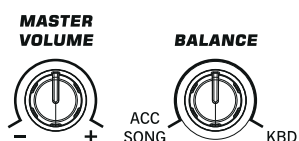
Pa900全体の音量や、リアルタイムに演奏するパート(キーボード・トラック)と伴奏パート(スタイルやソング)の音量バランスをこれらのノブで調整します。

MASTER VOLUMEノブ

Pa900の全体の音量を調整します。内蔵スピーカーとAUDIO OUT(LEFT、RIGHT)端子、ヘッドホン端子から出力される音量を調整します。また、AUDIO IN(LEFT、RIGHT)端子に入力される信号レベルも調整します。

BALANCEノブ

Style Playモード、Song Playモードのときに、リアルタイムに演奏するパート(キーボード・トラック)と、伴奏パート(スタイル・トラック)、ソング、パッド・パートの音量バランスを調整します。これは相対的な音量コントロールで、実質的な最大値はMASTER VOLUMEノブによって決まります。

より正確に設定したいときは、画面に表示された仮想スライダーを見ながら調整してください。

このバランス設定は、キーボード・トラックの音量を変化させずに、伴奏パート(アカンパニメント、ソング)の音量を調整することができます。

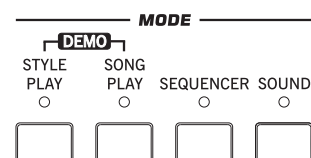
Note: この設定はSequencerモードとSoundモードでは無効です。

アサイナブル・ノブ

ASSIGNABLE ノブ

機能を割り当てできるノブです(機能の割り当て方法については、Globalモード Controllers Hand Controllerページで行います。

MODE セレクション

操作モードを選択します。選択すると、他のモードはすべて無効になります。

STYLE PLAYキー

Style Playモードに入ります。スタイル(自動伴奏の8つのトラック)の再生に合わせて、最大4パート(4サウンド)のキーボード・トラック(鍵盤)と4つのパッド使用して演奏することができます。キーボード・トラックは、メイン・ページの画面右半分に表示されます。

スタイル・プレイ・エディット・セクションの任意のページのときにEXITキーを押すと、このメイン・ページが表示されます。別のモードを選択したときは、STYLE PLAYキーを押すとStyle Playモードに入ります。もし画面にキーボード・トラックが表示されていないときはTRACK SELECTキーを押します。

電源をオンにすると、このStyle Playモードで起動し、My Settingsに設定されたパフォーマンスが自動的に呼び出されます。

SONG PLAYキー

Song Playモードに入ります。スタンダードMIDIファイル(MIDまたはKAR)とMP3形式のファイルを再生できます。ソング・トラックの他に、最大4パート(4サウンド)のキーボード・トラック(鍵盤)と4つのパッドを使用して演奏することができます。キーボード・トラックは、メイン・ページの画面右半分に表示されます。

ソング・プレイ・エディット・セクションの任意のページのときにEXITキーを押すと、このモードのメイン・ページが表示されます。別の操作モードを選択しているときは、SONG PLAYキーを押すとSong Playモードに入ります。TRACK SELECTキーを繰り返し押すことで、画面の表示をキーボード・トラックとソング・トラックに切り替えることができます。

SEQUENCERキー

Sequencerモードに入ります。ソング(スタンダードMIDIファイル・フォーマット)の録音と再生、エディットを行います。Backing Sequence(Quick Record)モードではキーボード・トラックやスタイル・トラックをベースにして新しいソングを録音したり、新規のスタンダードMIDIファイルとして保存できます。

Note: このモードではMP3ファイルは再生できません。

SOUNDキー

SOUNDモードに入ります。サウンドを演奏したり、エディットします。

専用のサンプルRAMメモリーにロードされているユーザーPCMサンプルを使用したユーザー・サウンドを作ることもできます。

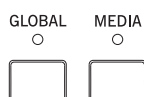
Note: 他のPaシリーズで作成した圧縮形式のユーザーPCMサンプルはロードできません。

SHIFT SOUNDモード以外のモードにいるときに、SHIFTキーを押しながらSOUNDキーを押すと、SOUNDモードに入り、以前SOUNDモードにいたときに選択していたサウンドが呼び出されます。

DEMO

STYLE PLAYとSONG PLAYの2つのキーを同時に押してデモ・モードに入ります。このモードでは、Pa900が持つ音楽表現力を発揮したデモ・ソングを聴くことができます。デモ・モードを終了するときは、いずれかのMODEキーを押します。

その他のモード・キー

これらのモード・キーは、グローバル設定を呼び出したり、ファイルを管理するときに使用します。

GLOBALキー

Globalモードに入ります。本体に関するさまざまな設定を行います。Globalモードでのほとんどの設定は、変更すると同時に自動的に記憶されます。このGlobalモードは、動作中のモード画面の上にオーバーラップして表示されます。EXITキーを押すと、元のモード画面に戻ります。

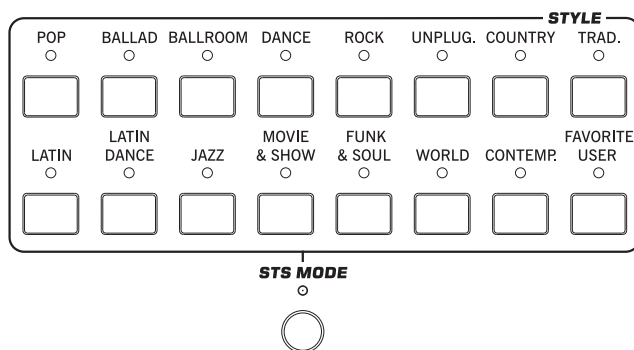
MEDIAキー

Mediaモードに入ります。ファイルや記憶デバイスのさまざまな操作(ロード、保存、フォーマットなど)を行います。このMediaモードは、動作中のモード画面の上にオーバーラップして表示します。EXITキーを押すと、元のモード画面に戻ります。

インターナル・メモリーには、内部データ・エリア("SYS [KORG SYSTEM]"エリア)と、データ保存スペース("DISK [KORG DISK]"エリア)があります。

リアパネルにある専用スロットにmicroSDカード(別売)を挿入すると、microSDカードのメモリー領域("SD [KORG SD]")にアクセスすることができます。microSDカードの使用方法などについては、96ページの「microSD カードを使用する」をご覧ください。

スタイル・セレクト・セクション

ここでスタイルを選択したり、STSの自動選択をオンにすることができます。

STYLEキー

STYLEキーを押すと、Style Selectウィンドウが表示され、スタイルを選択できます。

FAVORITE/USERキーを使用すると、12種類のフェイバリット・スタイル・バンクや3種類のユーザー・スタイル・バンクを選択できます。ユーザー・スタイル・バンクは、新しいスタイルを外部デバイスから一時的にロードしたり、新規作成したスタイルやエディットしたスタイルを保存することができます。

フェイバリット・スタイル・バンクにも、新しいスタイルを外部デバイスからロードしたり、新規作成したスタイルやエディットしたスタイルを保存できます。さらに、これらのバンクではスタイル名を変更することもでき、自分だけのカスタム・スタイルを作成することができます。

スタイル・バンクの各キーには5つのページがあり、各ページには最大8種類のスタイルが記憶されています。STYLEキーを繰り返し押すと、ページが切り替わります。

スタイル・バンク・キーを約1秒間押したままにすると"Write Current Style Settings"ダイアログが表示されます。

STS MODEキー

STS MODEキーを押すと、次の機能に順次切り替わります。

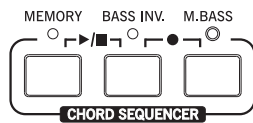
オン(LED点灯) スタイルを選択すると、STS 1が自動的に選択されます。この状態では、スタイルの選択に応じてそのサウンドやエフェクトが切り替わるのと同時に、

キーボード・トラックのサウンドやエフェクトも切り替わります。

LED 点滅　Variation/STS Link 機能がオンになります。この機能は、バリエーションを選択すると、各バリエーションに対応した STS が呼び出されます。例えば、バリエーション 2 を選択すると STS 2 が、バリエーション3を選択するとSTS 3が自動的に呼び出されます。

オフ（LED 消灯）この状態でスタイルを選択すると、スタイルのサウンドやエフェクトは切り替わりますが、キーボード・トラックのサウンドやエフェクトは元のままで切り替わりません。

Memory、Bass Inversion, Manual Bass、Chord Sequencer

メモリー機能、ベース・トラックの演奏方法を設定します。また、コード・シーケンサーの操作キーとしても使用します。

MEMORYキー

鍵盤から手を離してもそのままのコードで演奏できるロワー・ノート / コード・トリガー機能のオン/オフ切替をします。

オン（LED 点灯）Global モードの “Memory Mode” の設定（Global モード「Mode Preference: Style」参照）によって、スプリット・ポイントより左側（ロワー）のサウンドや、コード検出による自動伴奏の演奏を、鍵盤から手を離してもそのまま継続します。

オフ（LED 消灯）鍵盤から手を離すと、ロワーのサウンドや自動伴奏の演奏も同時に停止します。

Note: この機能は、より強く鍵盤を演奏することによって自動的にオンにすることもできます。「Velocity Control（ベロシティ・コントロール）」を参照してください。

SHIFT　SHIFT キーを押しながら MEMORY キーを押すと、Global モードMode Preferences のStyleの画面へ移動することができます。

BASS INV. (Bass Inversion)キー

BASS INV.キーを押して、ベース転回機能のオン/オフを切り替えます。

オン（LED 点灯）キーボードでコードを押さえた時の最低音が常にベース（コードのルート音）になります。この方法を使えば、アレンジャーに Am7/G や F/C といった分数コードを認識させることができます。

オフ（LED 消灯）コードの最低音もそのコードの構成音と同列に扱われ、必ずしもコードのルート音になるとは限りません。

Note:この機能はキーボードを強く演奏することによって自動的にオンにすることができます。

M. BASS (Manual Bass)キー

マニュアル・ベース機能をオン/オフします。

オン（LED 点灯）ドラムとパーカッション・トラックを除く自動伴奏の演奏が停止して、鍵盤のロワー部分でベース・トラックを演奏できます。キーを押してマニュアル・ベース機能をオフにすると、自動伴奏が再スタートします。

オフ（LED 消灯）スタイルによるベース・トラックを自動的に演奏します。

Note: M.BASSキーを押してオンにすると、ベース・トラックの音量が自動的に最大になります。M.BASSキーを再び押してオフにすると、ベース・トラックの音量は元の設定に戻ります。

コード・シーケンサー（PLAY/STOP、RECORDキー）

スタイルの演奏時、これらのキーはコード・シーケンサーのコントロール・キーとして機能し、コード進行を記録することもできます。ここで記録したコード進行は、左手でコードを手動で指定する代わりにも使え、キーボードでソロ演奏をする時などに便利です。

RECORD（BASS INV.キーを押しながらM.BASSキーを押します）：この操作により、コード・シーケンサーをレコーディング状態にします。実際のレコーディングはキー操作をした時点から次の小節の先頭から始まります。再びキー操作をするとレコーディング状態が解除されます。

PLAY/STOP（MEMORYキーを押しながらBASS INV.キーを押します）：この操作により、コード・シーケンサーに記録したコード進行を再生させ、その進行に即した伴奏を演奏させることができます。実際の再生はキー操作をした時点から次の小節の先頭から始まります。再びキー操作をすると再生が停止します。

コード・シーケンサーに記録したコード進行は、次に新たなコード進行を記録するか、電源をオフにするまで保持されます。

Record、Track Select

RECORD、TRACK SELECTキーを使ってスタイルやソング、サウンドの作成やエディット、トラック・グループの選択が行えます。

RECORD　TRK SELECT

RECORDキー

スタイルやソングを録音します（何を録音するかは、モードによって異なります）。

TRACK SELECTキー

このキーは、以下の各モードでそれぞれ異なる動作をします。

Style Play モード
　キーボード・トラックとスタイル・トラックを交互に切り替えます。

Song Play モード
　キーボード・トラック、ソング・トラック 1 〜 8、9 〜 16 をそれぞれ切り替えます。

Sequencer モード
　ソング・トラック 1 〜 8 と 9 〜 16 を交互に切り替えます。

STS（Single Touch Settings）セクション

キーボード・トラックにサウンドやエフェクトの設定をアサインします。

STS 1〜4キー

各スタイルやソングブックのエントリーには4種類のSTS（サウンドやエフェクトの設定）を記憶することができ、これらのキーでキーボード・トラックで使用するサウンドやエフェクトの設定を呼び出します。

このキーを約1秒間押したままにすると“Write Single Touch Setting”ダイアログが表示されます。

Note:ファクトリー・スタイル(工場出荷時にメモリーされているスタイル)に入っているSTSは通常、上書き保存ができないようにプロテクトがかかっています(プロテクトは、Global モード Mode Preferences:Mediaページの「Factory Style and Pad Protect」のチェックをはずすと解除できます)。

検索、ショートカット

SEARCH、SHIFTキーを使うことにより、メモリー内容の検索や各キーに割り当てられている第2の機能にアクセスすることができます。

SEARCHキー

このキーを押すとSearchウィンドウが表示され、ファイルや音楽リソースを検索することができます。Searchウィンドウの表示内容は、検索する内容によって多少変化します。

SHIFTキー

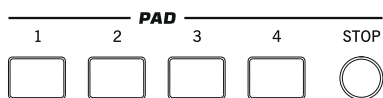
このキーを押しながら、別のキーを押すと、そのキーに割り当てられている第2の機能にアクセスできます(ショートカット)。

アサイナブル・スイッチ

ASSIGNABLE SWITCH 1~2キー

アサイナブル・スイッチには、様々な機能を割り当てる(アサインする)ことができます。設定は、Style PlayまたはSong Play モードPad/Assignable Switch:Switchページで行います。

PAD

パッド・キーを押すことにより、単発のサウンドやループ・シーケンス(繰り返し演奏されるフレーズ等)を演奏することができます。

パッド1~4キー、STOPキー

各パッドに割り当てたサウンドやシーケンスを演奏します。パッド・キーを複数同時に押すことによって、最大4つのサウンドまたはシーケンスを演奏させることもできます。

- 1つのパッド・キーを押すと、そのキーに対応したサウンドまたはシーケンス(フレーズなど)を演奏します。
- 複数のパッド・キーを押すと、それぞれのキーに対応したサウンドまたはシーケンスを演奏します。

シーケンスは、Pad Recordモードの“Pad Type”パラメーターの設定(“One Shot”または“Loop”)に従って、最後まで演奏して停止、または繰り返し演奏します。

すべてのサウンドやシーケンスを一斉に停止させることもできますし、そのうちのいくつかだけを停止させることもできます:

- PAD セクションにある STOP キーを押すと、すべてのシーケンスが停止します。
- 各 PAD キーを押すと、そのキーに対応しているシーケンスが停止します。

パッドのテンポ同期について

Style Playモードでは、スタイルのテンポに同期します。

Song Playモードでは、最後に演奏したプレイヤーのテンポに同期します。例えば、プレイヤー2が演奏状態の場合、PADキーを押すと各パッドのシーケンスはプレイヤー2のテンポに同期して演奏します。

Note: MP3ファイルのテンポには同期しません。パッドのテンポは、最後に選択したスタンダードMIDIファイルのテンポと同期します。このため、プレーヤーにMP3ファイルを割り当てている場合、パッドのテンポはその直前に選択していたスタンダードMIDIファイルのテンポと同期して演奏します。

プレーヤーのPLAY操作とパッドについて:プレーヤーのPLAYキーを1つ押すと、対応するプレーヤーの演奏を開始し、パッドの演奏はすべて停止します。

SHIFT SHIFT キーを押しながら、パッド・キーのいずれかを押すと、Style PlayモードのPad/Assignable Switchesページに移動することができます。

プレイヤー・コントロール

Pa900はプレイヤーを2基内蔵しています(プレイヤー1、プレイヤー2)。各プレイヤーに再生や停止などのコントロールがあります。また、プレイヤー1のコントロールはSequencerモードでも使用します。

SELECTキー

SELECTキーを押すとソングの選択画面が表示され、ソングを選択できます。画面内のソング名をタッチすることでも同じ操作を行えます。

<<、>>キー

巻き戻しや早送りを行います。ソングを再生中にこれらのキーを押すと、巻き戻しや早送りが行えます。

キーを1回押すと、その時再生していたソングの1小節前または後に移動します(スタンダードMIDIファイルを再生中の場合)。または1秒前または後に移動します(MP3ファイルを再生中の場合)。長押しをすると、キーを離すまで巻き戻しまたは早送りの動作を行います。

Sequencerモードでは、“Start from”小節(ソングの演奏を開始する小節)の設定が「1」以外になっている場合、<<キーを押すと“Start from”で設定した小節番号まで巻き戻します。

SHIFT ジュークボックス・モード(プレイヤー1)では、SHIFTキーを押しながらこれらのキーを押すと、ジュークボックス・リストの1つ前または後のソングにスクロールします。

⏮ (HOME)キー

ソングの先頭に戻ります。

Sequencerモードでは、“Start from”の設定を「1」以外にしている場合、このキーを押すと設定している小節番号に戻ります。

▶/■ (PLAY/STOP)キー

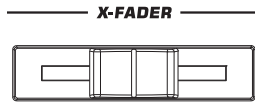
ソングがその時の再生位置から再生を開始したり、その再生位置で停止します。

SHIFT Song Playモードでは、SHIFTキーを押しながらPLAY/STOPキーを押すと2つのプレイヤーが同時に再生を開始します。

X-FADER

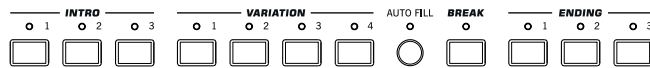
Song Playモードでは、内蔵の2つのプレイヤーの音量バランスをこのフェーダーでコントロールできます。フェーダーを左いっぱいにした状態では、プレイヤー1の演奏のみが聴こえます。逆に右いっぱいの状態ではプレイヤー2のみが聴こえます。フェーダーをセンターにした場合、両方のプレイヤーの演奏が同じ音量で聴こえます。

また、このフェーダーはどちらかのプレイヤーの歌詞、スコアまたはマーカーを選択することもできます。

Note:このフェーダーはStyle Play、SequencerまたはSoundモードでは動作しません。

PLAYER2 TRANSPORT CONTROL

プレーヤー2のトランスポート・コントローラーです。各キーの詳細はプレーヤー1と同様です。

スタイル・エレメント

スタイルに内蔵されている各構成要素(イントロ、バリエーション等)をコントロールするセクションです。

INTRO 1〜3キー

スタイル演奏で使用するイントロを選択します。1つを選択してスタイルをスタートさせると、選択したイントロでスタートします。LEDはイントロの終わりで消灯します。

イントロが終了すると、LEDが点滅しているバリエーションが選択されます。

キーを2回押すとLEDが点滅し、イントロをループ再生します。ループを終了するときは、もう一度キーを押すか、別のスタイル·エレメント(イントロ、バリエーションなど)を選びます。

Note: プリセット·スタイルでは、イントロ1はコード展開のあるシーケンスです、イントロ演奏中は演奏者はコードを変更する必要がありません。イントロ2はバリエーション1〜4と同様に、コード展開の無いシーケンスとなっていて演奏したコードに応じて伴奏が変化します。イントロ3は通常1小節のリズムによるカウント·インになっています。

VARIATION1〜4キー

現在選択しているスタイルのバリエーションを選択します。バリエーションの番号が大きいものほど、より複雑なアレンジになります。

SHIFT SHIFT キーを押しながら VARIATION キーのいずれかを押すと、Style PlayモードのDrum Mapページに移動できます。

AUTO FILLキー

オート·フィル機能のオン/オフを切り替えます。

オン (LED 点灯) あるバリエーションから別のバリエーションを選択する時、最初に選んでいたバリエーションと同じ番号のフィルが自動的に選択されます。例えば、バリエーション 2 の状態からバリエーション 3 を選択した場合、バリエーション 3 に移る前にフィル 2 が自動的に演奏されます。

オフ (LED 消灯) 異なるバリエーションを選択しても、フィルは自動的に選択されません。

BREAKキー

BREAKキーを押すとブレイクを演奏します。キーを2度押すとLEDが点滅になり、ブレイクを繰り返し演奏します。繰り返しの状態を解除するには、もう一度BREAKキーを押すか、その他のキー(INTRO、VARIATION、ENDINGのいずれか)を押します。

ENDING 1〜3キー

スタイル再生中、3つのキーのうちいずれかを押すと、エンディングを再生しスタイルが停止します。

キーを2回押すとLEDが点滅し、エンディングをループ再生します。ループを終了するときは、もう一度キーを押すか、別のスタイル形式(イントロ、バリエーションなど)を選びます。

Note: プリセット·スタイルでは、エンディング1はコード展開のあるシーケンスになっていて、エンディング演奏中は演奏者はコードを変更する必要がありません。エンディング2はバリエーション1〜4と同様に、コード展開の無いシーケンスとなっていて演奏したコードに応じて伴奏が変化します。エンディング3は通常2小節前後の短いもので、押すと短いエンディングで停止するようになっています。

スタイル・コントロール

これらのキーで伴奏(アカンパニメント)の再生/停止、テンポなどを設定します。

FADE IN/OUTキー

スタイルやソングの停止中にFADE IN/OUTキーを押すと、音量がフェイドイン(無音の状態から徐々に音量が上がる)し、スタイルやソングの再生が始まります。

スタイルやソングの再生中にFADE IN/OUTキーを押すと、音量がフェイドアウト(徐々に無音の状態へ音量が下がる)し、スタイルやソングが停止します。

このときはスタイルやソングの再生をスタートさせたり停止させるためにSTART/STOPキーを押す必要はありません。

Note: この機能はSequencerモードでは使用できません。

SHIFT SHIFTキーを押しながら、FADE IN/OUTキーを押すと、GlobalモードのGneral Controlsページを表示させることができます。

TAP TEMPO/RESETキー

このキーはスタイルの再生/停止の状態により機能が変わります。

Note: この機能はStyle Playモードでのみ使用できます。

TAP TEMPO:スタイルの停止中に、拍子(Meter)に合わせてキーを押してテンポを設定します。タップ·テンポは、演奏する曲の拍子と同じ数だけこのキーをタップします(4/4拍子の場合は4回、3/4拍子の場合は3回)。そして設定したテンポで自動的に伴奏がスタートします。

RESET:スタイルの再生中にこのキーを押すと、スタイルの伴奏が演奏中のスタイル·エレメントの先頭に戻ります。

START/STOPキー

スタイルの演奏を開始、停止します。

Note:この機能は鍵盤をより強く弾くことで演奏をスタートすることもできます。

SHIFT Pa900またはMIDI OUT端子やUSB端子に接続された機器上で、出力音が止まらない、コントローラーをリセットする

ときに、このSTART/STOPキーとSHIFTキーとを同時に押します(パニック停止機能)。

SYNCHRO START / STOPキー

シンクロ･スタート、シンクロ･ストップ機能をオンまたはオフにします。スタイルを再生または停止するのにSTART/STOPキーを押す必要があるか、鍵盤を弾くだけでよいのかを決定することができます。

Note: このキーはStyle Playモードのときだけ機能します。

START オン、STOP オフ

この状態では、コード検知領域でコードを弾くと、スタイルを自動的に再生します。必要であれば、スタイルを再生する前に、いずれかのイントロをオンにできます。

START、STOP ともにオン

スタート、ストップ両方のLEDが点灯している場合、両手を鍵盤から離すとスタイルの演奏が一時的に停止します。その後、鍵盤でコードを演奏するとスタイルの演奏が再び始まります。

START オフ、STOP オン

この状態では、鍵盤から手を離すと、再生しているスタイルがストップします。

START オフ、STOP オフ

シンクロ機能がオフになります。

SHIFT SHIFTキーを押しながらSYNCHRO START/STOPキーを押すと、Global モードのMIDI:General Control ページにジャンプできます。

ソングブック

SONGBOOK

ソングブックはソングのデータベースで、各ソングに適したスタイルやスタンダードMIDI ファイル、またはmp3ファイルを自動的に選択することができます。

SONGBOOKキー

Style PlayまたはSong Playモードを使用している時にこのキーを押すと、ソングブックが開き、その中にあるミュージック･データベースをブラウズすることができます。

1" このキーを約 1 秒間押したままにすると、新しいソングブックのエントリーが作成され、その時のPa900の設定がデータベースに追加されます。

SHIFT SHIFTキーを押しながらSONGBOOKキーを押すとSongBookのCustom Listページにジャンプできます。

アンサンブル機能

ENSEMBLE

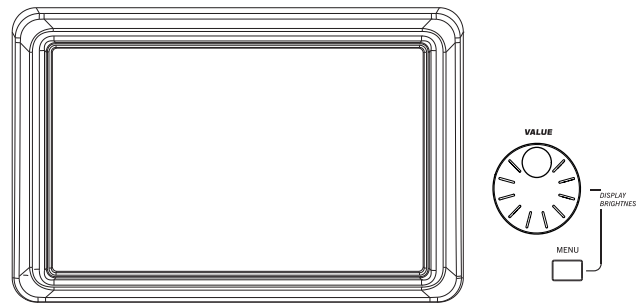
アンサンブル機能は、右手で弾いたメロディに対して自動的にハーモニーを付ける機能です。

ENSEMBLEキー

このキーでアンサンブル機能のオン/オフを切り替えます。オンの場合、右手で弾いたメロディに、左手で押さえたコードに従ったハーモニーを付けることができます。

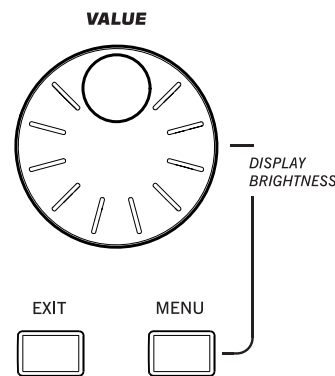
Note:アンサンブル機能は、キーボードがスプリット･モードの時のみ動作します。

SHIFT SHIFT キーを押しながら ENSEMBLE キーを押すと、Style PlayモードのKeyboard/Ensembleページにジャンプできます。

ディスプレイ、輝度調整

カラー･タッチビュー･グラフィカル･ディスプレイ

この画面上でPa900の操作を行います。画面の輝度調整は、MENUキーを押しながら、VALUEダイヤルを回します。ダイヤルを反時計回りに回すと輝度が下がり、時計回りに回すと輝度が上がります。

データ入力とナビゲーション

VALUEダイヤルは、画面上で選択したパラメーターの値を設定します。また、ソング選択、ソングブック、検索、Media モードのページで、ファイル･リストのスクロールなどで使用します。

VALUEダイヤル

時計回りに回すと、値やテンポを上げます。反時計回りに回すと、値やテンポを下げます。

MENU MENU キーを押しながら VALUE ダイヤルを回すと、画面の輝度が調整できます。

EXITキー

このキーを使って、現在のページから移動します。

- エディット・メニュー・ページが、項目を選択することなく終了します。
- ページ・メニューの表示が、項目を選択することなく閉じます。
- 現在のモードのメイン・ページに戻ります。
- Global モードやメディアのエディットから抜けて、現在のモードのページに戻ります。
- ソング・ブック・モードを終了します。
- 歌詞、スコア、マーカー・ページの画面を終了します。
- スタイル、パッド、パフォーマンス、サウンド選択ウィンドウを終了します。

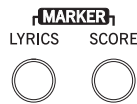
MENUキー

現在のモードでエディット･メニュー･ページを開きます。エディット･メニュー･ページを開いたら、画面上の対応するボタンを押して各エディット･セクションに移動します。

また、EXITキーを押して、現在の操作モードのメイン･ページ、または元のページに戻ります。

Lyrics、Score、Marker キー

歌詞、スコア、マーカー・ページを表示します。

プレイヤー1または2のどちらのページを表示するかをX-FADERでコントロールします。

LYRICSキー

ソングまたはスタイルの歌詞ページが表示されます。

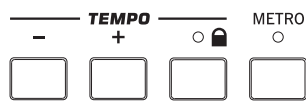
SCOREキー

スコア・ページが表示されます（Song Playモード）。

MARKERキー

LYRICSキーとSCOREキーを同時に押すと、マーカー・ページが表示されます（Song Playモード）。

テンポ・セクション

テンポとメトロノームを設定します。

TEMPO +/−キー

スタイルまたはソングの演奏テンポを設定します。

TEMPO−キーは、演奏テンポを下げます（ゆっくりにする）。
TEMPO+キーは、演奏テンポを上げます（速くする）。

+/−キーを同時に押すと、スタイルやスタンダードMIDIファイルに保存されているテンポに戻ります。MP3ファイルの場合は、オリジナルの再生速度に戻ります（この時、値は「0」になります）。

TEMPO LOCK キー

テンポ・ロック機能をオン/オフにします。

オン（LED 点灯）現在選択中のスタイルまたはパフォーマンスから、別のスタイルやパフォーマンスに切り替えたり、あるいは別のソングを選択しても、テンポは変化せず、手動によるテンポ変更も引き続き TEMPO+/ − キー、または VALUE ダイアルで行えます。

オフ（LED 消灯）異なるスタイルやパフォーマンスを選択、または異なるソングを選択すると、保存しているテンポを自動的に選択します。

Note: この機能は MP3 ファイルに対しては動作しません。

SHIFT SHIFTキーを押しながら、TEMPO LOCKキーを押すと、GlobalモードGeneral Controlsのロック・ページに移動することができます。

METROキー

メトロノーム機能のオン/オフを行います。

SHIFT SHIFTキーを押しながら、このキーを押すとGlobalモードGeneral ControlsのBasicページに移動することができます。

サウンドを選択する

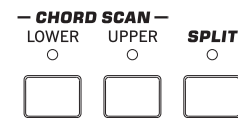
SOUND SELECTキー

このキーを押すとSound Selectウィンドウが表示され、選択したトラックにサウンドを割り当てることができます。画面上のサウンド名をタッチすることでも同様の操作を行えます。また、このキーを繰り返し押すとサウンド・バンクのページが切り替わります。

各サウンドはカテゴリーごとに複数のバンクにメモリーされています。バンクの選択は画面側面にあるタブ（サイド・タブ）をタッチして行います。各サウンド・バンクには複数のページがあり、各ページに最大8種類のサウンドが入っています。各サウンドは画面下部のタブをタッチして選択できます。

ファクトリー（Factory）タイプのサウンドは通常、プロテクトがかかっています（プロテクトは、Global モードMode Preferences: Mediaページの“Factory Sound Protect”のチェックをはずすと解除できます）。レガシー（Legacy）タイプのサウンドは、これまでのPaシリーズに入っていたサウンドとの互換性を高めたサウンドです。GMタイプのサウンドは、General MIDI（GM）と互換のあるサウンドです。ユーザー（User）タイプのサウンドは、新たなサウンドを外部デバイスからロードしたり、新規作成またはエディットしたサウンドをメモリーしておくことができる場所です。また、User DKタイプは新たにロードしたドラムキット、新規作成またはエディットしたドラムキットを保存しておくことができる場所です

コード・スキャンとキーボード・スプリット機能

コード認識方法や鍵盤のキーボード・トラックを設定します。

CHORD SCANキー

Style Play、Song PlayモードやSequencerモードのバッキング・シーケンス・モードでのコード認識方法を設定します。

LOWER LED 点灯

スプリット・ポイントから低音域の鍵盤を演奏した時にコードが認識されます。コードとして認識させるのに必要なボイス数は “Chord Scan Mode” パラメーターで設定します。

UPPER LED 点灯

スプリット・ポイントから高音域の鍵盤を演奏した時にコードが認識されます。この設定では、コードとして認識させるためには最低でも 3 ボイス以上のコードを演奏する必要があります。

両方の LED が点灯（FULL）

鍵盤の全域でコードが認識されます。この設定では、コードとして認識させるためには、最低でも 3 ボイス以上のコードを演奏する必要があります。このモードはスプリット機能を使用している場合でも使用できます。また、コード認識方法は自動的に「Fingered」に設定されます。

オフ　両方の LED 消灯

鍵盤を演奏してもコードは認識されません。この状態で START/STOP キーを押すと、アカンパニメント・トラックのドラムとパーカッションのみが演奏されます。

SPLITキー

Style Playモード、Song Playモード、Sequencerのバッキング・シーケンス・モードでのキーボード・トラックを設定します。また、アレンジャー機能（伴奏機能）がコードを認識するエリアを指定します。

Note: 伴奏付きの演奏をする場合は、CHORD SCANキーでコードの認識方法を設定する必要があります。

オン（LED 点灯）Lower トラックがスプリット・ポイントより低音域を使用し、Upper 1、Upper 2、Upper 3 トラックがスプリット・ポイントより高音域を使用します。これを**スプリット・キーボード・モード**といいます。初期設定では、スプリット機能が自動的にオンになり、ロワーがコード認識エリアになります。この場合、スプリット・ポイントよりも低音域で押さえた

コードのみがアレンジャーに認識されます。コードとして認識させるのに必要なボイス数は“Chord Recognition”パラメーターで設定できます。

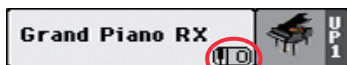
オフ（LED 消灯） Upper 1、Upper 2、Upper 3 トラックが鍵盤全体を使用します。Lower トラックは使用しません。これを**フル・キーボード・モード**といいます。
初期設定では、スプリット・モードをオフにするとコード認識モードが自動的にフル（キーボードの全域でコード・スキャンをするモード）になります。このモードでは、キーボードの全域でコードを認識させることができます。この時、コードとして認識させるには最低でも 3 ボイス以上のコードを演奏する必要があります。

1" このキーを約1秒間押したままにすると、Split Pointウィンドウが表示され、新たにスプリット・ポイントを設定することができます。

トランスポーズ・セクション

これらのキーでトランスポーズを行います。

UPPER OCTAVEキー

Style Playモード、Song Playモード、Sequencerモードのバッキング・シーケンスの場合は、キーボード・トラックのアッパー側の3つのトラック（Upper 1〜3）を同時に、1 オクターブ単位（12半音、最大±3オクターブ）でトランスポーズします。オクターブのトランスポーズ値は、サウンド名の横、または各モードの Mixer/Tuning: Tuningページに常に（オクターブで）表示されています。

両方のキーを同時に押すと、画面内の「PS」と書かれた 箇所で選択しているパフォーマンス、あるいはSTSのオクターブ設定に戻ります。

Sequencer モード（バッキング・シーケンス以外）、Style Record モードの場合は、選択中のトラックが1 オクターブ単位（12半音、最大± 3オクターブ）でトランスポーズします。値は各モードの Mixer/Tuning: Tuningページに常に（オクターブで）表示されています。

SOUNDモードの場合は演奏したノートが1 オクターブ単位（12 半音、最大±3オクターブ）でトランスポーズします。

Note: Style Record モードでは、録音済みのデータにはUPPER OCTAVEは機能しません。

オクターブ・トランスポーズ（各モードの「Octave Transpose」参照）は、表示上の値を変更した場合でも、トラックの “Type” が Drumに設定されたトラックのシーケンス・データには影響がありません（鍵盤で演奏する場合や、レコーディング時は有効）。

− 1 オクターブ下げます。

＋ 1 オクターブ上げます。

SHIFT SHIFTキーを押しながら、UPPER OCTAVEキーを押すと、Style PlayモードMixer/TuningのTuningページに移動することができます。

ヒント: Tuningページでは各トラックに対してトランスポーズをかけることができます。

TRANSPOSEキー

Pa900全体の音の高さを半音単位でトランスポーズします（マスター・トランスポーズ）。トランスポーズの値は、通常、ページのヘッダーに表示します。

STYLE PLAY MT:0 <no chord>

両方のキーを同時に押すと、マスター・トランスポーズが0になります。

Note: MP3ファイルもトランスポーズできます。ただし、トランスポーズの量は－6〜+5半音の範囲に制限されます。この範囲であれば、すべてのキーをカバーしながら、オーディオ品質が極端に劣化することはありません。これ以上トランスポーズを行っても効果はありません。このため、画面にトランスポーズ値として+7を表示している場合でも、MP3は+5半音に制限します。

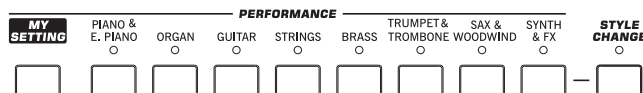
♭ マスター・トランスポーズを半音下げます。

♯ マスター・トランスポーズを半音上げます。

SHIFT SHIFTキーを押しながら、TRANSPOSEキーのどちらかを押すと、GlobalモードTuningのTranspose Controlページを表示させることができます。

パフォーマンスを選択する

パフォーマンスを選択するには、パフォーマンス・セクションにあるキーを使用します。パフォーマンスは、キーボード・トラックにアサインしたサウンドや、Pa900のパネル上のほとんどのセッティングとスタイルをまとめて記憶したものです。

MY SETTING / PERFORMANCE: PIANO & E. PIANO, ORGAN, GUITAR, STRINGS, BRASS, TRUMPET & TROMBONE, SAX & WOODWIND, SYNTH & FX / STYLE CHANGE

マイ・セッティング

マイ・セッティングは、電源をオンにした時に自動的に呼び出されるパフォーマンスです。MY SETTINGキーを押すと、そのパフォーマンスがすぐに呼び出されます。

1" このキーを約 1 秒間押したままにすると、その時のセッティングがマイ・セッティング・パフォーマンスとして保存されます。

PERFORMANCEキー

これらのキーを押すと、Performance Selectウィンドウが表示され、パフォーマンスを選択できます。

各パフォーマンス・バンクには5つのページがあり、各ページには最大8種類のパフォーマンスがメモリーされています。PERFORMANCEキーを繰り返し押すと、バンク内のページが切り替わります。

すべてのパフォーマンスは、Style Play、Song PlayモードでMENUキーを押し、エディット・ページに入り自由にエディットすることができます。

1" これらのキーを約1秒間押したままにすると、Write Performance（パフォーマンスを保存する）ダイアログが表示されます。

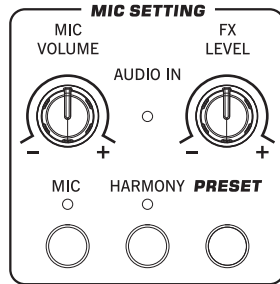
STYLE CHANGEキー

このキーを使ってスタイル・チェンジ機能のオン/オフを切り替えます。

オン パフォーマンスを選択すると、パフォーマンスに記憶されているスタイルに切り替わります。

オフ パフォーマンスを選択しても、それまでのスタイルをそのままキープされ、キーボード・トラックの内容（サウンドやエフェクトなど）のみが切り替わります。

MIC SETTING セクション

オーディオ入力レベルのチェック、マイク入力のボリュームやエフェクト設定、マイクやハーモニー・ボイス・エフェクトのオン/オフ切り替えを行います。

AUDIO IN LED

AUDIO IN端子に入力されたオーディオ信号(マイクまたはライン)のレベルを表示します。表示は3色(緑、オレンジ、赤)で表示されます。常に緑で点灯し、オーディオ信号のピーク時にオレンジになるように入力レベル等の調節をします。決して赤で点灯しないようしてください。

オフ	オーディオ信号が入力されていない状態です。
緑	小〜中レベルのオーディオ信号が入力されている状態です。AUDIO IN 端子の LEFT にマイクを接続している状態で LED があまり点灯しない場合は、MIC GAIN ノブで入力レベルを上げます。ライン・レベルのオーディオ入力のレベル調節を行う場合は、ソース機器(Pa900 にオーディオ信号を送っている機器)のボリュームなどで調整します。
オレンジ	入力されたオーディオ信号がわずかに歪んでいる状態です。ただし、オーディオ信号のピーク時にオレンジが点灯する場合は、適正状態です。
赤	オーディオ信号のレベルが大きすぎてオーディオ信号が全般的に歪んでいる状態です。MIC GAIN ノブやソース機器のボリュームなどで入力レベルを下げてください。

MIC VOLUMEノブ

マイク信号(ボイス・プロセッサー・エフェクトも含みます)の全体的な音量を調整します。これは、画面に表示されるMIC/IN トラックのVolumeで確認することができます。

FX LEVELノブ

ボイス・プロセッサーのディレイ、リバーブ・セクションのボリュームを調整します。

MICキー

マイク入力のオン/オフを切り替えます。オン/オフの状態はマイク・セクションにあるLEDに表示されます。

SHIFT SHIFTキーを押しながら、このキーを押すと、Globalモード Mic:Global Setupページが表示されます。

HARMONYキー

ボイス・ハーモニーのオン/オフ切り替えをします。オンにすると、マイク入力に対してハーモニーを付けることができます。

SHIFT SHIFTキーを押しながらHARMONYキーを押すと、Global モードMic:Harmonyページが表示されます。

PRESETキー

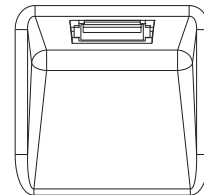
マイク入力からの信号に対するボイス・プロセッサーのプリセットを選択します。

キーを押すと、Voice Processor Preset Selectウィンドウが表示されます。画面のプリセット名をタッチしてプリセットを選択します。

プリセットの各タイプには複数のプリセット・バンクがあり、各バンクは画面のサイド・タブをタッチして選択することができます。各プリセット・バンクには最大8種類のプリセットがメモリーされています。

このキーを約1秒間押したままにすると、Write Voice Processor Presetダイアログが表示されます。

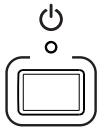
USB ホスト端子

この端子にUSBマス・ストレージ・デバイスを接続します。

USB HOST (F)端子

この端子はUSBタイプA(マスター/ホスト)で、USB 2.0(高速)に対応しています。この端子にUSBメモリーや外付タイプのCD-ROMドライブ、USBハードディスクなどを接続できます。接続したデバイスにアクセスするには、Mediaエディット・モードに入ります。

電源のオン / オフ

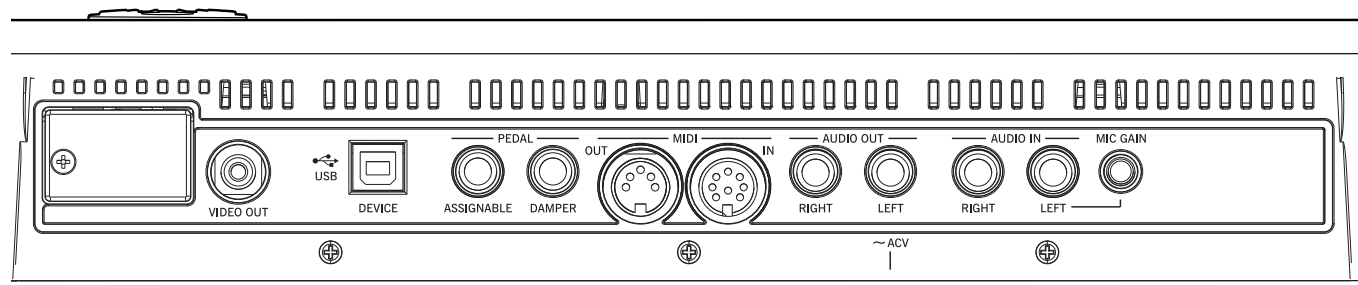
STANDBYキー

電源をオン/オフします。オン時はLED点灯します。オフ時はLEDが消灯しスタンバイ状態になります。

スタンバイ状態からSTANDBYキーを押すと、Pa900の電源がオンになり起動します。この時、ユーザーPCMサンプルを使用したユーザー・サウンドがメモリーされている場合、それらのロードに少し時間がかかることがあります。

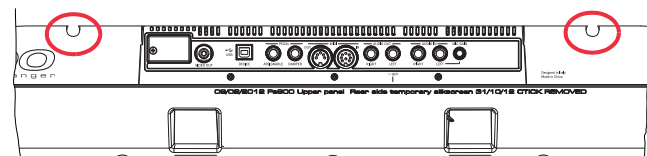
電源オンの状態からSTANDBYキーを約1秒間押したままにすると、電源がオフになりスタンバイ状態になります。

Warning: Pa900は電源オフ時のスタンバイ状態でも電源がつながっています。この状態でPa900の内部に触れることは非常に危険です。Pa900の内部に触れる必要がある場合には、必ず電源ケーブルをコンセントから外した状態で行ってください。

Note: 節電のため、Pa900ではまったく操作されない状態(演奏していなかったり、キーやタッチスクリーンを操作していない状態)が2時間続くと自動的に電源がオフになります。この時、保存されていないデータ(パフォーマンスやスタイル、ソングなど)がある場合、電源オフと同時に消去されてしまいますので、ご注意ください。この設定は、GlobalモードのClock & Powerページで変更できます。

リア・パネル

譜面立て

譜面立て用穴

Pa900には、譜面立てが標準装備されています。譜面立ての足の部分をこの2つの譜面立て用穴に差し込んでください。

ビデオ機能

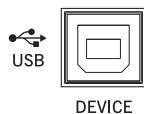
VIDEO OUT端子

Pa900は、テレビやビデオ･モニターを接続できます。

Pa900は、NTSC、PAL、SECAM TVの各規格に対応しています。SECAM TV規格のテレビに接続する場合は、PALを選択します。但しこの場合、画像は白黒になります。

1. Pa900のVIDEO OUT端子にビデオ・ケーブルを接続します。テレビの仕様によって、接続に必要なケーブルの種類が変わりますので、お使いのテレビに合ったケーブルをご使用ください(テレビのビデオ入力端子がコンポジット型の場合はRCA-RCAケーブル、SCART端子を装備したテレビに接続する場合はRCA-SCARTケーブルが必要になります)。また、ビデオ・ケーブルはお近くの電器店等でお求めになれます。
2. Pa900の電源をオンにし、GLOBALキーを押してGlobalモードに入ります。次にAudio & Video : Video Outページに入り、ビデオ規格を選択します(NTSCまたはPAL)。
3. テレビの電源をオンにし、ビデオ入力端子にビデオ・ケーブルを接続し、ビデオ入力が映るように設定や調整をします。
4. 2. で開いた同じページにある“Color”パラメーターで歌詞の表示色と背景色を選択します。

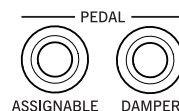
USB 端子

USBデバイスやコンピューターを接続する際に使用します。

DEVICE

USBタイプB(スレーブ/デバイス)端子です。USB 2.0対応です。Pa900をコンピューターに接続し、内部デバイス(SSD)との間でデータ転送が可能です。USB接続をできるようにするには、MediaモードのUSBページでUSB接続をオンにします。

また、Pa900はUSB-MIDI機能に対応していますので、MIDI端子の代わりにUSB端子を使用することもできます。Pa900をコンピューターに接続する場合、各種ドライバーが必要になることがあります。ドライバーはPa900に付属のアクセサリー･ディスクに収録されています。また、コルグ･ホームページからもダウンロードできます。

PEDAL 端子

様々なタイプのペダルを接続することができます。

ASSIGNABLE

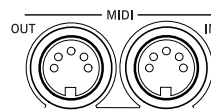
この端子にはエクスプレッション･ペダルなど、連続的に可変するタイプのペダル(コルグEXP-2、XVP-10(別売オプション))や、スイッチ･タイプのペダル(コルグPS-1、PS-3(別売オプション))を接続します。ペダルの設定やキャリブレーション(調整)はGlobalモードのFoot Controllerページで行います。

DAMPER

ダンパー･ペダルを接続します。コルグPS-1、PS-3、DS-1H(以上すべて別売オプション)などのタイプのペダルを接続できます。ペダルの極性やキャリブレーション(調整)は Global モードの Foot Controllerページで行います。

Note: DS-1Hダンパー･ペダルをPa900に接続すると、ピアノ･サウンドでハーフペダリング奏法を演奏することができます。

MIDI 端子

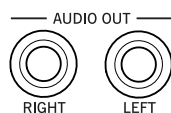
外部コントローラー(マスター･キーボード、MIDI ギター、ウィンド･コントローラー、MIDIアコーディオンなど)、外部音源、シーケンサーを起動させたコンピューターに接続します。

OUT

Pa900の鍵盤、コントローラー、内部シーケンサーで生成したMIDIデータを送信します。この端子を外部音源やコンピューターのMIDI IN端子に接続します。

IN

コンピューターやコントローラーからMIDIデータを受信します。この端子を外部コントローラーやコンピューターのMIDI OUT端子に接続します。

AUDIO OUT 端子

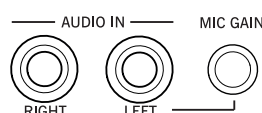
オーディオ信号(サウンド)をミキサー、PAシステム、パワード・モニター、オーディオ・システムに送信するアンバランス型端子です。

LEFT, RIGHT

メインのステレオ出力端子です。最終的なステレオ・ミックスを外部デバイスに出力します。信号をモノラルで出力するには、いずれかに接続します。出力レベルはMASTER VOLUMEノブで設定します。

これらのアウトプット端子には、2本のモノラル・ケーブルを接続します。お使いのミキサーやパワード・モニター(アンプ内蔵モニター・スピーカー)、オーディオ・アンプなどのライン入力やTAPE/AUX入力端子のステレオ入力端子またはモノラル・チャンネルにそれぞれ接続します。なお、オーディオ・アンプなどに接続する場合、PHONO端子には接続しないでください。

これらの出力端子にケーブルを接続すると、内蔵スピーカーの出力がオフになります。この方法でPa900のサウンドをお使いのオーディオ・システムでモニターすることができます。

AUDIO IN 端子

ダイナミック・マイク、別のキーボード/シンセサイザー、ミュージック・プレーヤーなどのオーディオ信号を入力します。入力信号は直接最終段でミックスされます。

LEFT, RIGHT

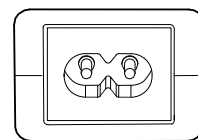
CDプレイヤーやシンセサイザー、ダイナミック型のマイクライン・レベルのオーディオ信号や、ダイナミック型のマイクを接続します。入力端子のオーディオ信号のルーティングやインピーダンスの設定をGlobalモードAudio & Video:Audio Inページの"Input Routing"パラメーターで行います。

- "Input Routing" パラメーターが「Left In to Voice Processor」に設定されている場合、AUDIO IN LEFT 端子にダイナミック・マイクを接続できます。マイクの入力レベルは、フロント・パネルにある AUDIO IN LED を見ながら MIC GAIN ノブで調整します。マイクで入力された信号の出力レベルの調整は MIC VOLUME ノブで行います。
- "Input Routing" パラメーターが「Audio Ins to Direct Out」に設定されている場合、オーディオ入力の LEFT、RIGHT 端子にライン・レベルのオーディオ機器等を接続できます。入力レベルの調整は、フロント・パネルにある AUDIO IN LED を見ながらソース側の機器にあるボリューム等で行います。

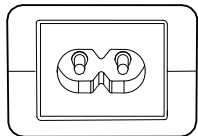
MIC GAINノブ

オーディオ入力のLEFT端子にマイクを接続している場合、このノブで入力の感度を調整できます(0〜+40dB)。また、入力レベルはフロント・パネルにあるAUDIO IN LEDで確認できます(13ページの「MIC SETTINGセクション」参照)。

電源端子

付属の電源コードを接続します。電源コードを接続するとPa900はスタンバイ状態になります。フロント・パネルにあるSTANDBYキーで電源をオンにします。

Warning: Pa900は、電源オフ時のスタンバイ状態のときも電源がつながったままの状態になっています。この状態のままでPa900の内部に触れることは非常に危険です。内部に触れる必要がある場合は、必ず電源コードをコンセントから外した状態で行ってください。

演奏を始める前に

AC電源コードの接続

付属の電源コードをPa900リア・パネルの電源端子に接続します。電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。Pa900はユニバーサル電源アダプターを搭載しているため、使用地域による電圧の違いに関係なく、ご利用いただけます。

1. 付属の電源コードをリア・パネルの電源端子に接続します。

   電源コードを接続するとスタンバイ状態になります。

   Note:電源コードは必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用した場合、故障などの原因となります。

電源のオン/オフ

フロント・パネルにあるSTANDBYキーを押すと、電源がオンになります。起動時の画面が表示されます。

Note: 起動時にユーザー・サウンドで使われるユーザーPCMサンプルを自動的にロードします。ロードには多少の時間がかかることがあります。

電源をオフにするときは、フロント・パネルにあるSTANDBYキーを約1秒間押したままにします。

Warning: Pa900をスタンバイ状態にすると、RAMにあったデータ(Sequencerモードでレコーディングしたソングやエディット内容、コード・シーケンス、サンプルなどで保存をしていないもの)は消去されてしまいます。また、タイム・スライス機能で生成され、保存されていないMIDIグルーブも消去されてしまいます。

これとは別に、内蔵メモリーに保存されているデータ(ファクトリー・データ、ユーザー・サウンド、パフォーマンス、スタイル、マルチサンプル)は保存された状態を維持します。また、保存されているサンプルもそのまま保存された状態をキープします。

音量調整

マスター・ボリューム

全体の音量を調節します。このノブは、内蔵スピーカー、AUDIO OUT端子、PHONES端子の音量を調節します。

Note: まず、中程度の音量から調節を始めてください。徐々にMASTER VOLUMEノブを上げます。

キーボード、スタイル、ソング・ボリューム

BALANCEノブは、以下のようにキーボード・トラック(鍵盤)とスタイル(ACC)やソング、パッドの各トラックの音量バランスを調整します。

- Style Playモードのときは、キーボード・トラックとスタイル、パッド・トラックのバランスを調節します。
- Song Playモードのときは、キーボード・トラックとプレーヤー、パッド・トラックの音量バランスを調節します。

ここでの調整は相対的な音量のコントロールです。全体の音量はMASTER VOLUMEノブで調整します。

このノブを回すと、スライダーが画面に拡大表示され、より細かく調整できます。

また、このノブでキーボード・トラックの音量に影響を及ぼすことなく、スタイルやソングの音量のみを調整することもできます(Global モード Controllers:Hand Controlページの"Balance Control"パラメーター参照)。

Note: このノブによる調整はStyle Playモード、Song Playモードでのみ有効で、Sequencerモードでは無効となります。

X-FADERを使用する

X-FADERは、プレイヤー1と2の相対的な音量バランスをコントロールする際に使用します。

X-FADER

プレイヤー1 　 プレイヤー2

- フェーダーを左いっぱいにすると、プレイヤー1の音量が最大になり、プレイヤー2の音量はゼロになります。
- フェーダーを右いっぱいにすると、プレイヤー1の音量がゼロになり、プレイヤー2の音量は最大になります。
- フェーダーをセンターの位置にすると、プレイヤー1、2の音量が同じレベルになります。

また、X-FADERはどちらのプレイヤーのハーモニー・ソースや、歌詞、スコア、マーカーを選択する際にも使用します。

ヘッドホン

鍵盤の左側(ジョイスティックの下)にあるPHONES出力端子にヘッドホンを接続します。16～200Ω(50Ω推奨)のインピーダンスのヘッドホンが使えます。

Note: ヘッドホンを接続すると、スピーカーからの出力はキャンセルされます。

スピーカー

Pa900にはパワフルで高品位な4つのスピーカーとバスレス型エンクロージャーが搭載されています。アンプは20W+20Wの出力です。

スピーカーの音量はMASTER VOLUMEノブで調整します。

スピーカーの出力オン/オフは、GlobalモードAudio& Video:MP3/Speakerページの“Speakers On/Off” パラメーターで設定します。

オーディオ出力

Pa900を外部アンプ･システムに接続することができます。

詳しくは15ページの「AUDIO OUT端子」を参照してください。

全体的な音量はMASTER VOLUMEノブでコントロールします。

MIDI接続をする

Pa900のサウンドをマスター･キーボードやMIDIギター、ウィンド･コントローラーやMIDIアコーディオン、デジタル･ピアノなどの外部コントローラーを使用して演奏することができます。

また、Pa900をその他のMIDIデバイスやコンピュータ、外部シーケンサーを使って演奏することもできます。

MIDI端子の代わりに、USBデバイス･ポートを使用してコンピュータを接続することができます。

ダンパー･ペダル

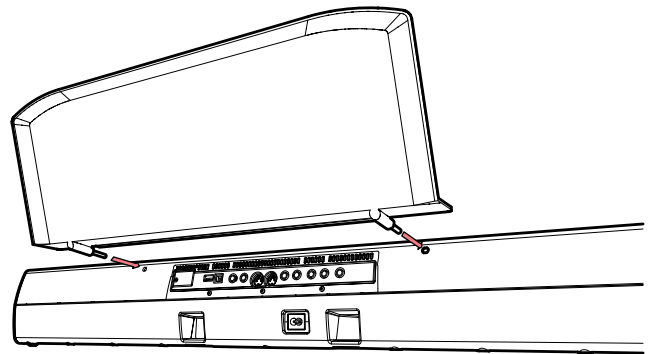
リア･パネルのDAMPER端子に、ダンパー(サスティン)ペダルを接続します。コルグPS―1、PS―3、DS－1Hフット･スイッチ･ペダル、または同等のものをお使いください。

コルグDS―1Hを使用すれば、Pa900のグランド･ピアノ･サウンドでハーフペダリングのテクニックを使用した演奏が行えます。ダンパー･ペダルの極性切替やキャリブレーション(調整)は、GlobalモードのFoot Controllerページで行います。

アサイナブル･ペダル

フットスイッチやエクスプレッション･ペダルを、リアパネルのASSIGNABLE端子に接続できます。コルグPS-1やPS-3フットスイッチやEXP-2エクスプレッション･ペダル、XVP-10ボリューム･ペダル(以上すべて別売オプション)に対応しています。ペダルのキャリブレーション(調整)はGlobalモードのFoot Controllerページで行います。

譜面立て

Pa900には、譜面立てが標準装備されています。図のように譜面立ての足の部分をリア･パネルの2つの譜面立て用穴に差し込んでください。

Note: 譜面立ての取り付けは、譜面立ての足をリア･パネルの譜面立て用穴に対して少し上方向に挿入し、譜面立ての足が本体に当たるところまで押し込んでください。

用語の説明

Pa900のさまざまな機能を説明するために本書で使われる名称や用語を解説します。

ここでは、Pa900のおもな構成要素について概略を記述します。Pa900では、従来のシンセサイザーやワークステーションとは異なった用語を使います。ここで、それぞれの名称や機能を理解すると、Pa900の各部がどのような動作をしてリアルでパワフルな音楽表現を作り出しているのかを知る手助けになります。また、このクイック・ガイドの他の章を理解するためにも大いに役立ちます。

サウンド（SOUND）

サウンドはアレンジャー・キーボードの基本となるものです。サウンドとは演奏楽器の音色（ピアノ、ベース、サックス、ギターなど）のことで、エディット、保存、呼び出し、ロード、またそれらの設定を各トラックに割り当てる（アサイン）ことが可能です。個々のサウンドは、Soundモードで、自動伴奏（スタイル）機能を使わずに、普通のキーボードと同様に演奏することができます。Style Playモード、Song Playモード、Sequencerモードでは、シーケンサー・トラックやスタイル・トラック、キーボード・トラックに、サウンドを自由に割り当てることができます。

スタイル（Style）

自動伴奏（バッキング・パターン）を意味するスタイルは、Pa900アレンジャー・キーボードの真髄を成すものです。スタイルは、最大8つのパート、あるいはトラックで基本構成されています。

ドラム（Drum）

ドラム・トラックでは、標準ドラム・キットによるリズム・フレーズを繰り返し演奏します。

パーカッション（Percussion）

パーカッション・トラックでは、さまざまなパーカッション楽器（コンガ、シェーカー、カウベル、など）のパーカッション・リズム・フレーズを演奏します。

ベースとアカンパニメント（Bass & Accompaniment）

ベース・トラックと、それに加えた他のアカンパニメント（伴奏）・トラック（最大5トラック）が、ドラム・トラックとパーカッション・トラックに同期して、音楽的に関連したフレーズを再生します。これらのトラックで再生されるフレーズは、鍵盤で演奏したコード進行に従って変化します。

各スタイル・トラックには、自由にサウンドを割り当てることができます。

バリエーション（Variation）

各スタイルには4種類のバリエーションがあり、それぞれを曲のAメロやBメロ、サビのように使用できます。各バリエーションは、少しずつ違った形になっています。バリエーション1からバリエーション4になるに従ってアレンジが複雑になり、例えばパート（スタイル・トラック）が増えてきます。これにより、スタイルのオリジナルの「フィーリング」を損なうことなく、よりダイナミックなアレンジの演奏ができます。

フィルインとブレーク（Fill-in & Break）

ドラマーが演奏中に、例えば曲中のバース（序奏）からコーラス（主題）に移るときに、ビートに強弱をつけて繰り返し調子になり過ぎないよう、時々「フィル（おかず）」を入れることがあります。

Pa900には各スタイルにつき4種類のフィルインがプログラムされています。これらは、バリエーションを選択するとそれに応じたフィルインが自動的に呼び出されます（オート・フィル機能）。

フィルインはドラムだけだったり、ドラムとインストルメントだったり、さらには無音の「ブレイク（Break）」だったりします。

イントロとエンディング（Intro & Ending）

それぞれのスタイルには、演奏を完成させるイントロとエンディングが用意されています。ハーモニーを生かしコード・チェンジを含めた長短のイントロやエンディングとコードを固定したイントロとエンディングが用意されています。また、クイック・エンディング3のような「カウント・イン（Count-in）」スタイルのイントロも用意されています。

パッド（Pad）

パッドはシングル・サウンドやシングル・トラックのパターンのようなもので、専用パッド・キーを押して発音します。

パッドは単発のサウンドを発音させたり、演奏中のスタイルやスタンダードMIDIファイルの短いシーケンス（フレーズ）を繰り返しループ再生するのに使用します。シーケンスは、コード認識機能の結果に応じてフレーズの内容が変化します。

キーボード・トラック

自動伴奏（バッキング・パターン）を意味するスタイル・トラックに対してに、鍵盤で最大4つのパートをリアルタイムに演奏することができます。

各キーボード・トラックは、特定の鍵盤範囲、あるいはベロシティ範囲で演奏できるように設定できます。

通常は3つのパートをスプリット・ポイントの右側（アッパー）に、1つパートを左側（ロワー）に割り当てます。これにより、アッパーのサウンドを重ねて演奏することができます。

スプリット・ポイントは好きな位置に設定できます。

これらのキーボード・トラックは、スタイルに合わせて演奏する以外にも、プレーヤーと合わせて演奏することができます。

シングル・タッチ・セッティング（STS）

シングル・タッチ・セッティング は、キーボード・トラックに割り当てるサウンド、音量、パン、エフェクトと言った設定情報のセットを意味します。

通常、スタイルを再生しながら、STSを使って手弾きパートを演奏します。STSはスタイルごとに関連付けられている点で、スタイルに属していると見なせます。各スタイルごとに最大4個までSTSを記憶す

ること可能で、演奏中にSTSスイッチを切り替えることで、瞬時にキーボード・トラックの設定を切り替えることが可能です。

パフォーマンスと機能は似ていますが、パフォーマンスでは、一旦パフォーマンスを選択した後にSTSを選択すると、パフォーマンス設定はSTS設定に入れ替わってしまい、再びパフォーマンスを選択するには、画面上のパフォーマンス表示領域をタッチする、あるいはパネルのパフォーマンス選択スイッチを押した後、パフォーマンス選択一覧画面を経由してからでないと、パフォーマンスを選択することはできません。そういった意味でリアルタイム性に少し欠けます。

STSでもパフォーマンス同様、「マルチ・パッド」や「アンサンブル機能」の設定も個別に記憶させることが可能です。

アンサンブル(Ensemble)

アンサンブル機能をオンにしたときは、キーボード・トラックで単音を弾くと、そのコードに合わせて自動的にアンサンブル(和音)を付けます。例えば、指一本によるメロディー演奏に対して、自動的にハーモニーを付けて演奏することができます。

アンサンブル機能では、演奏中のコードから、どの音を追加するかを判断し、アンサンブルのパラメーターにより、単純な音のハーモニーからブラス・セクションのフル・ハーモニー、さらにはマリンバのトリルまで、追加するタイプを選択することができます。

パフォーマンス(PERFORMANCE)

パフォーマンスには、さまざまな設定が入っています。1つの設定の中に、スタイル(推奨するサウンドを含む)、キーボード・トラック(推奨するなサウンドを含む)、テンポ、トランスポーズ、エフェクト、その他の情報が含まれます。

パフォーマンスの設定は、パフォーマンス・バンク内に保存することができます。また、ソングブック機能を使って保存することもできます。

シーケンサー(SEQUENCER)

シーケンサーはレコーダーと同様に、演奏を録音、再生することができます。Pa900のシーケンサーは、録音前に選択するモードで機能が変わります。

バッキング・シーケンス・モードでは、スタイル・トラックと鍵盤演奏やパッド演奏を、それぞれを個別のトラックに同時に録音できます。スタイル・プレイでのリアルタイム演奏をそのまま録音するので、白紙の状態から音符情報を1つずつ記録していく方法に比べて、非常に速くシーケンサーへソングを録音することができます。

マルチトラック・シーケンサー・モードでは、個別に1トラックずつ録音する、通常の16 トラック・シーケンサーとして使えます。

プレーヤー

スタンダードMIDIファイルやMP3ファイルは、プレーヤーで再生することができます。

ロゴ・マーク

Pa900のフロント・パネル上にはロゴ・マークが直列に並んでいます。それぞれのロゴの内容を簡単に説明します。

ジェネラルMIDI(GM)は、音色配列やそのコントロール方法を報通しかし、異なるメーカー間のシンセサイザーや音源モジュールなどの機器を使用しても、同様のサウンドになるように策定された規格です。例えば、GM対応機器を前提に制作され、GM フォーマットで保存された曲データは、Pa900でも正しく再生できます。

ジェネラルMIDI2は、これまで128種類のサウンドと1種類のドラム・キットだったGMフォーマットを拡張し、256種類のサウンド、9種類のドラム・キットを内蔵しています。

Pa900のパワフルな仕様を使うことができるように、音、機能、使いやすさなどすべてが、RXテクノロジーというコンセプトに基づいて設計されています。

ディファインド・ニュアンス・コントロール(DNC)は、コルグ独自のパワフルな音源システムをより緻密にコントロールするテクノロジーです。鍵盤を弾く強さ(キーボード・ベロシティ)やその他のコントローラーを使用して、繊細なニュアンスも逃さず引き出した演奏ができます。

タッチビューは、マウスやボタンなどの物理的デバイスの代わりに、画面をタッチして操作ができる先進のテクノロジーです。サウンドやスタイル、パラメーターなどをコントロールするボタン類を探すことなく、画面でダイレクトに操作できる分りやすさが特長です。

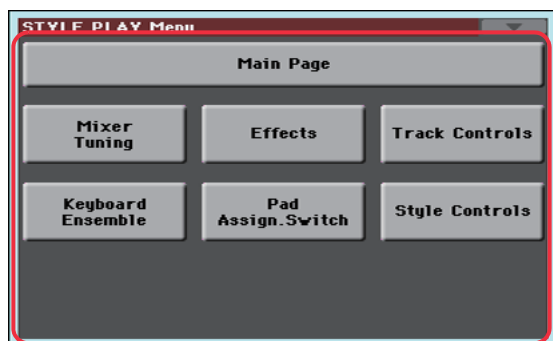
Pa900 には、リバーブ、ディレイ、コンプレッション、さらには3パートのボーカル・ハーモニーといった、プロフェッショナル用のさまざまなボーカル・エフェクトが搭載されています。リバーブを除いて、こうしたボーカル・エフェクトはすべて、ボーカル・プロセッシング・テクノロジーで有名なTC-Helicon™によるものです。

インターフェイスの基本

カラー・タッチビュー・グラフィカル・ユーザー・インターフェイス

Pa900は、コルグ独自の使いやすいタッチビュー・グラフィカル・インターフェイスを採用しています。画面に表示されるメニューやボタンなどをタッチすることにより、ページやタブ、パラメーターを選択したり、パラメーターの設定などを変更することができます。ここでは、画面に表示される基本的なメニューやボタンなどのオブジェクトをご紹介します。

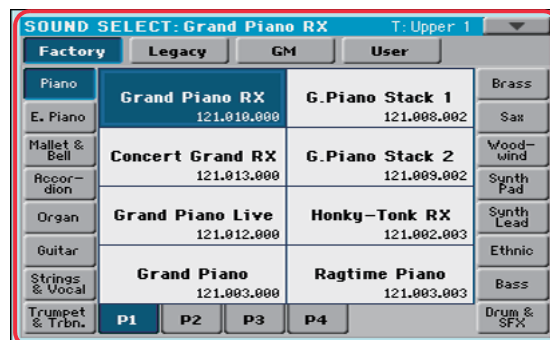
メニューとセクションについて

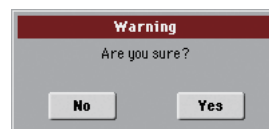
パラメーターなどが入っている各ページは、カテゴリーごとに分けられています。MENUキーを押すと、各ページのカテゴリーを選択できるエディット・メニューが表示されます。

ページ

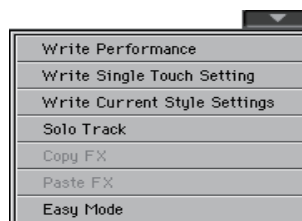
各パラメーターは、ページごとにグループ化されています。画面下部にあるタブをタッチすると、パラメーターで再分類された各タブ・ページが表示されます。

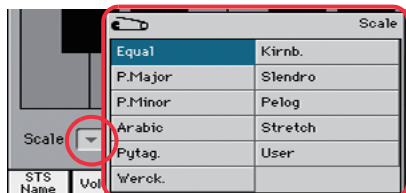
オーバーラップ・ウィンドウ

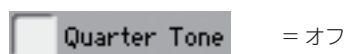
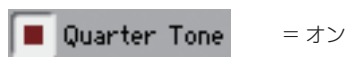
スタイル・セレクトまたはパッド・セレクトやグローバル、メディア、歌詞などの画面は、その時表示されている画面にオーバーラップして表示されます。

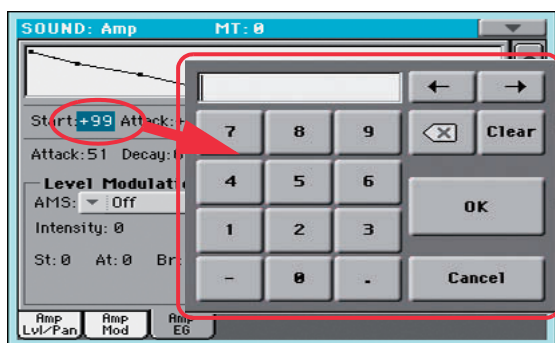
ウィンドウでアイテムを選択するか、EXITキーを押すと、現在のウィンドウが閉じて、隠れていた下のページが表示されます。（下図はサウンド・セレクト画面です。）

ダイアログ・ボックス

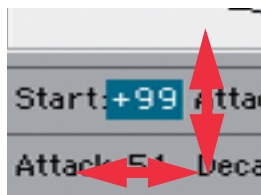
オーバーラップ・ウィンドウと同じように、現在のページの上にダイアログ・ボックスをオーバーラップして表示します。ダイアログ・ボックスの指示に従ってボタンをタッチすると、ダイアログ・ボックスは閉じます。

ページ・メニュー

各ページの右上隅にあるボタンをタッチすると、現在のページに関係するページ・メニュー・コマンドが表示されます。そこからコマンドを選択する（タッチする）と、ページ・メニュー・コマンドが閉じます。また、画面の他の部分（例えば、ページ・メニュー・コマンドの外側）をタッチしても、ページ・メニュー・コマンドは閉じます。

ポップアップ・メニュー

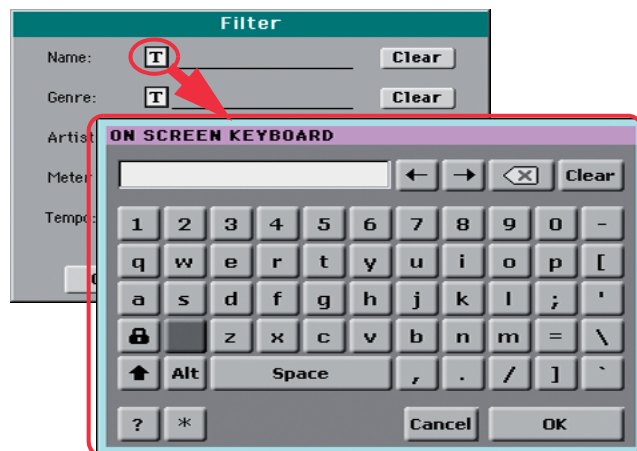
パラメーター名の横に三角が表示されたときは、それをタッチすると、ポップアップ・メニューが表示されます。そこからパラメーターを選択する（タッチする）と、ポップアップ・メニューが閉じます。また、画面の他の部分（例えば、ポップアップ・メニューの外側）をタッチしても、ポップアップ・メニューは閉じます。

チェック・ボックス

これは、オンとオフのボタンです。このボックスをタッチしてチェックを付けるとオン、チェックを外すとオフです。

数値フィールド

数値に下線が表示されているときは、選択（反転表示）した後、それをもう一度タッチすると、数字入力パッドが表示されます。

バーチャル・テンキー画面は、コンピューターのテンキーと同様に動作します。

または、数値フィールドをタッチし続けます。この状態で指を上下（または左右）に移動（ドラッグ）することで、値を増減することもできます。

Style Playモード、Song Playモード、Sequencerモードのメイン・ページでテンポを変えるときも同様に使用できます。

テキスト・エディット・ボタン

名前の横に、**T**（テキスト・エディット）ボタンがあるときは、それをタッチしてテキスト・エディット・ウィンドウを表示させ、名前を入力したり変更したりします。

バーチャル・キーボード画面が、コンピューターのキーボードと同様に動作します。文字以外の記号は、その時入力する文字フィールドのタイプによって使用できる記号が変化します。

リストとスクロール・バー

ディスクのファイルやその他のデータは、リストで表示します。スクロール・バーを使ってスクロールし、リストの内容を確認することができます。また、VALUEダイヤルでもスクロールすることができます。

リスト　スクロールバー

リストからアイテムを選択する時に、SHIFTキーを押しながらスクロールバーの上下にある矢印ボタンをタッチすると、表示されているリストの前後の頭文字が含まれるアイテムのリストが表示されます。これは、同じ頭文字のアイテムが多く続く場合に、その前後の頭文字のアイテムを探す時などに便利です。

バーチャル・スライダー

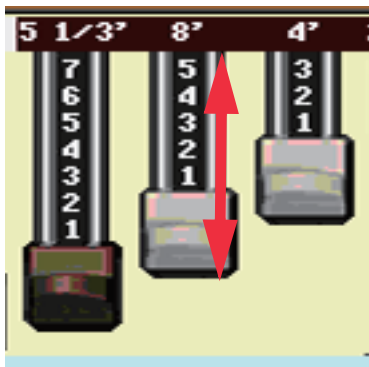
値を変更するバーチャル・スライダーをタッチして選択(反転表示)し、VALUEダイヤルを使って値を変更します。また、スライダーをタッチしたまま上下に移動(ドラッグ)することで、値を変えることもできます。

バーチャル・ノブ

バーチャル・ノブをエディットするには、エディットしたいノブを選択し、VALUEダイアルを回します。あるいは、エディットしたいノブをタッチしたまま、指を画面上の上(または右)になぞるとノブが時計回りに、指を画面上の下(または左)になぞるとノブが反時計回りに回ります。

バーチャル・ドローバー

バーチャル・ドローバーの設定を変更するには、変更したいドローバーをタッチして上下にスライドさせます。

または、設定を変更したいドローバーをタッチし、VALUEダイアルを回して変更することもできます。

アイコン

ファイル、ソング、フォルダの認識用に、いろいろなアイコンが用意されています。例えば、

 フォルダ

 スタイル・バンクのファイル

 スタンダード MIDI ファイル

モード

Pa900のページは、機能によっていろいろなモードに分類されています。Style Play、Song Play、Sequencer、Soundの各モードに入るときは、パネルのMODEセクションで対応するキーを押します。

操作モードごとにカラー・コードが異なり、一目でどのモードかがわかるようになっています。

GlobalモードとMediaモードの2つは特別です。他のモードを選択していても、それらのモードが有効のまま、上記の2つのモードを選択し、エディットすることができます。

RecordモードはStyle Playモード、Sequencerモードに入っている時に使用でき、新たにスタイルやソングを作成することができます。Recordモードは、Soundモードからもアクセスでき、サンプルのエディットを行うことができます。

反転表示のパラメーターや値

パラメーターや値に対し、何かの操作や変更をする場合、まずは対象とするパラメーターや値などを選択し、反転表示にします

♩= 88

グレー表示(無効)のパラメーター

パラメーターやコマンドが無効になっている場合は、グレー表示になっています。このパラメーターやコマンドは選択できない(エディットできない)ことを意味します。設定によって関係しないパラメーターがあるときにも、このようなグレー表示に変わります

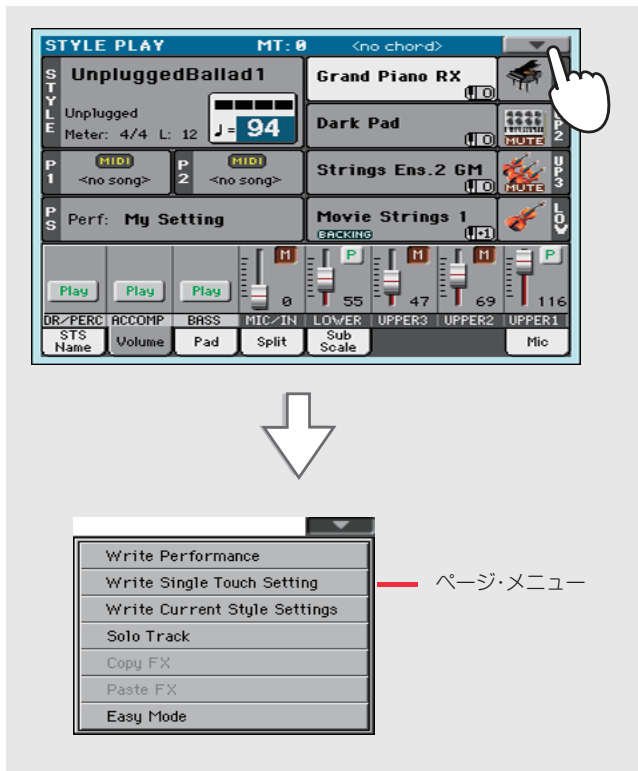
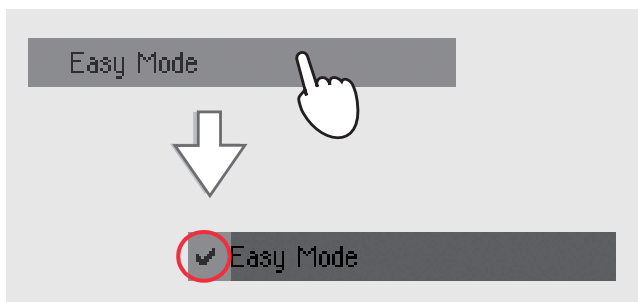
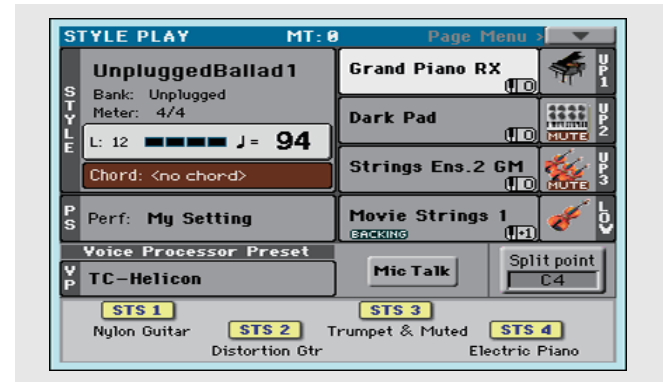
ショートカット

パネルのSHIFTキーと他のキーを押しながら、画面のボタンを同時をタッチすることで、それぞれに関するページをダイレクトに表示させることができます。

イージー・モード

これまでアレンジャー(自動伴奏)キーボードをお使いになったことがない場合には、イージー･モードに切り替えることをおすすめします。イージー･モードでは、シンプルな操作で、スタイル演奏やソング演奏をすることができます。

イージー・モードに入る

画面の右上隅の小さな四角形をタッチして、ページ･メニューを開きます。

ページ･メニューの“Easy Mode”を選択(タッチしてチェックを付ける)してください。

これでイージー･モードに入り、画面にはイージー･モードで有効なパラメーターだけを表示します。

イージー・モードを終了する

このモードを終了するときは、モードに入るときと同じようにして、ページ･メニューの“EasyMode”を無効(タッチしてチェックを外す)にしてください。

スタイル・プレイ・ページの表示内容

このページ画面は、STYLE PLAYキーを押すと表示されます。

Note:

- サウンド(音色)は右手用に3つ(アッパー1、2、3)、左手用に1つ(ロワー)になります。それらの名前は、画面の右側に省略形でUP1、UP2、UP3、LOWと表示します。
- 右手用(アッパー)サウンドと左手用の(ロワー)サウンドはスプリット・ポイントで設定します。
- パフォーマンスとシングル・タッチ・セッティング(STS)は、サウンドの組み合わせです。スタイルが変更されると同時に、鍵盤のサウンドもすべて切り替わります。
- スタイルを選んで、アカンパニメント・パターンの音楽のスタイルを変えてください。

ソング･プレイ･ページの表示内容

このページ画面は、SONG PLAYキーを押すと表示されます。

Notes:

- サウンド(音色)は右手用に3つ(アッパー1､2､3)､左手用に1つ(ロワー)になります｡それらの名前は､画面の右側に省略形でUP1､UP2､UP3､LOWと表示します｡
- 右手用(アッパー)サウンドと左手用の(ロワー)サウンドはスプリット･ポイントで設定します｡
- パフォーマンスとシングル･タッチ･セッティング(STS)は､サウンドの組み合わせです｡選ぶだけで鍵盤のサウンドがすべて切り替わります｡
- 現在選ばれているスタイルまたはソング･ブックに登録されているシングル･タッチ･セッティング(STS)が使用可能になります｡
- Pa900は2基のプレイヤーを内蔵し､2つのソングを同時に再生することができます｡2つのソングのミックスはX-FADERを使って調整します｡
- 画面上のソング名をタッチすると､ソングを選ぶ画面が表示されます｡これは､パネル上のSELECTキーを押しても同じ操作が行えます｡また､各プレイヤーにはそれぞれ独立したSELECTキーやトランスポート･コントロール(再生や停止などのコントロール)が装備されています｡

歌詞ページの表示内容

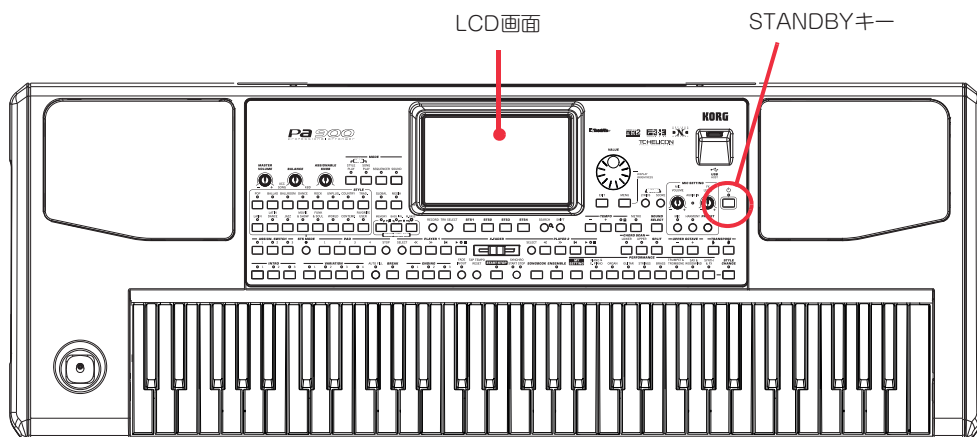
このページ画面は、Song PlayモードやStyleモードでLYRICキーを押すと表示されます。

Note:

- 元のページに戻るときは、パネルの EXIT キーを押します。
- プレーヤー1と2を X-FADER で切り替えると、表示している歌詞もそれに合わせて切り替えることができます。

クイック・ガイド

電源をオンにしましょう

Pa900の電源をオンにしてみましょう。LCD画面にメイン・ページが表示されます。

電源をオンにして、メイン・ページを表示する

1 **フロント・パネルにあるSTANDBYキーを押して、Pa900の電源をオンにします。**

電源をオンにすると初期画面が数秒間表示され、Style Playモードのメイン・ページが表示されます。

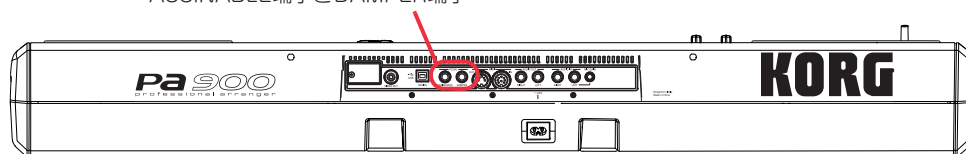
2 **電源をオフにする場合は、STANDBY キーを約１秒間押したままにします。そして、画面が暗くなったらキーを離します。**

STANDBYキー約1秒間を押すと画面が暗くなります。この時点で電源をオフにする処理が始まります。この処理は少し時間がかかる場合があります。この間に電源コードをPa900やコンセントから絶対に外さないでください。

ダンパー・ペダルの接続とキャリブレーション（調整）について

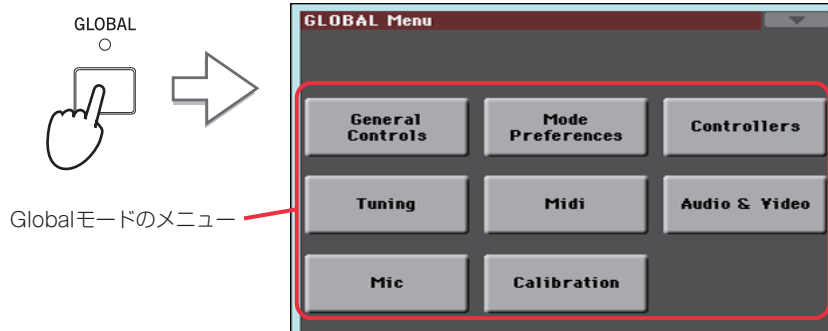
ピアノ・サウンドの演奏には、ダンパー・ペダルは欠かせません。Pa900のリアパネルのDAMPER端子にコルグPS-1、PS-3、またはDS-1Hを接続します。

DS-1Hはペダルを徐々に踏んだり離したりすることで効果が変わるハーフ･ペダルに対応しています。Pa900のサウンド「Grand Piano RX」でその違いを確かめることができます。

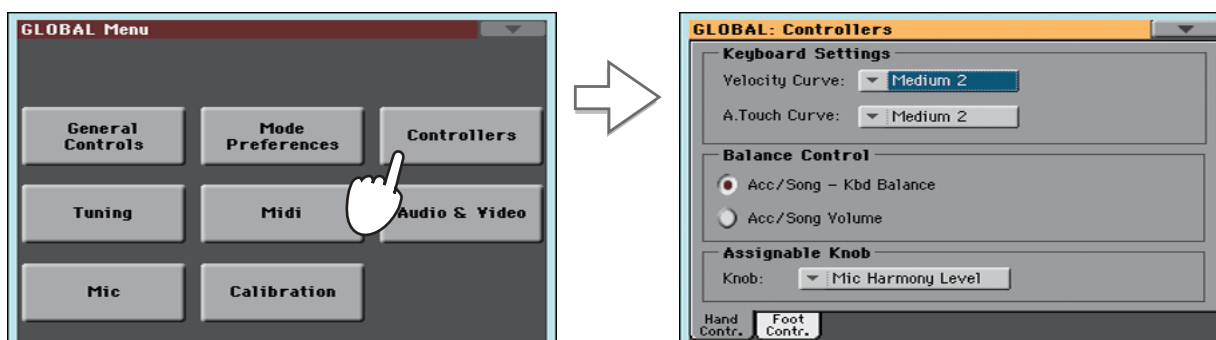
ASSINABLE端子とDAMPER端子

ダンパー・ペダルの設定をする

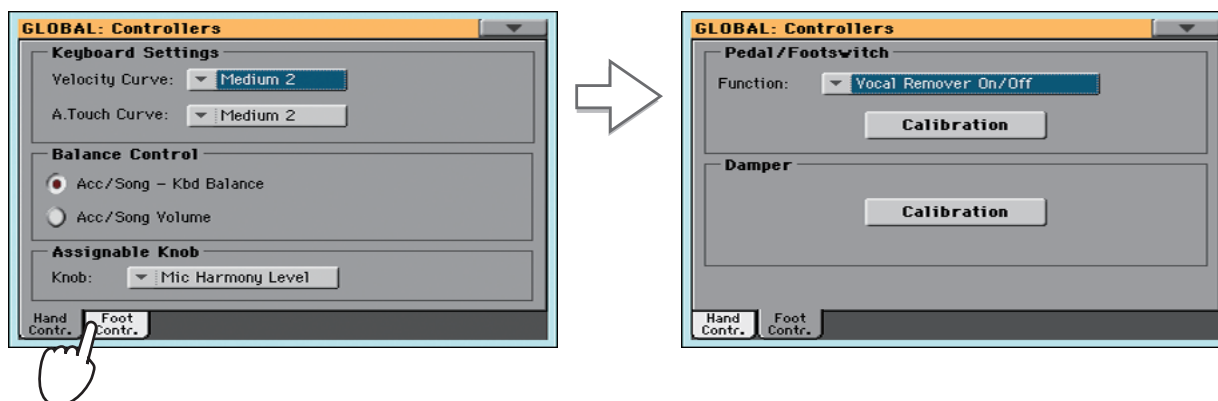
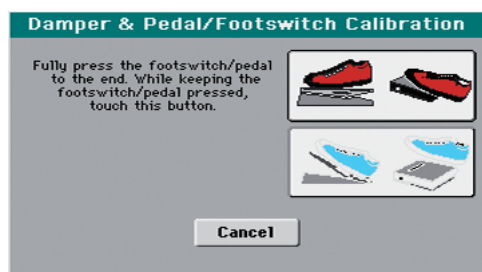
ダンパー・ペダルのキャリブレーション（調整）を行うことで、ペダルの機構的特性をフルに活用することができます。コルグ以外のブランド製のダンパー・ペダルは、必ずしもす同じ特性で設計されているわけではありません。キャリブレーションや極性を設定する必要があります。また、ペダルの極性が会っていないと、通常とは逆の動作、つまりペダルを踏むとサスティンが止まり、ペダルから足を離すとサスティンがかかる状態になってしまいます。

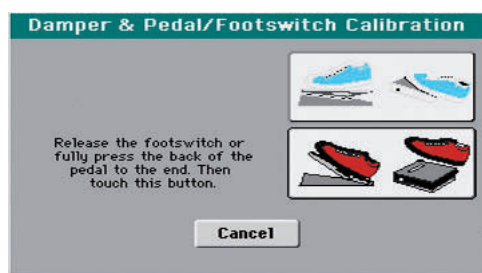
1 ダンパー・ペダルをPa900のリアパネルのDAMPER端子に接続します。

2 GLOBALキーを押してGlobalモードに入ります。

Globalモードでは、ダンパー・ペダルの設定パラメーターの他に、マスター・チューニング、日付や時刻といった設定も行えます。このモードは他のモードとは異なりページ間の関連はなく、各ページとも独立した項目を設定します。

3 Controllersボタンをタッチして、Globalモードのコントローラー・セクションに入ります。

コントローラー・セクションに入って何も操作をしていない場合は、このセクションの先頭ページであるHand Controllerページが表示されます。

4 Foot Contr.タブをタッチしてFoot Controllerページを開きます。

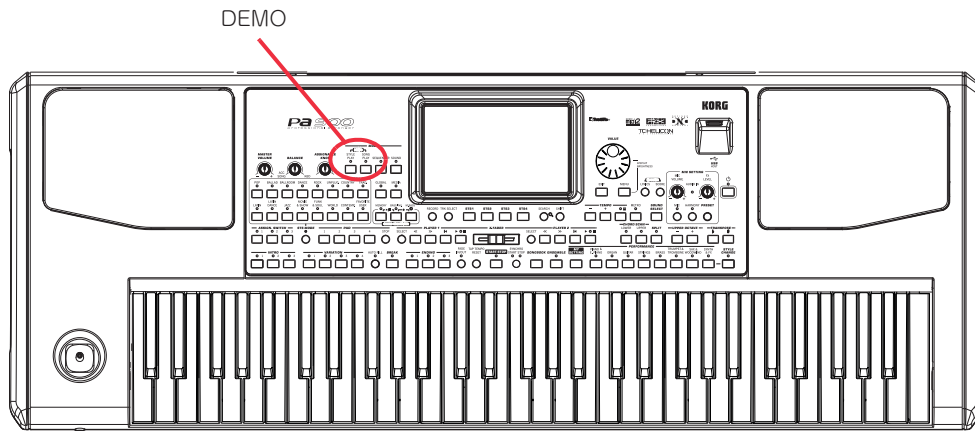
Foot Controllerページでダンパー・ペダルやアサイナブル・ペダル、フットスイッチの設定を行います。

5 CalibrationボタンをタッチしてDamper & Pedal/Footswitch Calibrationダイアログを表示します。

6 ダンパー・ペダルを完全に踏み込んだまま、Pushボタンをタッチしてペダルを踏み込んだ状態（ペダルの踏み込み幅の最大値）を記憶させます。

7 ダイアログが表示されましたら、ペダルから足を離します。

8 Pushボタンをタッチして、ペダルから足が離れている状態（ペダルの踏み込み幅の最小値）を記憶させます。

ここでペダルが正しく動作しているかどうかを確かめます。正しく動作していない場合は、この手順をもう一度行います。

9 EXITキーを押して元のモードに戻ります。

デモ・ソングを聴いてみましょう

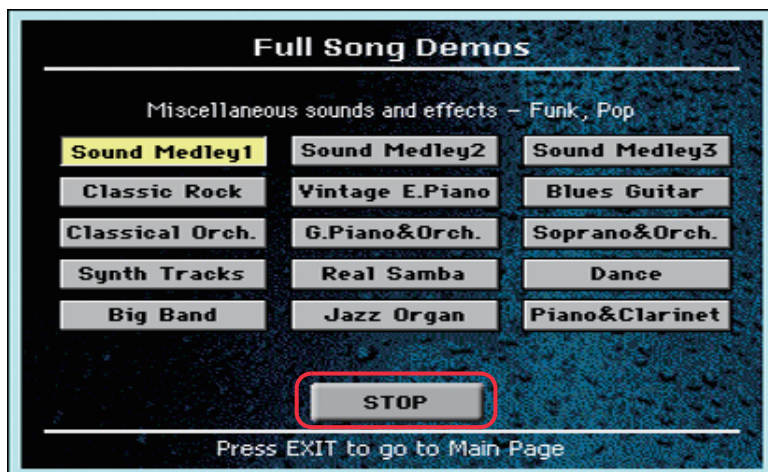
Pa900の特長を活かした内蔵デモ・ソングを聴いてみましょう。デモ・ソングは数曲入っています。

デモ・ソングを再生/停止する

1 STYLE PLAYキーとSONG PLAYキーを同時に押します。

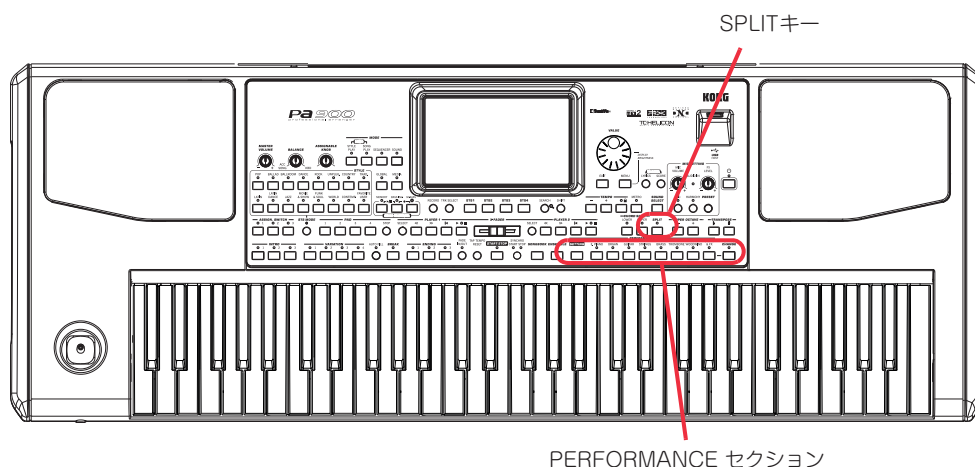
それぞれのキーのLEDが点滅し、デモ・モードに入ります。

デモ・モードに入ってから、何もキー操作をしないと、すべてのデモ・ソングを再生します。

2 特定のデモ・ソングを聴きたい場合は、画面上で聴きたいデモ・ソングを選択します(Full Songs、Solo Instruments、Stylesのいずれか)。

3 デモ･ソングを停止するには、画面にあるSTOPボタンをタッチします。

4 モード･キーのいずれかを押すと、デモ･モードが終了します。

サウンドの演奏

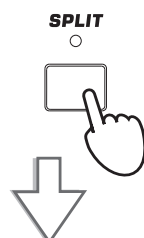
Pa900は最大3つのサウンドを重ねて演奏することができます。また、スプリット設定を使用すると、右手で最大3つのサウンド(アッパー1、2、3)、左手で1つのサウンド(ロワー)を演奏することができます。

演奏するサウンドを選ぶ

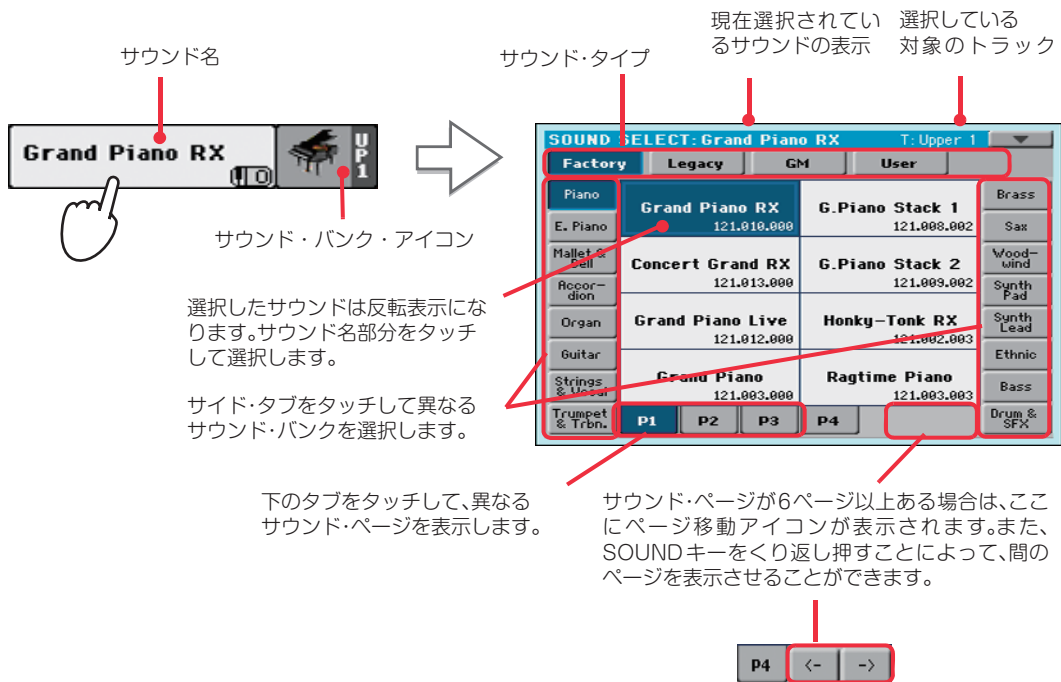
1　STYLE PLAYキーを押して、Style Playモードに入ります。

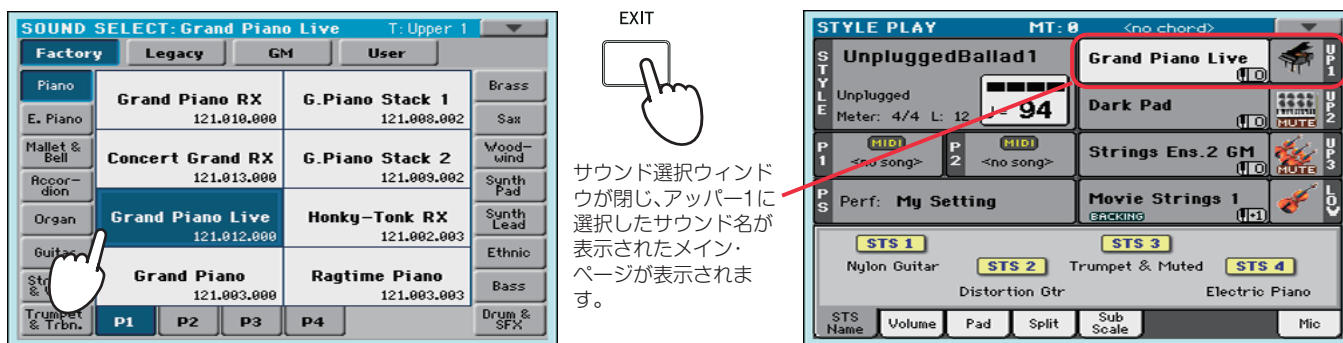
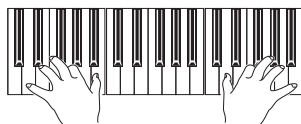
現在選ばれているトラックは、白い背景で表示します。この図では、アッパー1のトラックが有効になっています。もし、選ばれていないときは、画面のUP1のトラックを一度タッチして有効にします。

バンク・アイコンの上にMUTEアイコンが表示されていなければ、アッパー1　のトラックは演奏できる状態です。ミュートに設定している場合は、バンク・アイコンを押して、演奏できる状態にします。

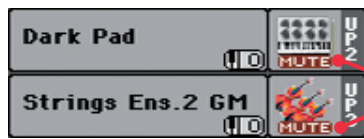
2　鍵盤の全音域を使って演奏する場合は、フル・アッパー・モードになっていることを確認します(SPLIT LEDが消灯)。鍵盤のモードがスプリット・モード(2つのパート)になっているときは、コントロール・パネルのSPLITキーを押してSPLIT LEDを消灯させます。

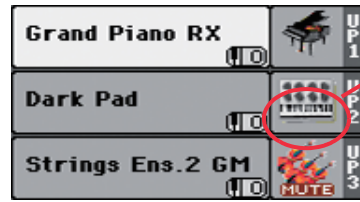
Note: アッパー2とアッパー3トラックがミュートになっていることを確認してください。複数のサウンドを出力するときや、トラックの音を消す方法については、35ページも参照してください。

3 **下図のように画面のアッパー1トラック表示をタッチして、サウンド選択ウィンドウを開きます。**

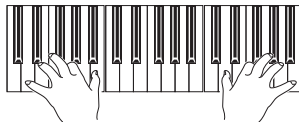
Note: 新しいサウンドを割り当てるトラックをタッチし、SELECTION セクションにある SOUND キーを押して、サウンド・セレクト画面を開くこともできます。

4 **サウンド選択ウィンドウでサウンドを選択(反転表示)したら、EXIT キーを押してウィンドウを閉じます。**

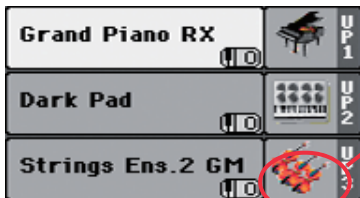
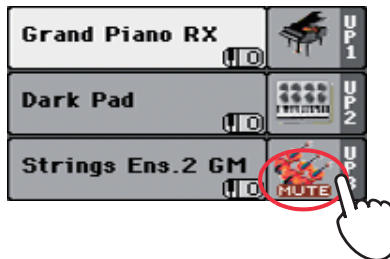
サウンド選択ウィンドウが閉じ、アッパー1に選択したサウンド名が表示されたメイン・ページが表示されます。

5 **鍵盤を弾いて演奏します。**

Note: セレクション画面は選択が終わると自動的に閉じるようにすることもできます。Global モード内の Interface ページにある"Display Hold"チェック・ボックスのチェックを外します。

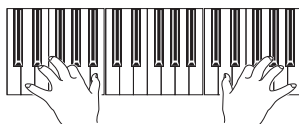
同時に複数のサウンドで演奏する

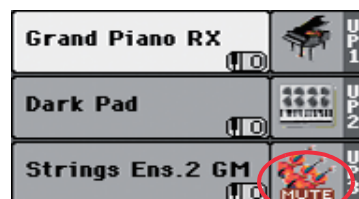
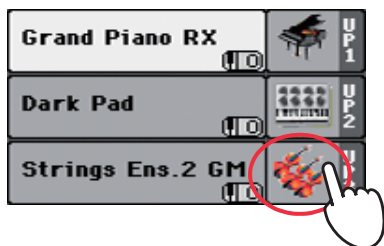
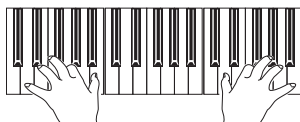
異なる3つのサウンドをアッパー・トラックに重ねて演奏することができます。

アッパー2、アッパー3のバンク・アイコン表示に MUTE アイコンを表示している場合は、消音されていて、これらのトラックのサウンドは聞こえません。

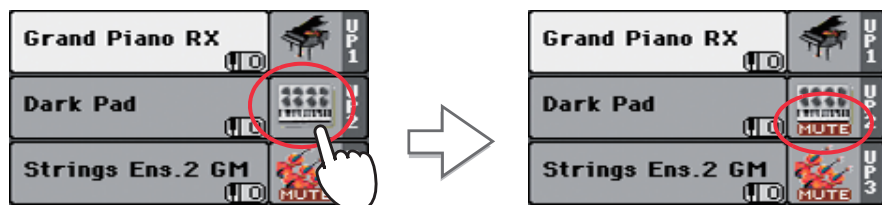
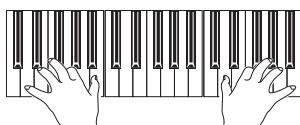
1 **アッパー2トラックの MUTE アイコンをタッチしてミュート(消音)を解除し、演奏時にアッパー2トラックのサウンドを出力します。**

この部分をタッチして、MUTE アイコンを消し、ミュートを解除した後で演奏すると、アッパー2トラックのサウンドを聴くことができます。

2 **鍵盤を弾いて演奏します。**

“Dark Pad”(アッパー2トラックに割り当て)と“Grand Piano RX”(アッパー1トラックに割り当て)が重なったサウンドを演奏します。

3 **アッパー3トラックの MUTE アイコンをタッチしてミュート(消音)を解除し、演奏時にアッパー3トラックのサウンドを出力します。**

この部分をタッチして、MUTE アイコンを消し、ミュートを解除した後で演奏すると、アッパー3トラックのサウンドを聴くことができます。

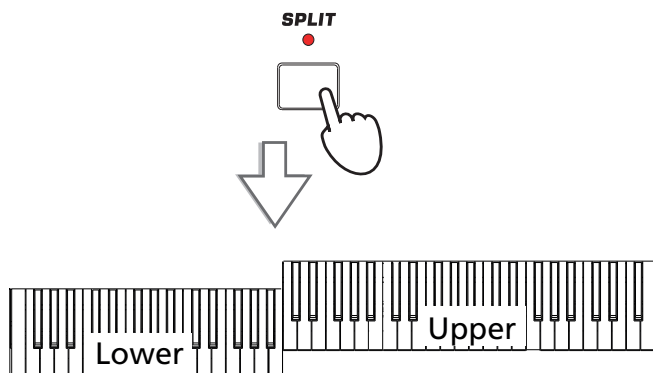
4 **鍵盤を弾いて演奏します。**

“String Ens.2 GM”(アッパー3トラックに割り当て)、“Dark Pad”(アッパー2トラックに割り当て)と“Grand Piano RX”(アッパー1トラックに割り当て)が重なったサウンドを演奏します。

5 **アッパー3をタッチして、再度アッパー3トラックをミュート(消音)に設定します。**

6 **鍵盤を弾いて演奏します。**

“String Ens.2 GM”(アッパー3トラックに割り当て)はミュートされサウンドが聞こえなくなります。再び、アッパー1とアッパー2のサウンドのみの演奏になります。

7 **アッパー2をタッチして、再度アッパー2トラックをミュート(消音)に設定します。**

8 **鍵盤を弾いて演奏します。**

“Dark Pad”(アッパー2トラックに割り当て)はミュートされサウンドが聞こえなくなります。再び、アッパー1のサウンドだけの演奏になります。

右手と左手で異なったサウンドを演奏する

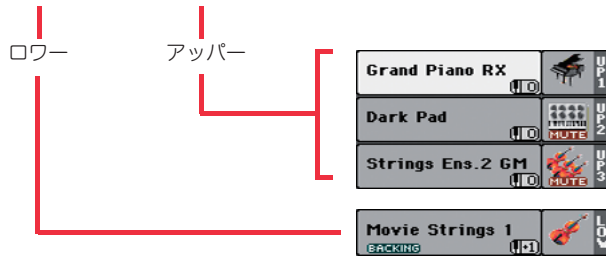
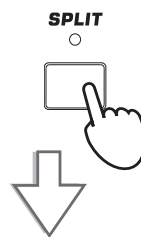
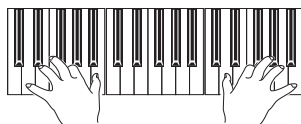
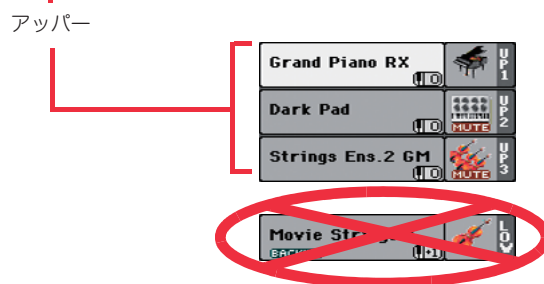
Pa900では、右手で最大3つのサウンド、左手で1つのサウンドを演奏することができます。

1 **SPLITキーを押してLED点灯させ、鍵盤をロワー(左手)とアッパー(右手)のパートに分けます。**

2 **ロワー・トラックを演奏できる状態に設定します。**

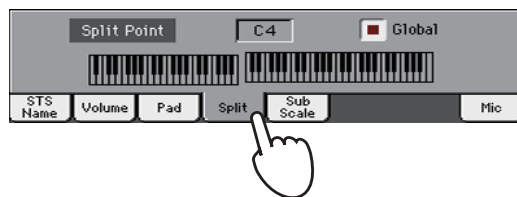
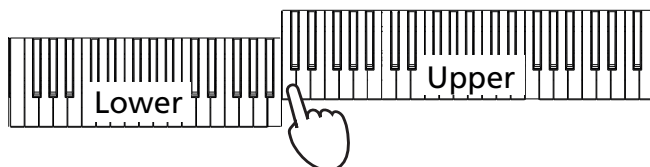
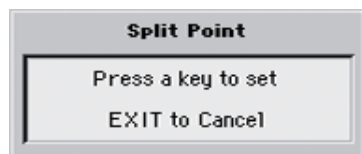
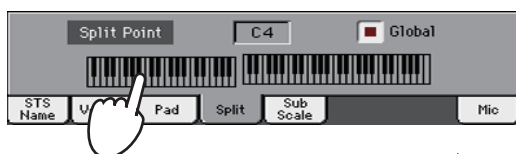
ミュートしているときは、ここをタッチして MUTE アイコンを消去します。

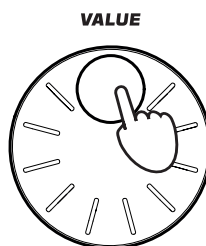
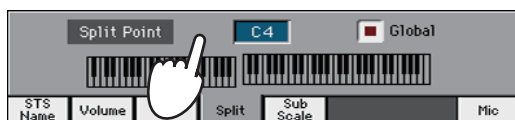
ベース＆ロワー・バッキング機能がオンになっているときは、スタイルは再生されません。ロワー・トラックはつねに演奏できる状態です

3 鍵盤を弾いて演奏します。

鍵盤が2つのパートに分割され、それぞれで異なったサウンドで演奏できます。

4 SPLIT キーを押して LED 消灯させ、鍵盤をアッパー・トラックのみの設定 (フル・アッパー・モード) に戻します。

5 鍵盤を弾いて演奏します。

鍵盤のどこを弾いても、アッパー・トラックのサウンドで演奏できるようになります。

スプリット・ポイントを変更する

選択したスプリット・ポイントを任意の位置に設定することができます。

1　画面のSplitタブをタッチしてスプリット・ポイント・パネルを表示させます。

2　画面上のキーボードをタッチし、アッパー・セクションの最低音にしたいノート（音）を鍵盤上で指定します。

ⓘ ヒント：SHIFTキーを押しながらSPLITキーを押してスプリット・ポイント・ダイアログ画面を表示させることもできます。

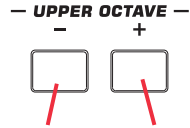
3　画面上の“Split　Point”パラメーターをタッチして選択し、VALUEダイアルで新しくスプリット・ポイントを設定する方法もあります。

スプリット・ポイントを変更すると、画面上の“Global”チェックボックスのチェックが自動的に外れます。これは、スプリット・ポイントを変更したことにより、その設定はPa900で全体的に適用されるグローバルの設定とは異なる一時的なもの（「ローカル」とも呼びます）になっているためです。

グローバルの設定そのものを変更するには、Globalモード Mode Preferences：Styleページにある“Split Point”パラメーターで変更できます。

ローカル（グローバルとは異なる設定）のスプリット・ポイントは、パフォーマンスの一部として保存できます。手順は41ページの「パフォーマンスを保存する」をご覧ください。

アッパー・トラックの音の高さの設定

アッパー・トラックの音の高さが高すぎる、または低すぎる場合は、音の高さをオクターブ単位ですばやく上下することができます。

1 **フロント・パネルのUPPER OCTAVEキー(+、−)を使って、すべてのアッパー・トラックの音の高さを同時に変更します。**

2 **UPPER　OCTAVEキーの両方を同時に押し、オクターブの設定値を現在選択しているパフォーマンスに保存されている設定に戻します。**

Note: 各トラックの音の高さの値は、サウンド名の右下に表示します

パフォーマンスを選んで保存する

パフォーマンスはPa900の音楽的な中核となるものです。パフォーマンスを選択すると、同時に複数のパートにサウンドが呼び出され、それらのエフェクトやトランスポーズ、その他演奏される音楽に必要なたくさんの設定を(アサイナブル･スイッチのように)瞬時に呼び出すことができます。このようにパフォーマンスは、現在の設定のスナップショットのようなものと考えることができます。

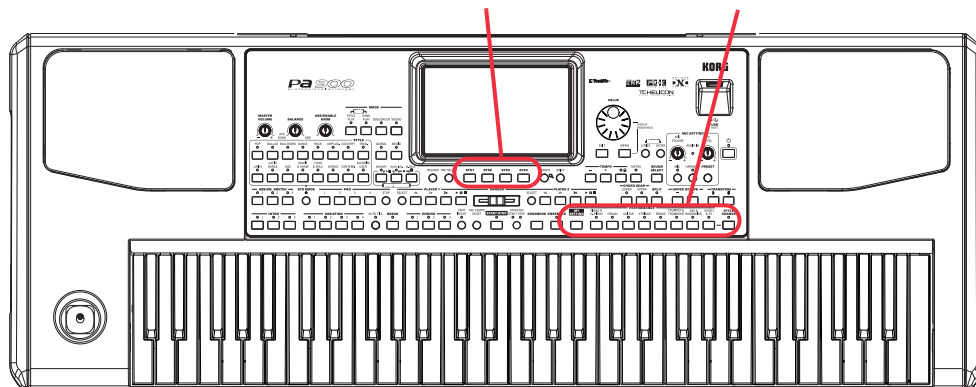
呼び出されたこれらの設定をパフォーマンスとして保存することができます。Pa900にはファクトリー･プリセットとして多数のパフォーマンスが用意されています。これらを好みに合わせてエディットして保存することもできます。

また、パフォーマンスのように、キーボード･トラックのすべての設定を**STS(シングル･タッチ･セッティング)**として保存することもできます。各スタイルやソングブックには最大4つのSTS設定を持つことができ、画面下の4つの専用キーで瞬時にそれらを選ぶことができます。

スタイル･トラックについては、スタイル･パフォーマンスという別の形で設定を保存することができます。

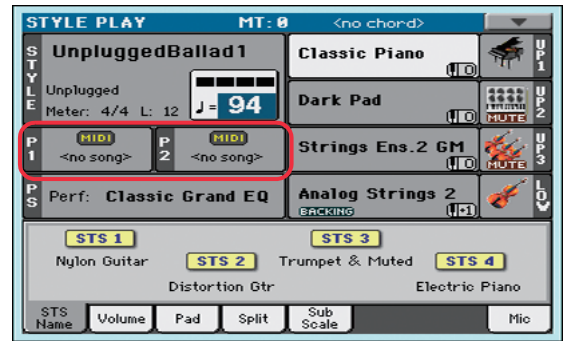
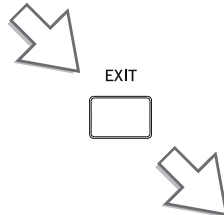
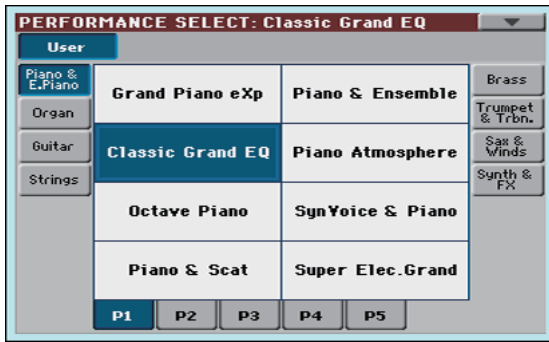
Pa900の電源をオンにしたときは、パフォーマンス･バンクの「My Setting」に保存した設定が自動的に呼び出されます。電源をオンにしてすぐに使用したい設定は「My Setting」に保存することをおすすめします。(詳しくは以下を参照してください)。

Note: スタイル・トラックの設定は、**Style Settings**に保存されます。

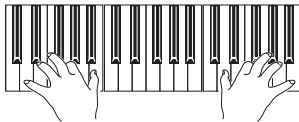
STS(シングル･タッチ･セッティング)セクション　　PERFORMANCEセクション

パフォーマンスを選ぶ

1　画面左中頃のPS(パフォーマンス)欄をタッチして、パフォーマンス選択ウィンドウを開きます。

ヒント: PERFORMANCE セクションのキーを押して、パフォーマンス選択ウィンドウを開くこともできます。この方法では、任意のパフォーマンス・バンクに直接移動できます。

2 **パフォーマンス選択ウィンドウでパフォーマンスを選択(反転表示)します。そして、パネルのEXITキーを押してウィンドウ閉じます。**

EXITキーを押すと、パフォーマンス選択ウィンドウが閉じ、メイン・ページを再度表示します。サウンド、エフェクト、その他の設定は、選択されたパフォーマンスに保存している設定に変更されます。

Note: セレクト画面は選択が終わると自動的に閉じるようにすることもできます。これは、Globalモード内のInterfaceページにある“Display Hold”チェックボックスのチェックを外すことで行えます。この場合、セレクト画面で何も選択せずに画面を閉じるには、EXITキーを押します。

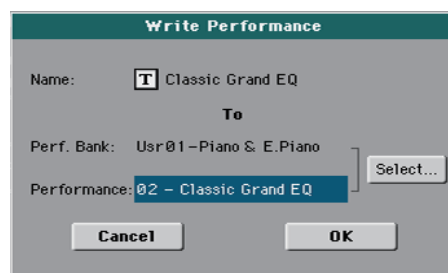
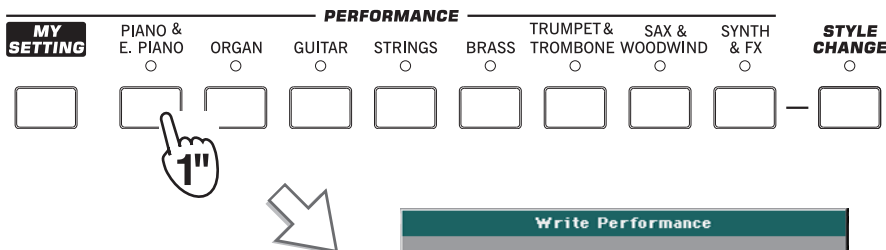
3 **鍵盤を弾いて演奏します。**

選択されたパフォーマンスに保存しているサウンド、エフェクト、その他の設定が呼び出されています。

Note: STYLE CHANGE キーのLEDが点灯している場合、パフォーマンスを選択することで別のスタイルとその設定(スタイル・トラックのサウンドやそのエフェクトなど)を自動的に選択することもできます。

STYLE CHANGE

パフォーマンスを保存する

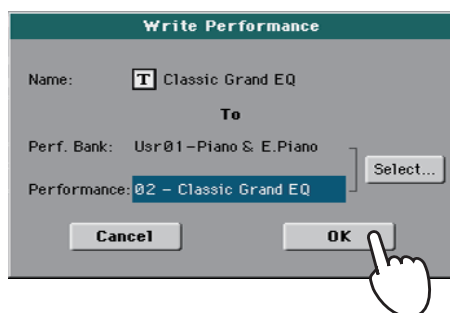
キーボード・トラックに割り当てたサウンドやエフェクト、Style PlayモードやSong PlayモードでMENUキーを押してアクセスできるパラメーターの設定をひとつにまとめて、パフォーマンスとして保存することができます。そして、後で簡単に呼び出すことができます。

1 **PERFORMANCE キーを約 1 秒間押したままにしてページ・メニュー・ボタンをタッチして、Write Performanceダイアログを開きます。**

ヒント: “Write Performance”ダイアログは、ページ・メニューから“Write Performance”コマンドを選択して開くこともできます。

2 **必要に応じて、保存するパフォーマンスに新しい名前を付けます。**

3 **パフォーマンスを保存する本体メモリー上のバンク、パフォーマンスを指定します。**

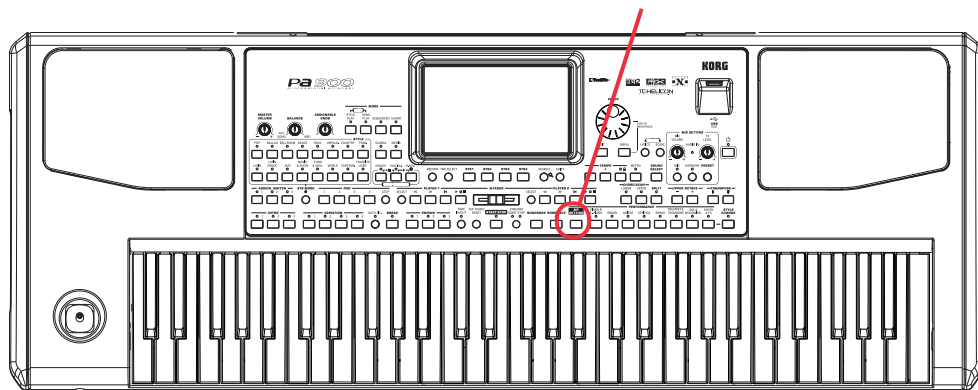
選択されたパフォーマンスは反転表示になります。パフォーマンス名部分をタッチして選択します。

4 **保存するパフォーマンスに新しい名前を付け、保存先を指定します。そして、OK ボタンをタッチしてメモリーに保存します。保存を中止するときはCancelボタンをタッチします。**

Warning: すでにパフォーマンスが保存されているところへ新たにパフォーマンスを保存すると、前に保存されていたデータに上書き保存をします。残しておきたいデータがあるときは、バックアップを取っておくことをおすすめします。

「My Setting」パフォーマンスの選択と保存

パフォーマンスの中には、キーボード・トラックのサウンドやそのエフェクト、トランスポーズやアサイナブル・スイッチなどの設定をまとめて保存しておける特別なパフォーマンスがあります。

それは、**電源をオンにしたときに自動的に呼び出される、「My Setting」(マイ・セッティング)**と呼ばれるパフォーマンスです。

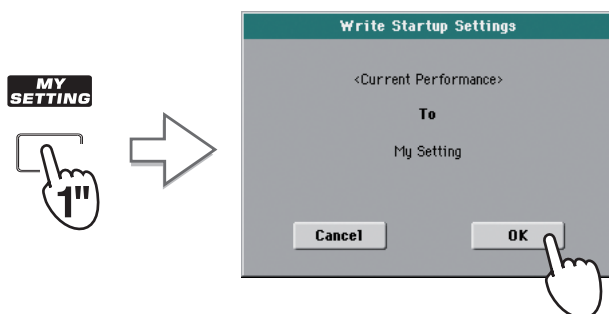
'My Setting' パフォーマンス

My Settingのパラメーターを保存時の状態に戻す

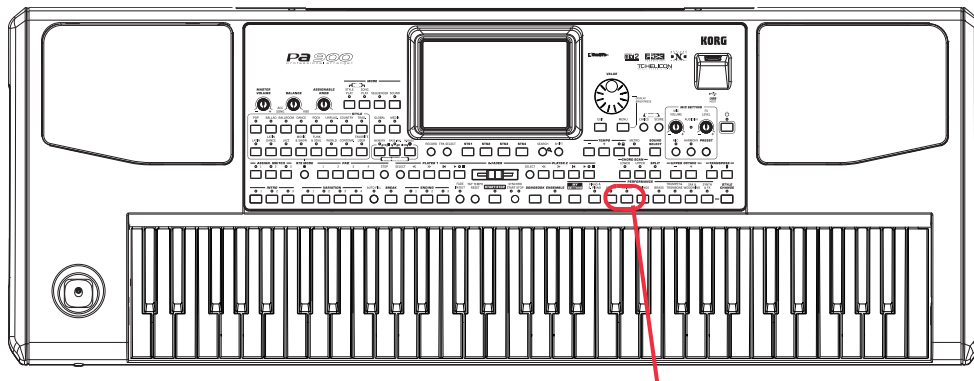
My Settingのサウンドやトランスポーズ、その他のパラメーターをエディットした後で、保存時の状態(電源をオンにした時の状態)に戻したいときは、MY SETTINGキーを押します。

- **MY SETTINGキーを押すと、電源オン時の状態に戻ります。**

My Settingとしてパフォーマンスを保存する

現在選択しているパフォーマンス(サウンドとコントロール・パネルを含むその他の設定)をMy Settingとして保存します。

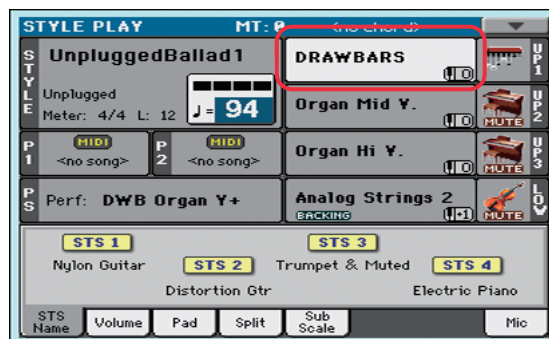
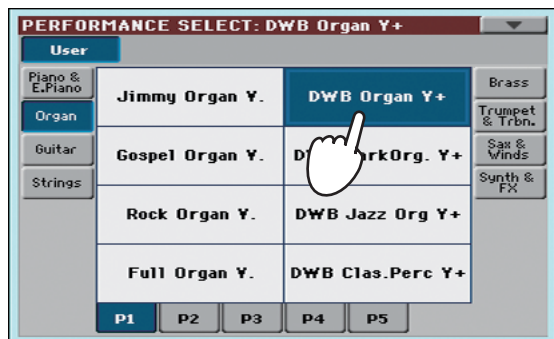
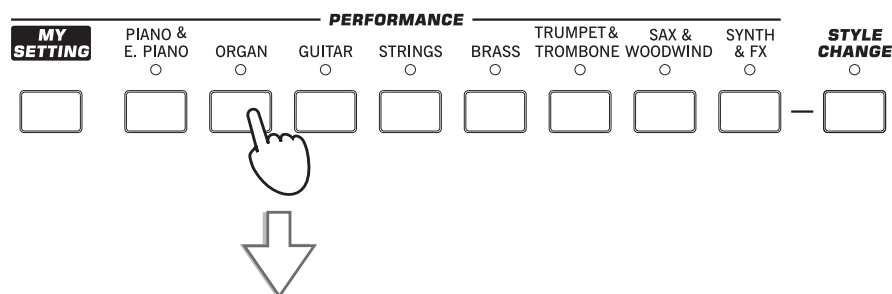
- **MY SETTINGキーを約1秒間押したままにすると、"Write Startup Settings" ダイアログが表示されます。OKボタンをタッチするとMy Settingとして保存されます。**

ドローバー

Pa900のサウンドの中でも特別なものがドローバーによるオルガン･サウンドです。このサウンドはトーンホイール式オルガンをシミュレートしたもので、画面に表示されたバーチャル･ドローバーを操作して音色を作ることができ、パフォーマンスに保存することができます。保存した音色は、オルガン･プリセットと同様に選択して演奏することができます。

オルガン・パフォーマンス・バンク

ドローバー･プリセットを選択する

手順は次の通りです。

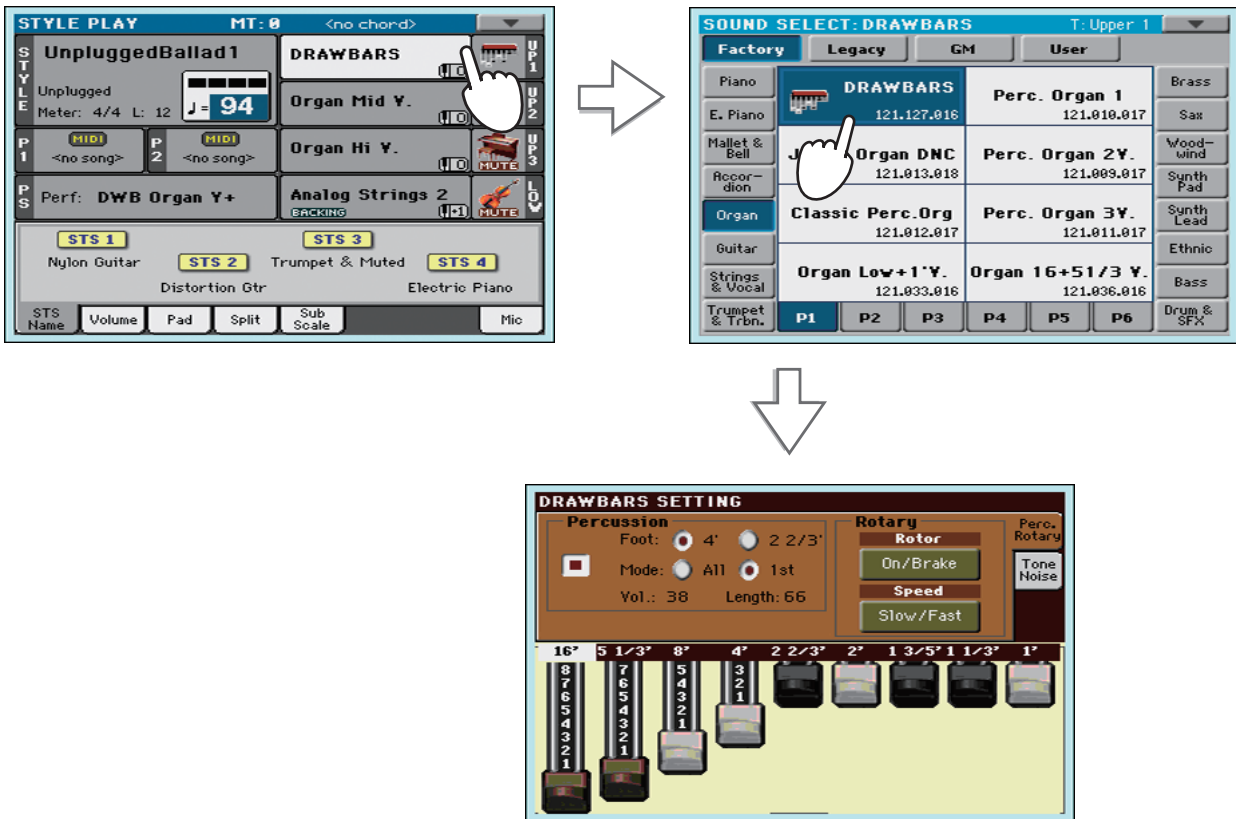
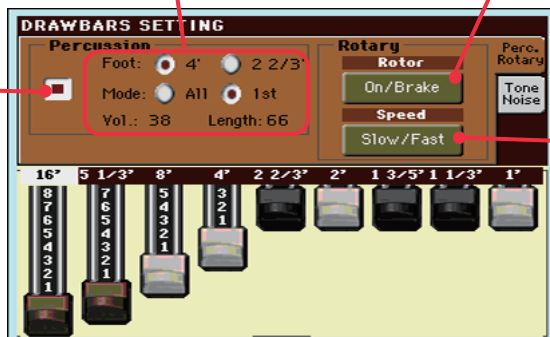
1 PERFORMANCEセクションにあるORGANキーを押し、Performance Selectウィンドウを開き、“DWB Organ Y+”を選択します。

ドローバー･サウンドをアッパー･トラック(スプリット･ポイントより高音域)にアサインすることもできますし、パフォーマンスを選択することでドローバーのすべてのプリセットを選択することもできます。

2 キーボードを演奏して、リアルなトーンホイール式オルガンのサウンドをお楽しみいただけます。

パフォーマンスによって別のドローバーのセッティング(音色)がメモリーされていますので、別のパフォーマンスを選択することで別のオルガン･サウンドを演奏することができます。

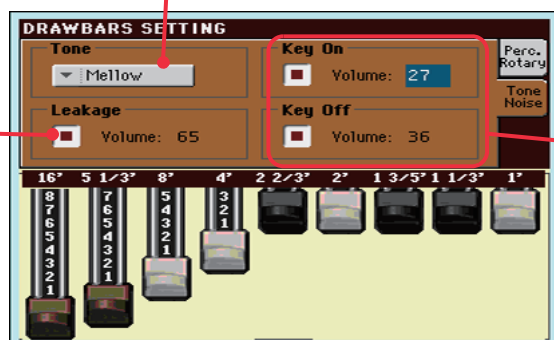
ドローバー・プリセットをエディットする

パフォーマンスにメモリーされているドローバーのセッティング(音色)をエディットし、同じパフォーマンスに、または別の新規パフォーマンスに保存することができます。

1　メイン画面にあるDRAWBARSをタッチしてSound Selectウィンドウを開きます。次にDRAWBARSをタッチしてDrawbars Settingページを開きます。

2　画面に表示されているバーチャル・ドローバーをドラッグして音色を作ります。また、このページに表示されているバーチャル・ドローバー以外のパラメーターも音色に関係のあるものですので、ひと通り操作してみて音色の変化を確認してみましょう。

ヒント：バーチャル・ドローバーをドラッグする以外にも、バーチャル・ドローバーをタッチしてからVALUEダイアルを回してエディットすることもできます。

3 **Tone/Noiseタブをタッチして、その他のパラメーターもチェックしてみましょう。**

トーンホイールの音色を選択します。

リーケージはトーンホイールからの信号漏れ(クロストーク)の量を調整します。リーケージがあることでよりリッチでリアルなオルガン・サウンドになります。

鍵盤を弾いた瞬間と離した瞬間のノイズの音量を設定します。

4 **お気に入りのサウンドが完成したら、PERFORMANCE ORGANキーのいずれかを押したままにしてWrite Performanceウィンドウを開き、オルガン・サウンドをパフォーマンスに保存します。**

5 **EXITキーを押してメイン画面に戻ります。**

スタイルを選択して再生する

Pa900は、自動伴奏したり、アレンジ機能でその伴奏スタイル(パターン)をエディットすることができる優れた楽器です。この自動伴奏をスタイル(Style)と呼びます。

スタイルには、曲のいろいろな部分に対応した、いくつかのスタイル・エレメント(イントロ、バリエーション、フィル、ブレーク、エンディングなどの要素)があります。スタイル・エレメントを選択することで演奏に変化を付け、より音楽的なものにすることができます。

スタイルを選択すると、スタイル・トラックで使用するサウンドやそのエフェクト、その他の設定が同時に呼び出されます。これらの設定をまとめてスタイル・セッティングと呼びます。

また、スタイルを選択すると4つのパッドの設定も同時に呼び出されます。パッドには、単発のサウンドや1トラック分のパターン(短いフレーズ)を割り当てることができ、PADキーを押すことによってサウンドやパターンを発音します。

STSモードのLEDが点灯しているときは、スタイルを選択すると、そのスタイルに設定している4つのSTS(シングル・タッチ・セッティング)のうち、最初のSTS1の設定が呼び出され、キーボード・トラック、エフェクト、その他のパラメーターが自動的に設定されます。

スタイルの再生/停止などの操作は、スタイル・コントローラーで行います。

スタイルを選んで再生する

1 画面のスタイル(STYLE)の名前をタッチしてスタイル選択ウィンドウを開きます。

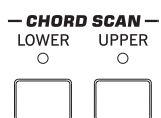
ヒント:
STYLEセクションのいずれかのキーを押して、スタイル選択ウィンドウを開くこともできます。目的のスタイル・バンクに直接移動することができます。

2 スタイル選択画面からスタイルを選択します。

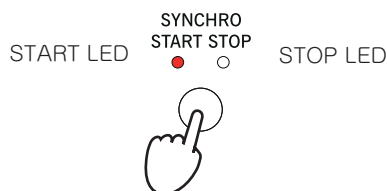
EXIT

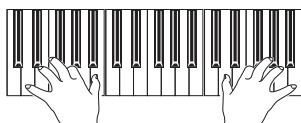
EXITキーを押すと、スタイル選択ウィンドウが閉じ、選択したスタイルが表示されたメイン・ページが表示されます。

3 コード・スキャン・モードが選ばれていることを確認します。

CHORD SCAN
LOWER UPPER

コード・スキャン機能をオンにするときは、どちらかまたは両方のLEDが点灯した状態にします。**Lower:** スプリット・ポイントの左側で和音を認識します。
Upper: スプリット・ポイントの右側で和音を認識します。
Full (両方のLEDが点灯): 鍵盤の全音域で和音を認識します。
Off: ドラム・トラックだけを演奏します。

4 SYNCHRO-START/STOPキーを押し、STARTのLEDをオン(点灯)にします。

シンクロ・スタート機能がオンになり、鍵盤を弾くと同時にスタイルがスタートします。

Note: スタイルの再生は、START/STOPキーを押すと始まりますが、シンクロ・スタート機能を使うと、鍵盤での演奏に合わせてスタイルをスタートさせることができます。

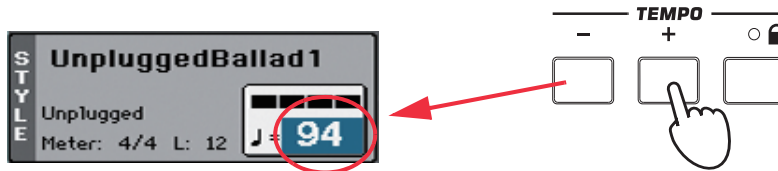
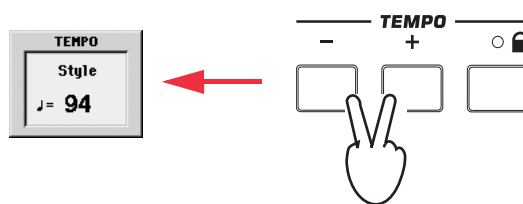
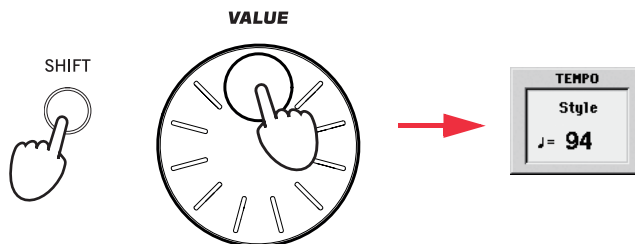
5 鍵盤を弾いて演奏します。

シンクロ・スタート機能をオンにしたときは、鍵盤のコード認識音域で単音、またはコードを弾くと、それと同時にスタイルがスタートします。スタイルに合わせて、左手でコードを、右手でメロディを弾くと、アレンジャー機能によって自動的に演奏に追従します。

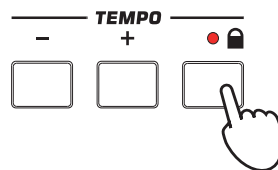
Note: コードを認識する音域はSPLITモードの状態（LEDの状態）と、コード認識の関連パラメーター（Globalモード）の設定によって変化します。

6 START/STOPキーを押してスタイルを停止します。

テンポ

テンポ設定は、各スタイルや各パフォーマンスに保存されていますが、自由に変更することができます。設定は次の2つの方法があります。

- **TEMPO +または−キーを押してテンポを変更します。**

- **TEMPO+キーと−キーを同時に押すと保存されているテンポ設定に戻ります。**

- **テンポ・パラメーターを選択していないときは、SHIFT キーを押しながら VALUE ダイヤルを回して、値を変更します。設定されたテンポは画面中央の小さなウィンドウに表示します。**

- **現在のテンポから変更したくないときは、TEMPO LOCK(🔒)キーを押します(テンポ・ロック機能:オンになるとLEDが点灯します)。**

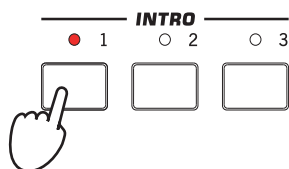
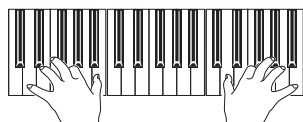
  テンポ・ロック機能がオンにすると、別のスタイル(またはSong Playモードでの別のソング)を選んでもテンポは変更せずに演奏します。

ヒント:テンポ・パラメーターを選択(反転表示)しているときに、TEMPOキーを使用しなくても画面のテンポ・パラメーターをタッチ(反転表示)したまま、上下(または左右)に移動(ドラッグ)して、値を変更することができます(VALUEダイヤルでも変更できます)。

イントロ、バリエーション、フィル、ブレーク、エンディング

スタイルを演奏する時、楽曲の構成要素に相当する「スタイル・エレメント」を選択できます。1つのスタイルには3種類のイントロ（または2種類のイントロとカウント）、最大4種類のバリエーション、4種類のフィルイン、1種類のブレイクと3種類のエンディングが含まれています。

1 SYNCHRO-START キーの LED が点滅していることを確認します（消灯していたらキーを押して点滅させます）。

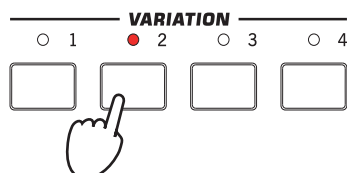
シンクロ・スタート機能をオンにするのは必須ではありませんが、便利な機能です。

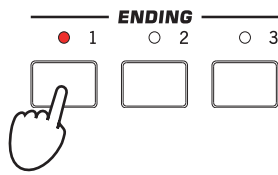
2 INTROキーのどれかを押して、イントロを再生するように設定します。

3 鍵盤を弾いて演奏します。

選択したイントロで、スタイルがスタートします。イントロが終わると基本パターン（選択したバリエーション）を再生します。

4 AUTO FILLキーのLEDがオンになっていることを確認します。

オート・フィル機能オン時は、別のバリエーションを選択すると自動的にフィルインが演奏されます。

5 演奏中に、別のVARIATIONキーを押し、基本パターンの異なるバリエーションを選択します。

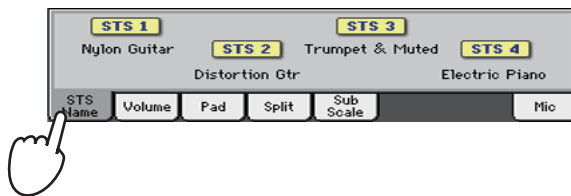
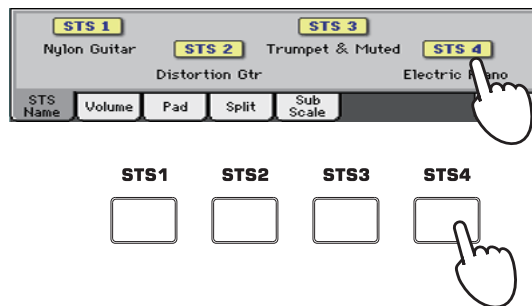
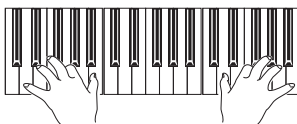
最初にオート・フィル機能をオンにしておくと、バリエーションの出だしでフィルインが入ります。

フィルインが終わると、選択したバリエーションがスタートします。

6 **スタイルを停止するときに、ENDING キーのどれかを押すと、選択したエンディングを再生した後にスタイルが停止します。**

エンディングが終わると、スタイルは自動的に停止します。

STS（シングル・タッチ・セッティング）

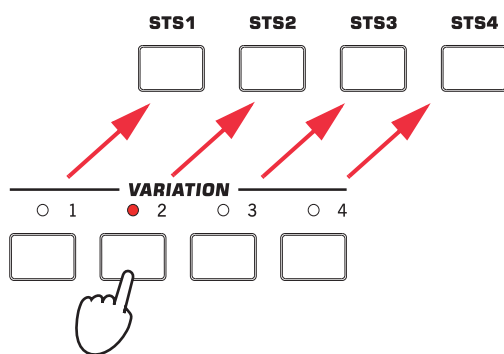
各スタイルやソングブックには、最大で4つのSTS（シングル・タッチ・セッティング）と呼ばれるキーボード・トラック設定があります。STSとパフォーマンスは機能的によく似ていますが、STSはスタイルやソングブックにより特化したものです。

STSモードのLEDがオンの時、スタイルを選択するとSTS #1が自動的に呼び出されます。STS #1はソングブックのエントリーを選択した時にも呼び出されます。

1 **STS名が表示されない場合は、画面上のSTS Nameタブをタッチします。**

2 **STS1～STS4キーのいずれかを押してSTSを選択します。または、画面上のSTS名をタッチして選択します。**

3 **鍵盤を弾いて演奏します。**

選択したSTSに記憶されているサウンド、エフェクト、その他の設定が呼び出されます。

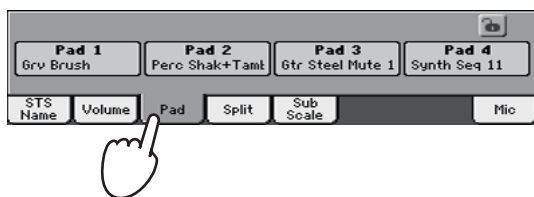
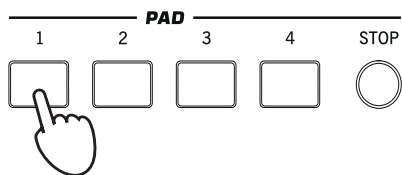
4 **他のSTSを選択して、設定がどのように変わるかを確認してみましょう。**

5 **STSとバリエーションをリンクさせることもできます。まず、STS MODEキーを押してLEDを点滅させます。**

6 **リンクさせたいVARIATIONキーを押して、そのバリエーションとSTSをリンクします。**

7 **STS MODEキーを押して、LEDを点灯（または消灯）させます。**

パッド(PAD)トラック

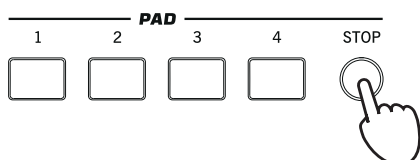
各スタイルやソングブックでは、4つのパッドにサウンドやパターンをアサインすることができます。それらのサウンドやパターンは、キーボード・トラックやスタイル・トラックと一緒に演奏することができます。

1 **現在選択しているスタイルで、パッドに割り当てられているサウンドやパターンを確かめるには、画面上のPadタブをタッチします。**

2 **PAD1～4キーのいずれかを押すと、サウンドやパターンを発音します。**

ヒント：SHIFTキーを押しながら、どれか1つのPAD キーを押すことで、パッド選択ウィンドウを表示して、サウンドやパターンを割り当て直すことができます。

3 **サウンドやパターンの発音が止まらない場合は（例：拍手やギター・アルペジオ）、STOP キーを押します。**

4 **異なるスタイルを選び、各PADキーに割り当てられたサウンドやパターンを確認してみましょう。**

5 **PADキーを複数押すと、複数のサウンドまたはパターンが同時に発音します。**

6 **STOPキーを押すと、すべてのパッドの発音が同時に停止します。**

スタイル・トラックとキーボード・トラックの音量バランス

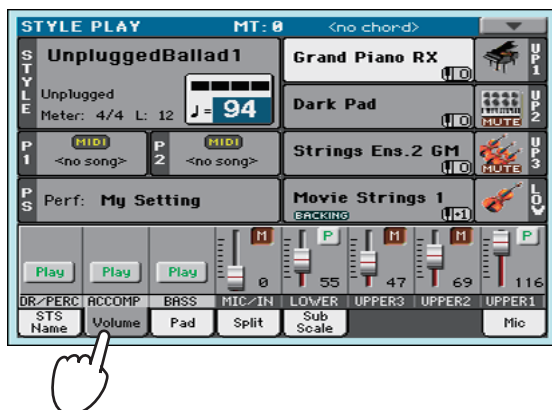
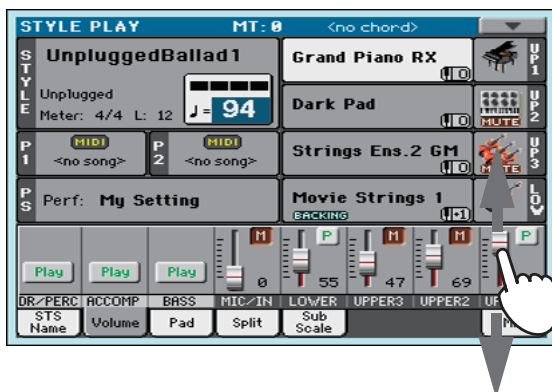
キーボード・トラックとスタイル・トラックの音量バランスを調整します。両方の音量を少しずつフェードするように調節すると効果的な場合があります。

- **スタイルの再生中に、パネルのMASTER VOLUMEノブの横にあるBALANCEノブを使って、キーボード・トラック(KBD)とスタイル(ACC)の音量バランスを調節します。**

このノブでキーボード・トラックとパッド・トラックの音量のバランスを調整することもできます。また、Song Playモードではキーボード・トラックとソング・トラックの音量バランス調整することもできます。

別々のトラックの音量を調節する

スタイルとキーボード・トラックの各トラックの音量を調節します。例えば、ベースを少し弱めたり、キーボード・トラックのソロを強調したりすることができます。

1 Volumeタブをタッチして、ボリューム・パネルを開きます。

2 バーチャル・スライダーをドラッグして、各キーボード・トラックのボリュームを調整します。

3　スタイル・トラックを個別に調整するときは、パネルのTRACK SELECTキーを押してトラック表示を切り替えます。

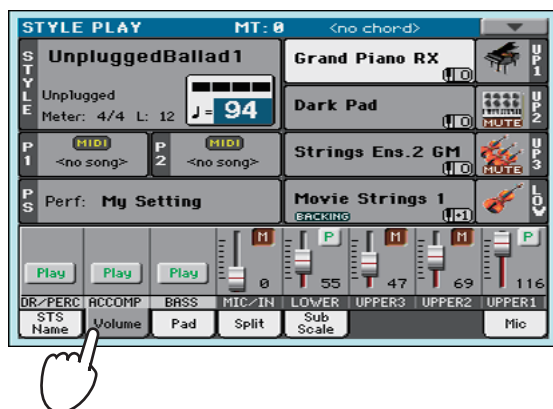
スタイルを構成するトラックをすべて表示します。対応するスライダーをドラッグして音量を変更します。

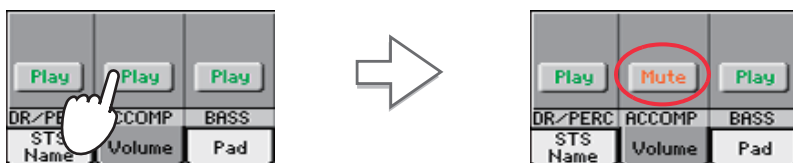
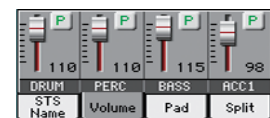
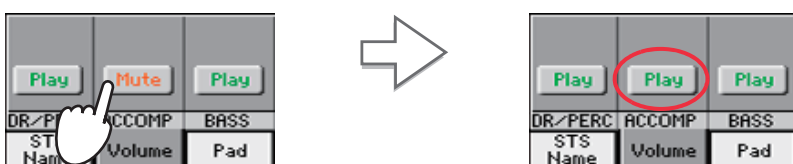
ヒント：各トラックの音量調整は、そのトラックのバーチャル・スライダーをタッチしてからVALUEダイアルで変更する方法もあります。

4　キーボード・トラック表示に戻るときは、TRACK SELECTキーをもう一度押します。

スタイル・トラックのオン/オフ(ミュート)

再生中に、スタイル・トラックのオン/オフを切り替えることができます。以下の例は、ドラムとベースは再生させて、他のすべての伴奏トラックをミュート(消音)する場合です。

1　ボリューム・パネルが開いていることを確認します。開いていない場合は、Volumeタブをタッチします。

Note: Style Playモードのノーマル表示では、スタイル・トラックは3つのトラックにグループ化されています。それぞれのスタイル・トラックを個別のトラックとして見るときは、パネルのTRACK SELECTキーを押します。

2　スタイルの再生中に、Playボタンをタッチしてトラックをミュートします。

伴奏トラックをミュートします。ドラム、パーカッション、ベースを除く伴奏が聴こえなくなります。

3　トラックを元の再生状態に戻すときは、トラックのミュート・アイコンをタッチします。

伴奏トラックを再生にします。すべての伴奏トラックが元の音量に戻ります。

4 **スタイルを構成する各トラックのオン/オフ(プレイ/ミュート)を設定する場合は、TRACK SELECTキーを押してスタイル・トラック画面を開き、上記の手順を繰り返します。**

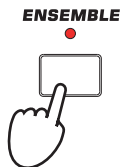
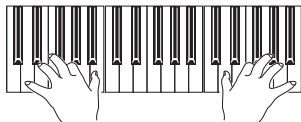
5 **パネルのTRACK SELECTキーをもう一度押して表示を戻します。**

右手のメロディにハーモニーを加える(アンサンブル機能)

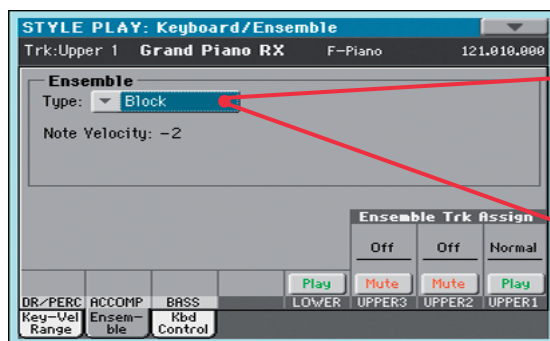
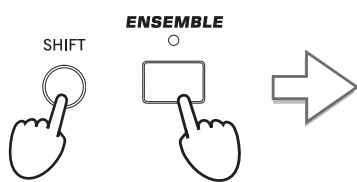
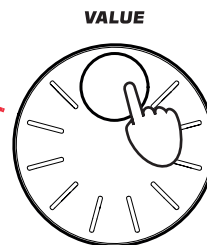
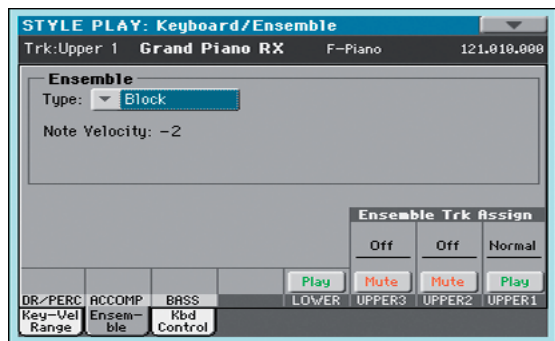
左手で弾いて入力したコードにもとに、右手で弾いたメロディに対して自動的にハーモニー演奏を加えます。

1 **SPLITキーを押してLED点灯させ、スプリット・モードに入ります。**

アンサンブル機能は、スプリット・モードのときのみ有効です。

2 **ENSEMBLEキーを押してLEDが点灯させます。アンサンブル機能がオンになります。**

3 **左手でコードを、右手では1音ずつ演奏してみます。**

左手で弾いたコードに従って、右手で弾いた音に自動的にハーモニーが追加されます。

4 **別のハーモニー・タイプを選ぶときは、SHIFTキーを押しながらENSEMBLEキーを押して、アンサンブル・ページを開きます。**

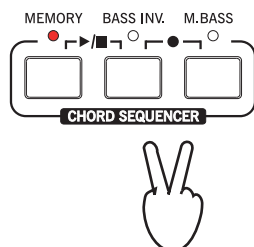
この方法は、このページを表示するためのショートカットです。別の方法として、MENUキーを押して、画面のKeyboard Ensembleボタンをタッチし、Ensembleタブをタッチします。

アンサンブルのパラメーターを選び(反転表示)、VALUEダイヤルを使ってハーモニーのタイプを選択します。

5　ハーモニー・タイプを選択したら、EXITキーを押してメイン・ページに戻ります。

エディット・ページから入ったときは、EXITキーを押して現在のモードのメイン・ページに戻ります。

6　ENSEMBLEキーをもう一度押してLEDが消灯させます。アンサンブル機能がオフになります。

コード・シーケンサー

スタイルの演奏中に両手を使ってソロを弾きたいときなどに、コード・シーケンサーを使用してコード進行を録音し、自動でコード演奏をさせることができます。

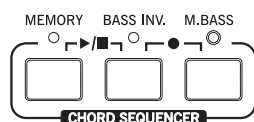
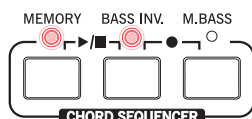
1　START/STOPキーを押して、スタイルを再生します。

2　BASS INV.キーとM.BASS (RECORD)キーを同時に押して録音を開始します。

3　コード・シーケンサーの録音は次の小節の先頭から始まります。

録音中は赤く点滅したアイコンが画面に表示されます。

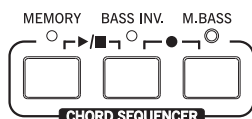
4　コード・スキャン・エリア(コード認識エリア)でコードを演奏します。

SPLITキーのLEDがオン(点灯)になっている(スプリット・モードがオンになっている)場合、スプリット・ポイントから低音域がコード・スキャン・エリアです。また、SPLITキーのLEDがオフ(消灯)の場合は、鍵盤の全域がコード・スキャン・エリアになります。また、コード・スキャン・エリアはGlobalモードのChord Recognitionパラメーターの設定により変化します(Globalモード「Chord Recognition」参照)。

5 **BASS INV.キーとM. BASS (RECORD)キーを同時に押して録音を終了します。**

6 **MEMORYキーとBASS INV.(PLAY/STOP)キーを押して、コード・シーケンサーを再生します。**

2つのキーのLEDが点滅します。この時、コード・シーケンサーは次の小節からループ再生をスタートします。録音したコード進行に従ってスタイルが演奏されます。

7 **コード・シーケンサーの再生中にソロ演奏をします。**

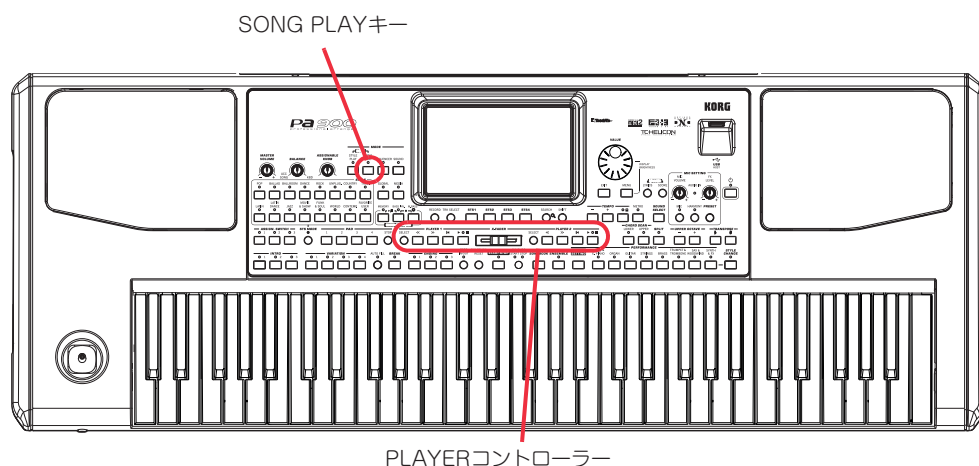
コード・シーケンサーがループ再生中は、左手でコードを演奏している場合と同様に、フィルインやバリエーションを自由に選択できます。

8 **MEMORYキーとBASS INV.キー(PLAY/STOP)を同時に押し、コード・シーケンサーを停止します。**

コード・シーケンサーに録音したコード進行は、次に録音をするか、またはPa900の電源をオフにするまで記憶されています。

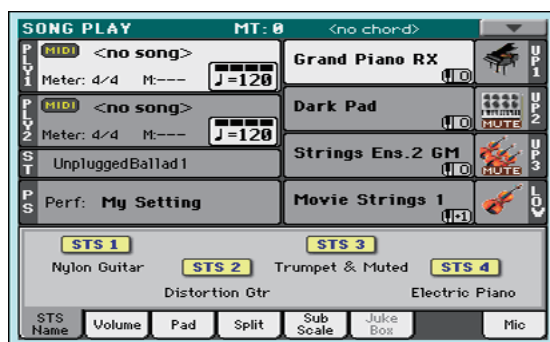
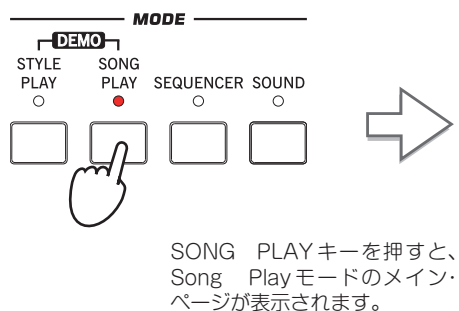
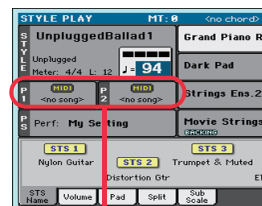
ソング・プレイ

Pa900は、2台のミュージック・プレーヤーを搭載しています。異なるソングを同時に再生してミックスすることなどが可能です。スタンダードMIDIファイル（MIDファイル）、カラオケ・ファイル（KARファイル）、MP3ファイルに対応しています。

また、スタンダードMIDIファイルやMP3ファイルに歌詞とコード情報が含まれていて、それらをディスプレイで見ることができるということは、歌手やギター・プレイヤー達にとってとても興味があることでしょう。歌詞は外部ビデオモニタ上でも見ることができ、「MP 3+G」フォーマットもサポートされています。

スタンダードMIDIファイルやカラオケ・ファイルの場合は、歌詞やコード情報の他に、楽譜を表示させることや、楽曲中の各セクションに瞬時にジャンプできるマーカー情報を利用することもできます。

再生するソングを選ぶ

1 SONG PLAYキーを押してSong Playモードに入ります。

SONG PLAYキーを押すと、Song Playモードのメイン・ページが表示されます。

ヒント： Style Playモードでも、プレーヤーに割り当てるソングを選ぶことができます。この場合、Song Playモードに切り替えると、すぐにソングの再生を開始することができます。

Style Playモードのメイン・ページに表示されるソング名

2 **画面のプレーヤー1（PLAY1）の範囲をタッチして、ソング選択ウィンドウを開きます。**

この画面はMEDIAモードのLoad画面とよく似ていますが、この画面ではソング･ファイルのみが表示されます。

ℹ **ヒント：** 別の方法として、パネルのPLAYER 1セクションのSELECTキーを押して、ソング選択ウィンドウを開くこともできます。

3 **リストをスクロールして、再生するソングを選択します。**

選択しているソングは反転表示になります。別のソングを選択するときは、ソングの名前部分をタッチします。

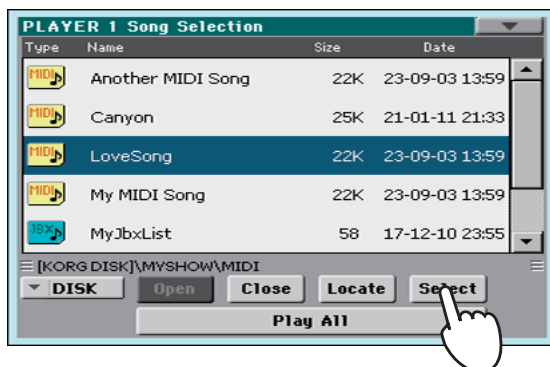
スクロールバーまたはVALUEダイアルを使ってリスト内のすべてのソングを確認できます。また、SHIFTキーを押しながら上下の矢印ボタンをタッチすると、現在表示されている部分から前または次のアルファベット順の名前が付いたソングにジャンプできます。

Selectボタンをタッチして反転表示のソングを選択確定し、プレーヤーに割り当てます。

デバイス･ポップアップ･メニューを使って、ストレージ･デバイスを選択します。

Open、Close ボタンを使って、フォルダ内を閲覧できます。

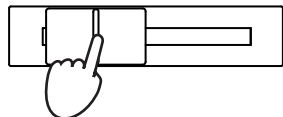
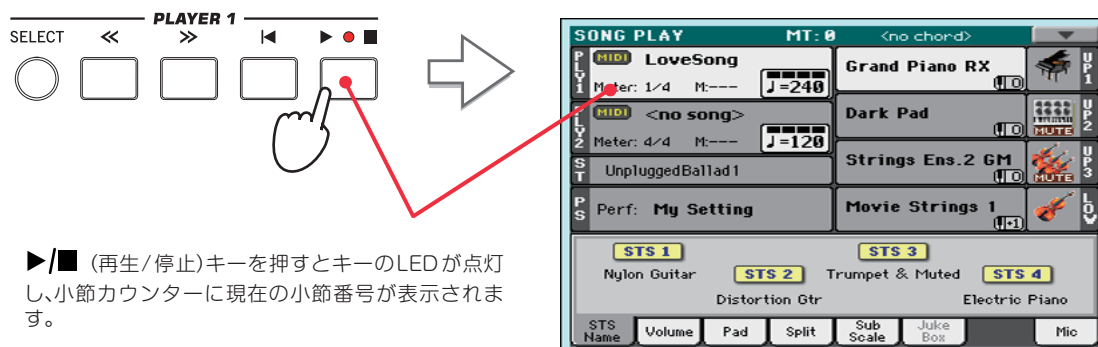
Locateボタンを使えば、選択したソングが含まれるフォルダーに戻り、検索することができます。

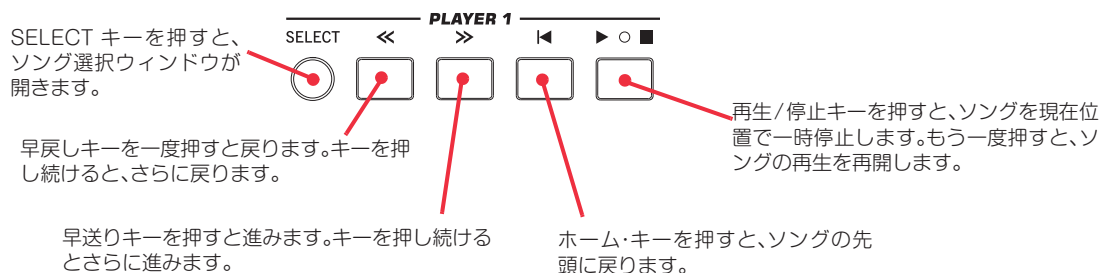
4 **ソングを選択したら、画面の Select ボタンをタッチして確定します。ソング選択ウィンドウが自動的に閉じます。**

画面のSELECTボタンをタッチすると、Song Playモードのメイン･ページに戻ります。

ソングの再生

ソングを選んだら、プレーヤーで再生します。

1　X-FADERが左側(PLAYER 1側)にあることを確認します

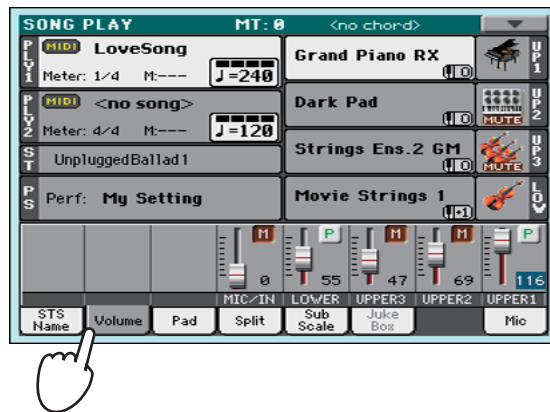
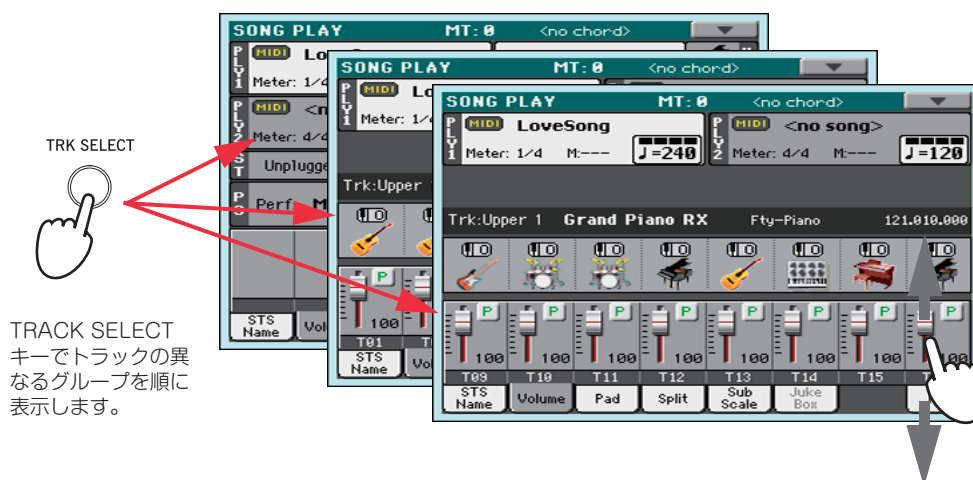
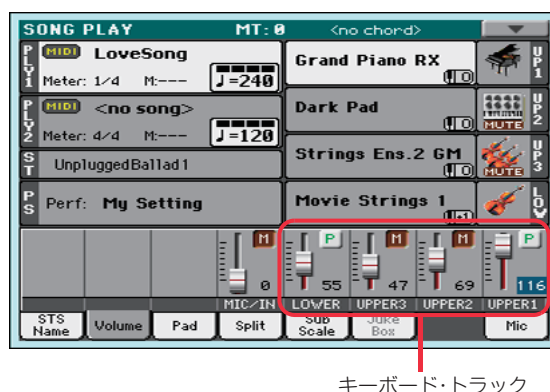
X-FADER

2　PLAYER1セクションの ▶/■ (再生/停止)キーを押してソングの再生をスタートさせます。

▶/■ (再生/停止)キーを押すとキーのLEDが点灯し、小節カウンターに現在の小節番号が表示されます。

3　PLAYER1セクションのキーを使って、ソング再生をコントロールします。

4　ソング再生を停止してソングの先頭に戻るときは |◀ (ホーム)キーを押します。

Note: プレーヤーは、ソングの最後まで再生すると、自動的に停止します。

トラック音量の調節

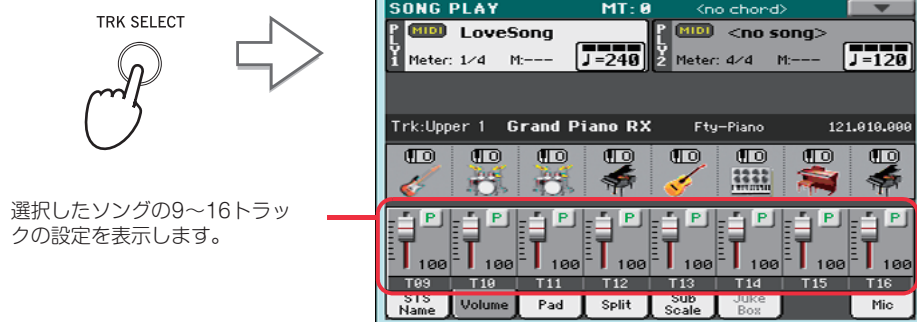
スタンダードMIDIファイルの再生中に、ソングの各トラックの音量を調節してリアルタイムでミックスを作り上げます。

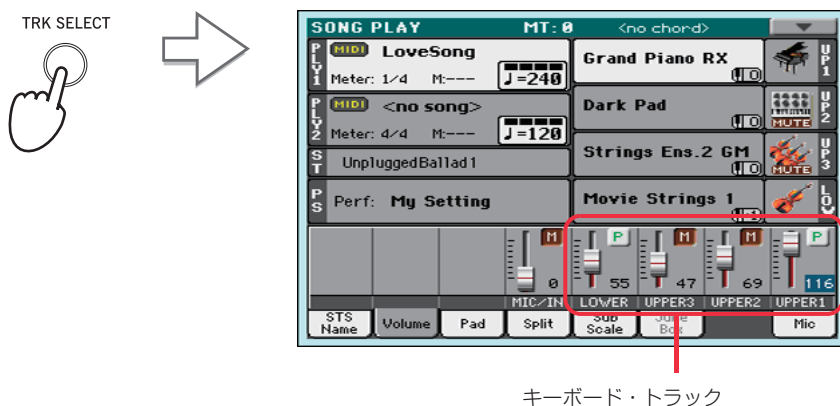
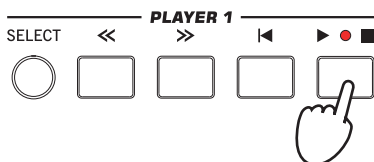
1 ボリューム・パネルが表示されていることを確認します。開いていない場合は、Volume タブをタッチして開きます。

2 Style Playモードのボリューム・パネルと同様に、バーチャル・スライダーをドラッグして各トラックの音量を調節します。トラック・グループを切り替えるときは、TRACK SELECTキーを押します。

3 ノーマル表示では、各キーボード・トラックの音量を調整できます。

ヒント：各トラックの音量調整は、そのトラックのバーチャル・スライダーをタッチしてからVALUEダイアルで変更する方法もあります。

4 TRACK SELECTキーを押して、トラック1～8の設定画面を表示させます。

選択したソングの最初の1～8トラックの設定を表示します。

5 TRACK SELECTキーを押して、トラック9～16の設定画面を表示させます。

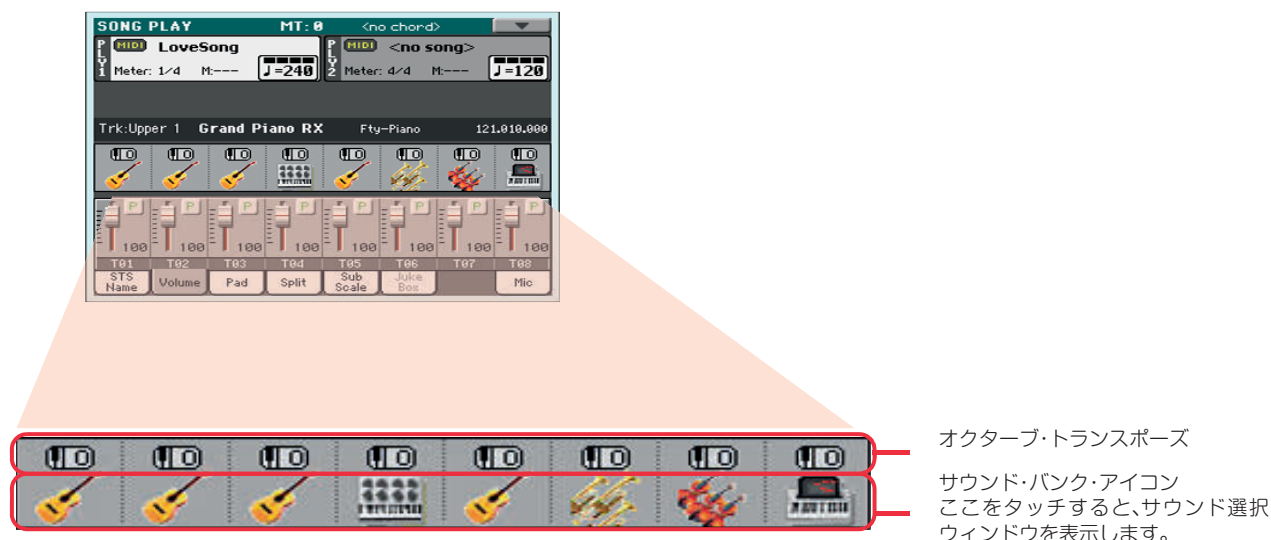
選択したソングの9～16トラックの設定を表示します。

6 TRACK SELECTキーを押して、画面をノーマル表示（キーボード・トラック）に戻します。

キーボード・トラック

7 ▶/■（再生/停止）キーを押して、ソングの再生をスタートします。

8 ソングを聴きながら、TRACK　SELECTキーを押して、画面をノーマル表示、トラック1～8表示、トラック9～16表示と切り替えて、どのトラックを再生しているかを確認します。

トラックが再生されているかどうかを確認するには、その名前のラベルを見て、色が変わったかどうかを確認します。

Note: ソング・トラックの音量設定は保存されず、|◀（ホーム）キーを押すたびにリセットします。また、異なるマーカーを選んだときもリセットします。
設定を保存したいときは、Sequencer モードでソングをエディットします。

- **画面の各トラックを選択（反転表示）すると、トラックの情報が、下記のように画面中央に表示します。**

- **また、トラック1～8表示、トラック9～16表示のときは、画面の各トラック・スライダーの上に割り当てられたサウンドのバンク・アイコンと、トランスポーズの情報を表示します。**

ソング・トラックのオン/オフ（ミュート）

再生中のスタンダードMIDIファイルに合わせて歌ったり、インストルメンタルのパートの1つをキーボード・トラックで演奏したりするために、特定のトラックをオフ（ミュート）にすることができます。

ソングの各トラックのミュート・オン/オフの設定は、ボリューム・パネルのPlay/Muteアイコンをタッチします。

ソロ演奏

スタンダードMIDIファイルの1つのトラックだけを演奏させることができます。これをソロ機能といいます。

1 **スタンダードMIDIファイルの再生中に、SHIFTキーを押しながら、ソロ演奏をさせたい画面のトラックをタッチしてください。**

2 **ソロ演奏を解除するときは、SHIFT キーを押しながら、もう一度そのトラックをタッチするとすべてのトラックが元の状態に戻ります。**

ソロ機能はStyle PlayモードやSequencerモードでも使用できます。また、ページ・メニューから“Solo Track”を選択することもできます。

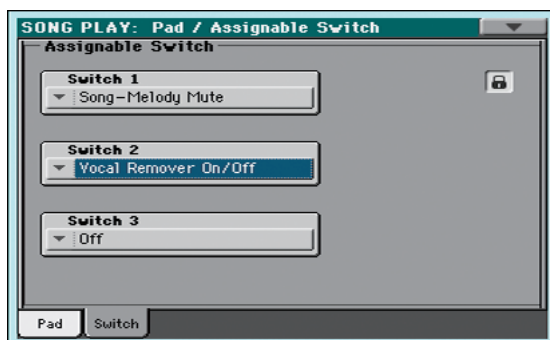
スタンダードMIDIファイルからメロディ・トラックを、MP3ファイルからリード・ボーカルをキャンセルする

ソング(スタンダードMIDIファイルやMP3ファイル)に合わせてボーカルを取りたいとき、ソングのメロディ・トラックやリード・ボーカルをキャンセルすることができます。但し、MP3ファイルからリード・ボーカルをキャンセルする場合、曲によってはうまくキャンセルできない場合もあります。

アサイナブル・スイッチの設定をする

1 **アサイナブル・スイッチにSong-Melody Mute、Vocal Remover On/Off を割り当てます。**

MENUキーを押し、“Pad/Assignable Switch”セクションを選択します。次にSwitchタブをタッチしてスイッチ・ページを開きます。このページでは、Song-Melody Mute(メロディ・トラックのミュート・オン/オフ)をアサイナブル・スイッチ1に、Vocal Remover(ボーカル・リムーバー機能のオン/オフ)をアサイナブル・スイッチ2にそれぞれ割り当てます。

ヒント：このページはSHIFTキーを押しながらアサイナブル・スイッチのいずれかを押して開くこともできます。

2 **EXITキーを押してSong Playモードのメイン・ページに戻ります。**

Note: アサイナブル・スイッチの設定は、パフォーマンスやSTSに保存できます。

ソングでアサイナブル・スイッチを使用する

1 **ソング(スタンダードMIDIファイルまたはMP3ファイル)をプレーヤー1に割り当てます。**

2 **プレーヤー1を再生します。**

3 **(スタンダードMIDIファイルを再生する場合)アサイナブル・スイッチ1を押して、メロディ・トラックをミュートします。または、(MP3ファイルを再生する場合)アサイナブル・スイッチ2を押してボーカル・リムーバー機能をオンにし、リード・ボーカルをキャンセルします。**

メロディ・トラックが正しくミュートされているかを確認します。正しくミュートされていない場合、後述の手順で別のメロディ・トラックを選択します。

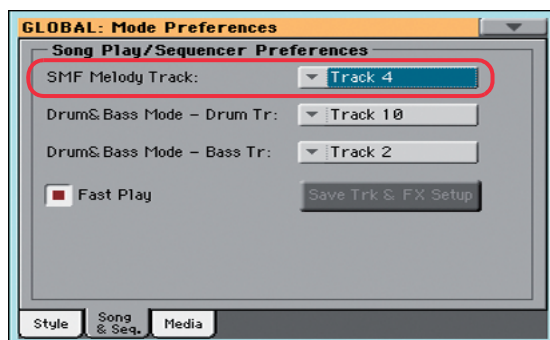
リード・ボーカルがうまくキャンセルできているかどうか(ボーカルの声が小さくなっている、または完全に消えている)を確認します。

4 **メロディ･トラックのミュートやリード･ボーカルのキャンセルがうまくできたら､アサイナブル･スイッチ1をもう一度押して､メロディ･トラックをオンにします(スタンダードMIDIファイル再生の場合)｡または､アサイナブル･スイッチ2をもう一度押して､ボーカル･リムーバーをオフにし､リード･ボーカルの声をオンにしてみます(MP3ファイル再生の場合)｡**

5 **プレーヤー1を停止します｡**

別のメロディ・トラックを選択する

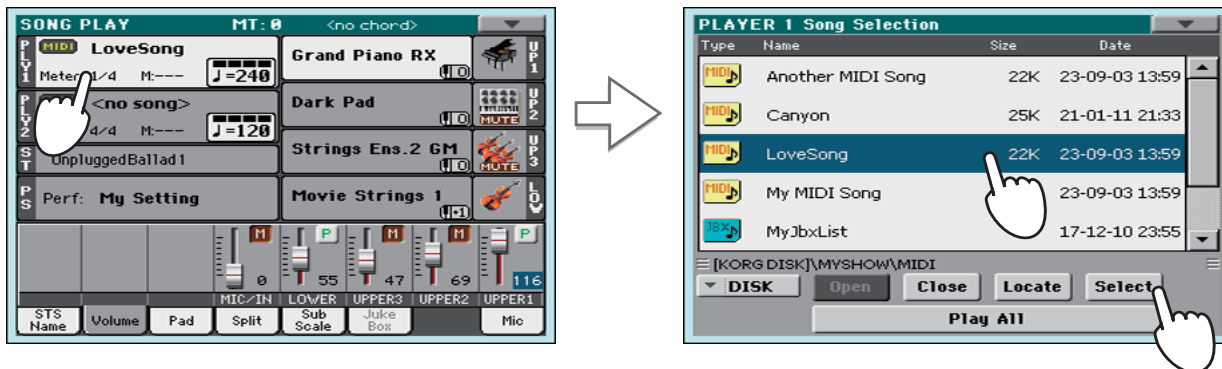
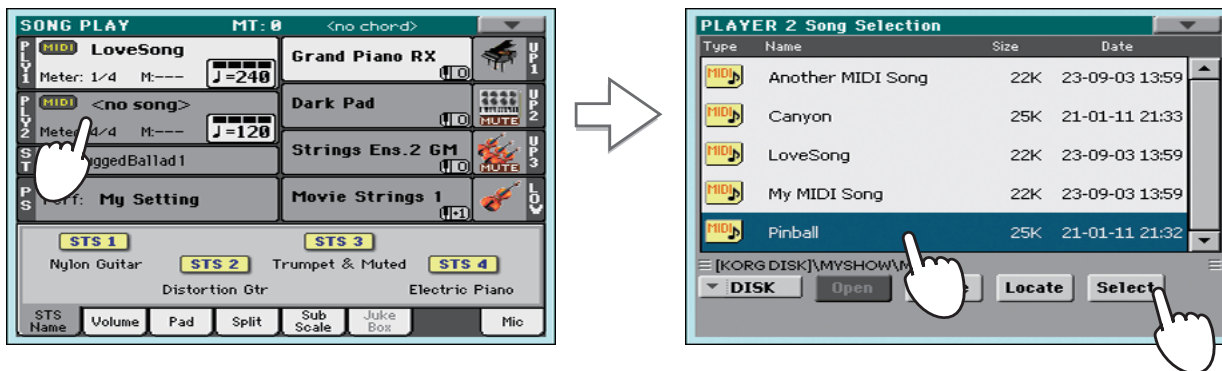
スタンダードMIDIファイルでうまくメロディ･トラックをミュートできなかった場合､別のメロディ･トラックを選択することができます｡

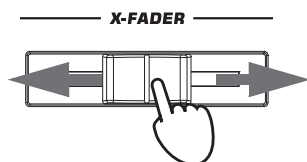
1 **SHIFTキーを押しながらSONG PLAYキーを押して､GlobalモードのSong Play & Sequencerページを開きます｡**

2 **別のメロディ･トラックを選択します｡**

3 **トラックを選択したら､EXITキーを押してメイン･ページに戻ります｡**

2つのソングをミックスする

2つのソングを同時に再生し、X-FADERを使ってミックスすることができます。

1 **画面のプレイヤー1のエリアをタッチしてSong Selectウィンドウを開き、プレイヤー1で演奏するソングを選択し、“Select”をタッチして確定します。**

2 **プレイヤー2のエリアをタッチしてSong Selectウィンドウを開き、プレイヤー2で演奏するソングを選択し、“Select”をタッチして確定します。**

3 **SHIFT キーを押しながらプレイヤー1 または 2 の▶/■(PLAY/STOP)キーを押すと、両方のプレイヤーが同時に再生を開始します。**

4 **ソングの演奏中にX-FADERを動かすと、2つのソングのミックスを行えます。**

5 **再生中に、それぞれのプレイヤー・セクションにあるコントロール・キーで各プレイヤーの演奏をコントロールすることができます。**

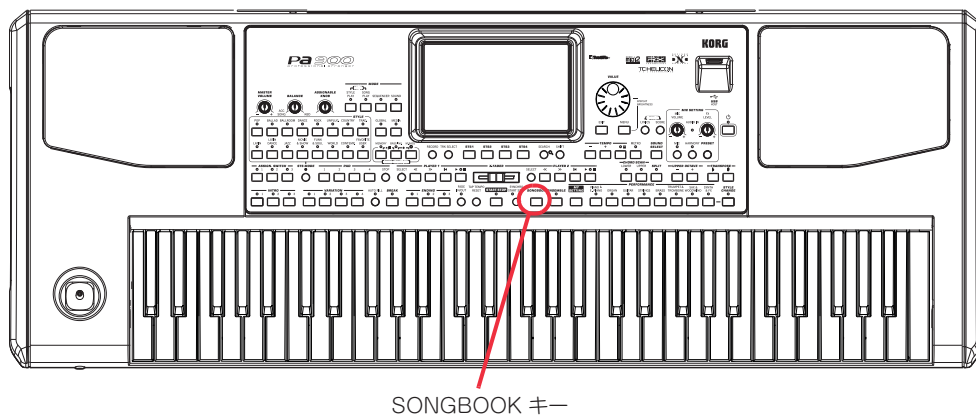
6 **それぞれのプレイヤーにある▶/■(PLAY/STOP)キーを押してプレイヤーを停止します。**

Hint：常に2つのプレイヤーのPLAY/STOPキーを同時に押す必要はありません。また、どちらか片方のプレイヤーだけでソングをスタートさせ、そのソングが終わりそうになった時点で、もう片方のプレイヤーで別のソングをスタートさせることもできます。この方法で、X-FADER を使えば、前のソングの音量を徐々に下げながら次のソングの音量を徐々に上げてソングをスムーズに切り替えることができます。

ソングブック

Pa900のパワフルな機能の1つにソングブック機能があります。ソングブックでは、ミュージカル・データベースを使って、スタイルやソング・ファイルの管理、検索、呼び出しが簡単に行えます。ソングブックのエントリー(データベースとして登録したスタイルやソング・ファイル)にはアーティスト、タイトル、ジャンル、キー、テンポ、拍子(拍子記号)の情報を含めることができます。エントリーを選択すると、関連するスタイル、スタンダードMIDIファイル、またはMP3ファイルを自動的に呼び出されます。ボイス・プロセッサーのプリセットも呼び出されます。

ソングブックでは、ライブ演奏に便利な4つのパッドや4種類のSTSも、ソングブックの各エントリー(曲)別に設定することができます。また、スタンダードMIDIファイルやMP3ファイルに歌詞イベントが入っていない場合は、エントリーとテキスト・ファイルをリンクさせて歌詞イベントの代わりに利用することも可能です。また、スタイルをバックに演奏することも可能です。

ソングブックにはエントリーとして追加したり、既存のエントリーをエディットしたりすることができます。Pa900には数百のエントリーがすでに収録されていますが、ソングブックを使用して、演奏スタイルに合わせ、さまざまなソングブックのカスタム・リストを作ることができます。

SONGBOOK キー

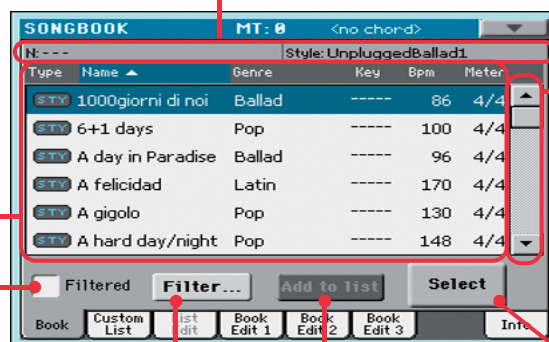
メイン・リストからエントリーを選ぶ

Pa900に内蔵しているデータベースはカスタマイズすることができます。このデータベースはさまざまな方法で閲覧できます。

1 **Style Playモードあるいは Song Playモードで、パネルのSONGBOOKキーを押してソングブック・ウィンドウを開きます。**

現在、アレンジャーやプレーヤーにアサインされているスタイル、スタンダードMIDIファイル、MP3ファイル。

ソング・ブック・メイン・リスト

ここにチェックを付けて、フィルター機能をオンにします。

このボタンをタッチして、表示フィルターをエディットします。

カスタム・リストに選んだエントリーを追加します(71ページ参照)。

このボタンをタッチして、エントリー(スタイルやファイル)を選択し確定します。

スクロールバーまたはVALUEダイアルを使ってリスト内のすべてのソングを確認できます。また、SHIFTキーを押しながら上下の矢印ボタンをタッチすると、現在表示されている部分から前または次のアルファベット順の名前が付いたソングにジャンプできます。

2 エントリーを閲覧します。

Type欄のアイコンでエントリーのタイプを示します。初期設定ではGenre欄を表示しますが、これをArtist欄に切り替えることもできます（以下の「アーティスト、またはジャンルを表示する」を参照）。

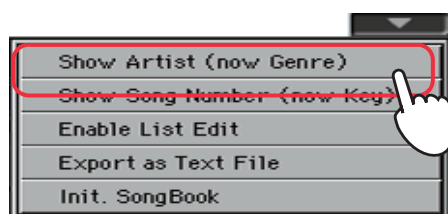
3 選択するエントリーを画面に表示しているときは、それを選択して（反転表示）画面のSelectボタンをタッチして確定します。

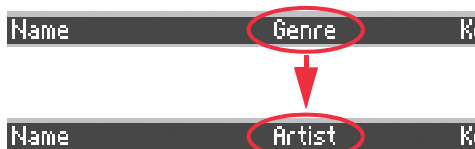
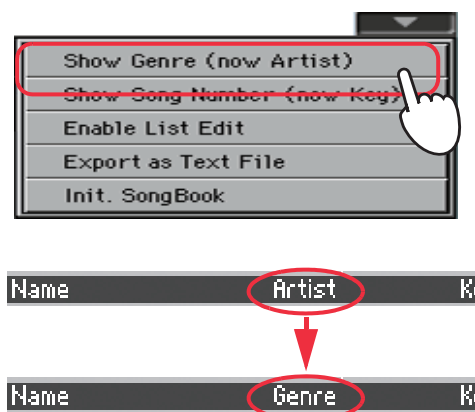
エントリーが選択確定されると、対応するMIDIファイル、KARファイル、またはMP3ファイルが、それぞれの操作モード（Style PlayまたはSong Play）で呼び出されます。最大4つのSTSとパッドの設定も同時に呼び出すことが可能です。エントリーにリンクしたテキスト・ファイルは、歌詞ページで見ることができます。

選択されたスタイル、MIDIファイル、KARファイル、またはMP3ファイルは画面の上部に表示します。

アーティスト、またはジャンルを表示する

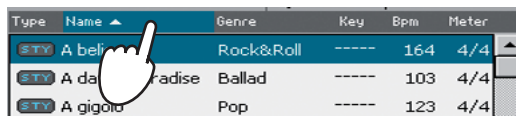
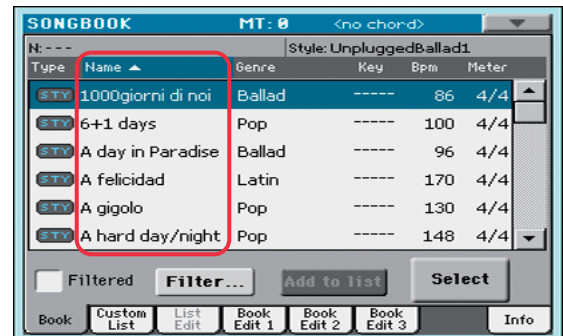
画面には、Genre欄とArtist欄のどちらか一方を表示します。両方を同時に表示することはできません。

1 ページ・メニュー・ボタンをタッチして、ページ・メニューを開きます。

> **Note:** すでに表示しているArtistとKeyは、コマンドの右端のカッコ内に表示されます。

2 メニューから“Show Artist (now Genre)”を選んで、リスト表示のGenreをArtistに切り替えます。Artist欄が表示されます。

3 その後ページ・メニューを再度開いて、“Show Genre (now Artist)”を選ぶと、Genre欄を再表示します。

エントリーの並びを変える

画面に表示されるエントリーの並びを変えることができます。

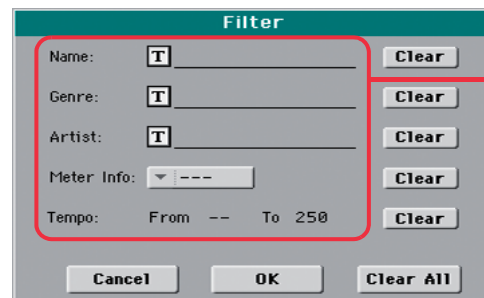
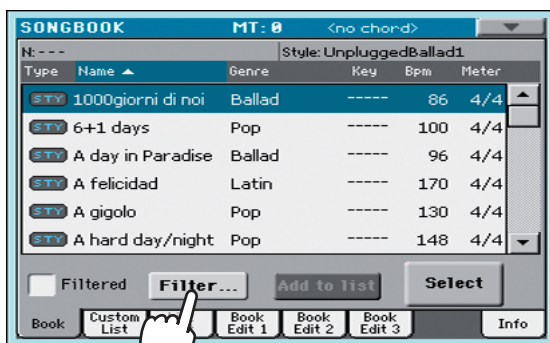
1 リストのラベルの1つを選択することで、並び順の条件を変えることができます。

ネーム・ラベルをタッチしてください。

リストがネームのアルファベット順に並び変えられます。ラベルをタッチするたびにリストの表示が昇順、降順に切り替わります。

タイプ、ネーム、ジャンル、アーティスト、キー、番号、テンポ、または拍子のラベルをタッチすることによって、同じように並べ替えることができます。

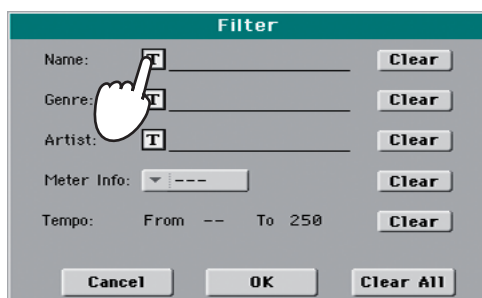
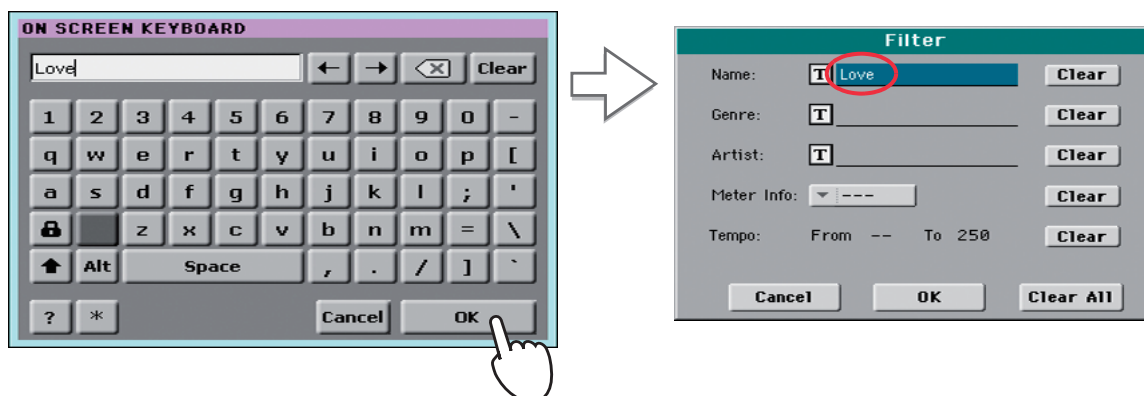
2 それぞれのラベルをタッチするたびに、リストの表示が昇順、降順に切り替わります。

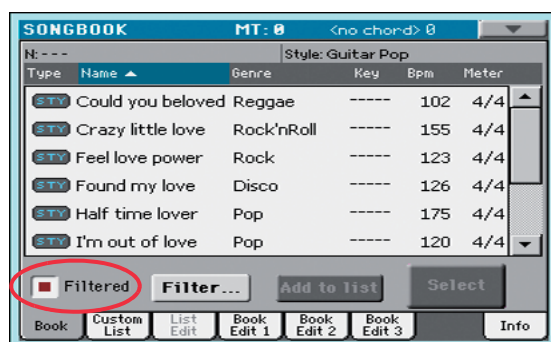
エントリーの検索

ソングブックのデータベースは膨大なため、すべてのエントリーを閲覧し検索するには時間がかかります。そこで、フィルター機能を使うと、特定のアーティストやソングのタイトルで、すばやく検索することができます。

1 画面のFilterボタンをタッチして、Filterダイアログ・ボックスを開きます。

利用可能なフィルターの条件。“Genre”と“Artist”はリストに表示されていなくても、両方の条件を考慮します。

2 入力する検索条件(複数も可能)の T (テキスト・エディット)ボタンをタッチします。

例えば、タイトルに「Love」という言葉を含むすべてのソングを探すとします。そのときは、“Name”の条件を選択して「Love」という言葉を入力します。大文字/小文字は、検索には影響ありません。

3 **画面の OK ボタンをタッチして、テキスト・エディット・ウィンドウを閉じます。入力した文字が検索条件となります。**

4 **画面のOKボタンをタッチして、Filterダイアログ・ボックスを閉じ、ソングブック・ページに戻ります。**

OKボタンをタッチしてFilterダイアログ・ボックスを閉じると、"Filtered"のチェック・ボックスには自動的にチェックが付き、フィルター機能が有効になったことを示します。メイン・リストには検索条件に合ったエントリーだけが表示されます。

5 **再度ソングブックのデータベースすべてを見るときは、"Filtered"のチェック・ボックスをもう一度タッチしてチェックを外します。**

エントリーの追加

ソングブックのデータベースに、独自のエントリーを追加できます。

1 ソングブックのデータベースに加えるエントリーの属性によって、Style PlayモードまたはSong Playモードを選択します。

2 ソングブックのデータベースに追加するスタイル、スタンダードMIDIファイル、またはMP3ファイルを選択します。

ソングをプレイヤー1にアサインします（プレイヤー1にアサインしたソングのみがソングブックにエントリーを追加できます）。

3 必要に応じて、異なるサウンドやエフェクトを選択したり、その他のパラメーターを変更したりして、キーボード・トラックやスタイル・トラックをエディットします。

スタンダードMIDIファイルのトラックへの変更は、ソングブックのデータとしては保存できません。使用しているスタンダードMIDIファイルに含まれるデータが常に対象となります。

4 ボイス・プロセッサーのプリセットを選択します。

5 準備ができたら SONGBOOK キーを約 1 秒間押したままにし、現在のセッティングを新たなソングブックのエントリーとして作成します。

6 T（テキスト・エディット）ボタンをタッチして新たに作成したエントリーに名前を付け、OKをタッチしてソングブックのデータベースに保存します。

エントリーをエディットする

ソングブックのエントリーは自由にエディットすることができます。エディットが終了したら、そのまま上書き保存するか、または新規エントリーとして保存することができます。

1 SONG BOOKキーを押してソングブック・ページを表示します。

2 Book Edit 1 タブをタッチしてブック・エディット1ページを開き、リンクされたミュージカル・リソースを確認します。

Book Edit 1ページでは、そのエントリーで使用しているスタイルまたはソング名を確認でき、それらを入れ替えることもできます。

エントリーで使用している(リンクされている)スタイルまたはソング名です。

エントリー名

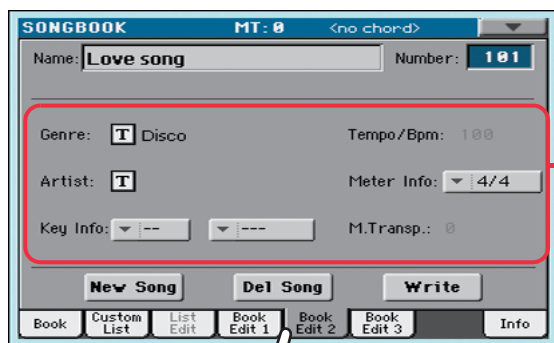
曲の選択番号(数字選択のためのID番号)

ここにチェックが入っている場合、その時のスタイル・トラックのセッティング、またはソング・ファイルのパス(ソング・ファイルが保存されているロケーション)がエントリーの一部として保存されます。チェックが入っていない場合は、その時のセッティングはそのまま何も変更されません。このパラメーターは、New Songボタンを押して新たにエントリーを作成する際に、自動的にチェックが入った状態になります。

ここにチェックが入っている場合、その時に使用しているすべてのSTSをエントリーの一部として保存するか、またはその時のキーボード・トラックのセッティングに保存されているSTSのみを選択してエントリーの一部として保存することができます。

ここにチェックが入っている場合、グローバルのボイス・プロセッサー・プリセットをエントリーの一部として保存していることを表示します。(これは表示用です。タッチしても何も反応しません。)

ここにチェックが入っている場合、その時のボイス・プロセッサーのプリセットをエントリーの一部として保存することができます。また、チェックが入っていない場合は、その時のセッティングはそのまま何も変更されません。

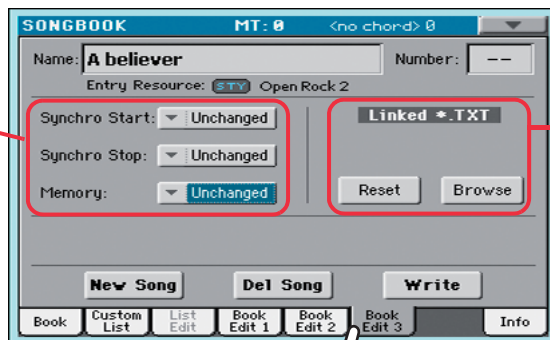
3 エディットしたら、Book Edit 2タブをタッチしてブック・エディット2ページを開き、さらに詳細な設定を行います。

データ・ベースに追加したエントリーのパラメーター

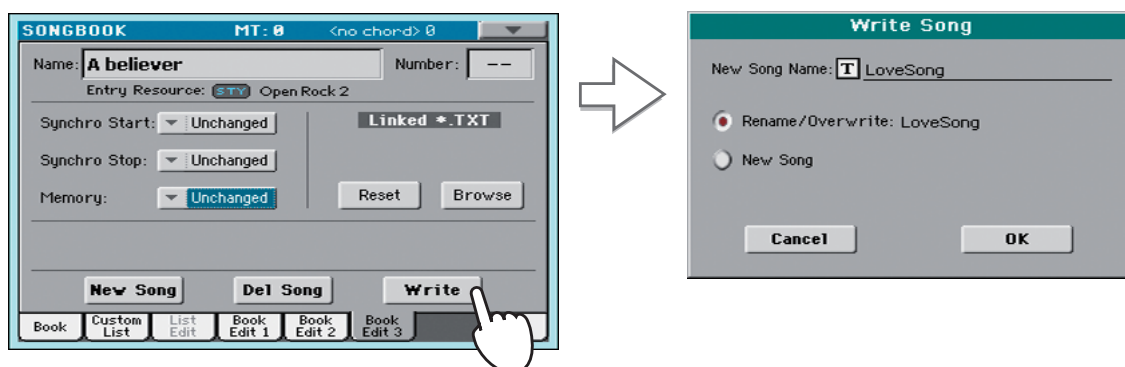
4 エディットする項目の T (テキスト・エディット)ボタンをタッチし、名前を入力します。その他のパラメーターを設定します。

音楽ジャンルやアーティスト名をここに入力できます。続いて曲のテンポ、拍子、キーを設定します。また、ここでマスター・トランスポーズを設定することもでき、そのエントリーを選択すると自動的にそのトランスポーズ設定を呼び出すこともできます。

Note: ロックがかかっていると、マスター・トランスポーズの変更はできない場合があります(Globalモード「Locks」参照)。

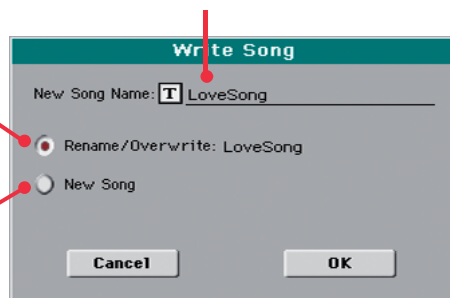
5 このページでの設定が終了したら、Book Edit 3タブをタッチしてブック・エディット3ページを開きます。ここでは、シンクロスタート/ストップやメモリーの設定、テキスト・ファイルへのリンクなどを設定します。

同期(スタイル)とメモリー(スタイルとソング)のオン/オフ設定。

テキスト・ファイル(.txtファイル)がエントリーにリンクされている場合、ここに表示されます。リンクされたテキスト・ファイルの内容は、歌詞表示としてPa900の画面または外部ビデオ・モニターに表示されます。

6　必要と思われるすべての項目を設定したら、画面のWriteボタンをタッチして、Write Songダイアログ・ボックスを表示します。

7　T （テキスト・エディット）ボタンをタッチしてエントリーに名前を付け、OKボタンをタッチして、ソングブックのデータベースに新規のエントリーを保存します。

エントリー名。初期設定では関連したMP3ファイルのスタンダードMIDIファイルと同じ名前です。名前の長さは16文字まで。

既存のエントリーを上書きするときは、“Rename/Overwrite”を選択します。**Warning:** 古いエントリーは削除します。

“New Song”を選択して、ソングブック・リストに新規のエントリーを追加します。新規のエントリーを作成（エディット1ページのNew Songボタンをタッチ）したときは、これを自動的に選択します。

カスタム・リストの作成

ソングブックに、演奏スタイルに合わせた一連のエントリーを、カスタム・リストとして作ることができます。新規のカスタム・リストを作成する前に、ソングブックのデータベースに必要なすべてのエントリーが追加されていることを確認します（前述の「エントリーの追加」参照）。

1　SongBookモードで、ページ・メニューを開き、“Enable List Edit”にチェックを付けます。

“Enable List Edit”にチェックを付けると、リスト・エディット・ページが有効になります。

2　エディットするカスタム・リストを選択します。

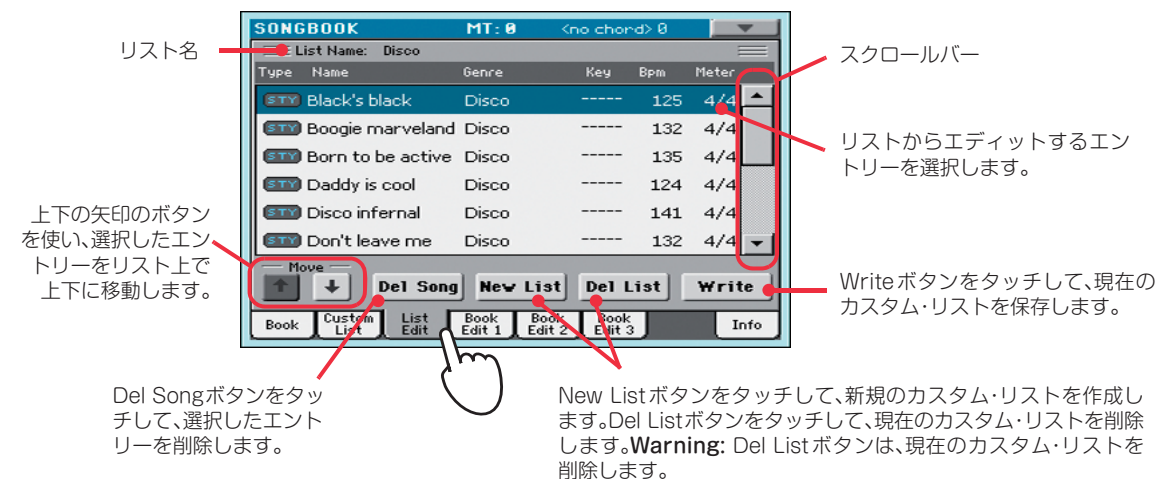
既存のリストをエディットするときは、Custom　Listタブをタッチしてカスタム・リスト・ページを開き、カスタム・リストを選択します。新規のリストを作成するときは、List Editタブをタッチしてリスト・エディット・ページを開き、New Listボタンをタッチして空のリストを作成します。

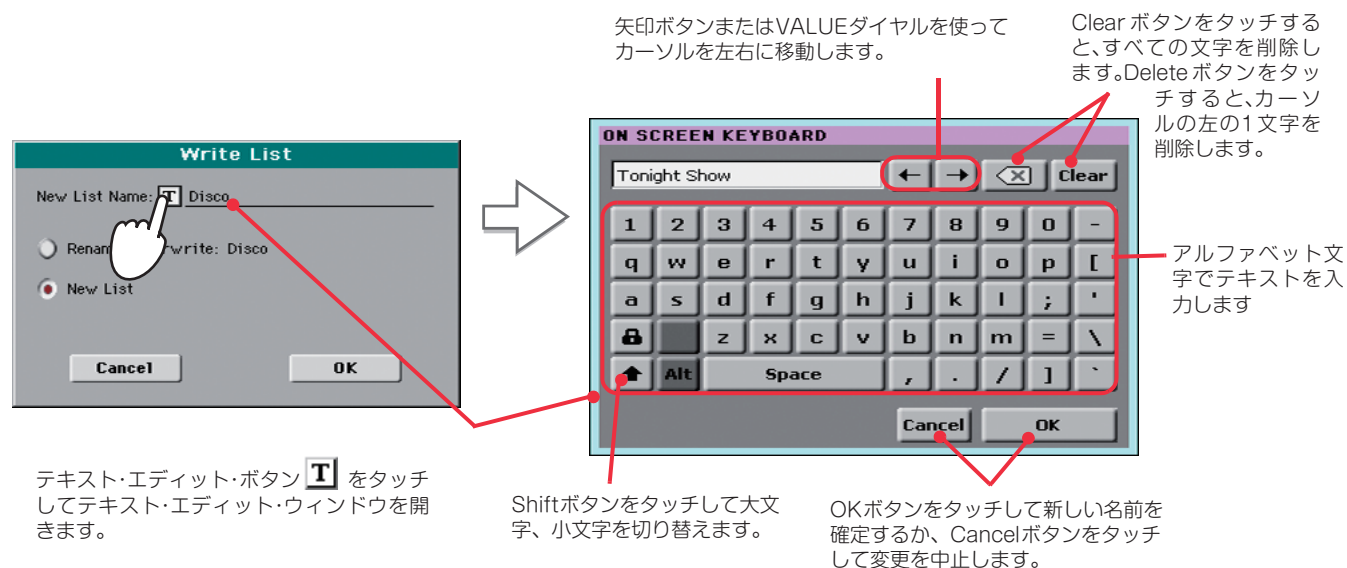
3　Book タブをタッチしてソングブック・ページを開きます。さまざまな並び替え、検索、フィルター条件（前述参照）を使って、必要なエントリーを選びます。必要なエントリーを選んだら、Add to Listボタンをタッチします。

スクロールバーまたはVALUEダイアルを使ってリスト内のすべてのソングを確認できます。また、SHIFTキーを押しながら上下の矢印ボタンをタッチすると、現在表示されている部分から前または次のアルファベット順の名前が付いたソングにジャンプできます。

4　カスタム・リストにすべてのエントリーを追加したら、List　Editタブをタッチしてリスト・エディット・ページを開き、さまざまなボタンを使ってリストをエディットします。

Del Songボタンをタッチして、選択したエントリーを削除します。

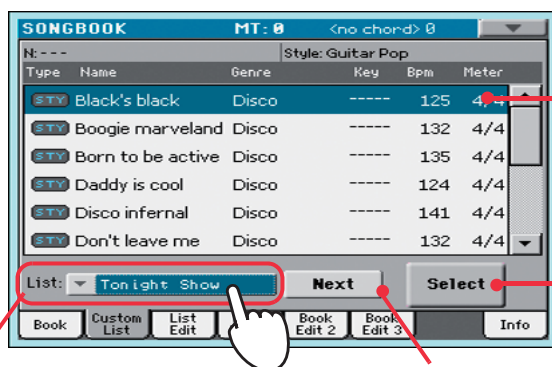
New Listボタンをタッチして、新規のカスタム・リストを作成します。Del Listボタンをタッチして、現在のカスタム・リストを削除します。Warning: Del Listボタンは、現在のカスタム・リストを削除します。

5　カスタム・リストが完成したら、画面の　Write　ボタンをタッチして保存します。必要に応じて、カスタム・リストに新規に名前を付けます。

OKボタンをタッチして新しい名前を確定するか、Cancelボタンをタッチして変更を中止します。

6　カスタム・リストのエディットが終了したら、ページ・メニューを開き、"Enable　List　Edit"のチェックを外します。

カスタム・リストを選んで使う

カスタム・リストを作成したら、それを選んで再生することができます。

1 **Custom Listタブをタッチして、カスタム・リスト・ページを選択します。**

2 **Listポップアップ・メニューを使って、カスタム・リストを選択します。**

再生中のエントリーです。他のものを選択するときは、選択するエントリーを反転表示させ、画面のSelectボタンをタッチします。

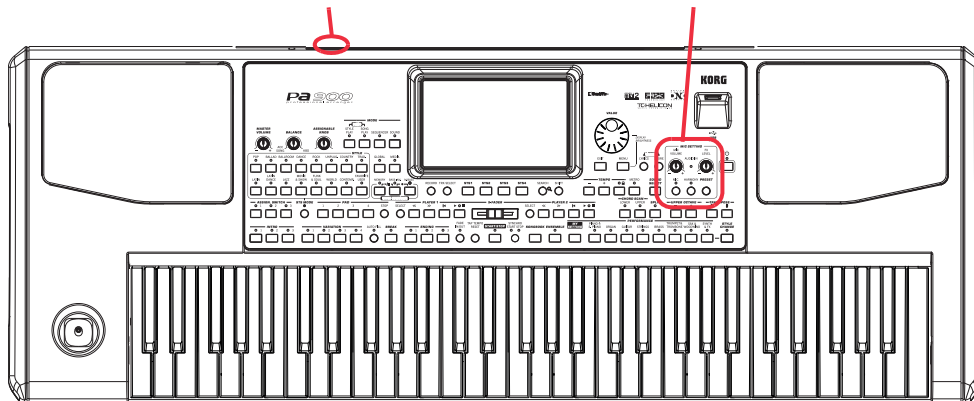
Selectボタンをタッチして反転表示のエントリーを選択確定します(自動的に選ばれているものと違うものを再生する場合)。

このListポップアップ・メニューを使ってカスタム・リストを選択します。

Nextボタンをタッチして、リスト上の次のエントリーを選択します(この機能は、パネルのアサイナブル・スイッチキーに割り当てることができます)。

3 **リストからエントリーを選択し(反転表示します)、画面の Select ボタンをタッチして選択を確定させます(この時、選択したエントリーが緑色に変化します)。次にPLAYキーを押すと選択したエントリーが再生されます。**

マイクを使って歌う

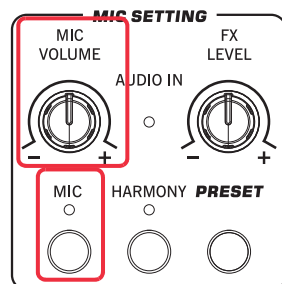
Pa900は、ダイナミック・マイクに対応した高品位のマイク入力部を装備しています。また、TC Heliconが開発したパワフルなデジタル・ボイス・プロセッサーを内蔵し、3声のハーモニーなど様々なエフェクトを作り出すことができます。

マイクを接続する

Pa900の演奏にボーカルをのせてプレイするには、まずダイナミック・マイクをPa900のAUDIO IN LEFT端子に接続します(この端子にはボイス・プロセッサーが内部的に接続されています)。

1　GLOBALキーを押し、画面上のAudio & Videoボタンをタッチします。次にAudio Inタブをタッチして Audio Inページを開きます。

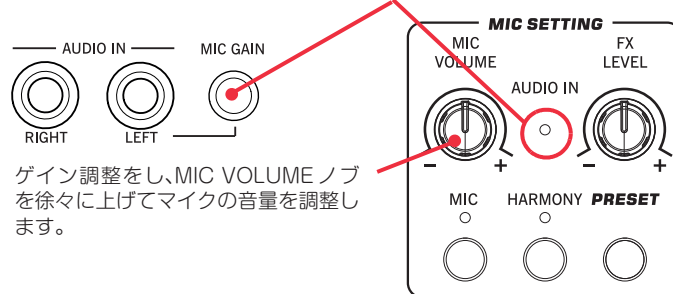
この時、"Input Routing"パラメーターが「Left In to Voice Processor」に設定されていることを確認します。

2　EXITキーを押してメイン画面に戻ります。

3　パネル上にあるMICキーで押してLEDを消灯させマイク入力をオフにし、MIC　VOLUMEノブを左いっぱいに回し切ります。

Note：マイクのレベルを低めに保つことで、マイクのハウリング（フィードバック）を防ぐことができます。このハウリングはPa900からの音をマイクが拾ってしまい、Pa900 のオーディオ回路に入ってしまうことによって起こります。

4 **マイクを接続します。**

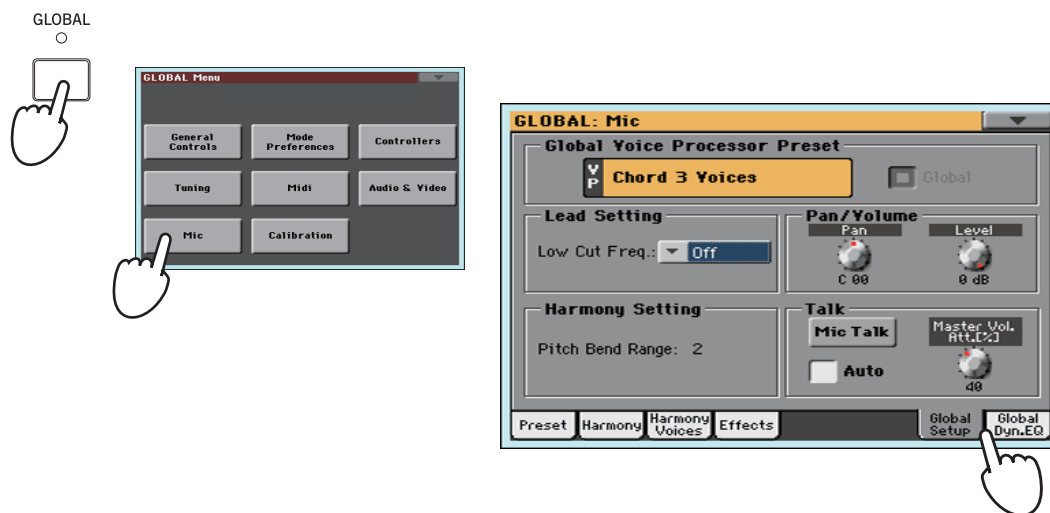
5 **MICキーを押してLEDを点灯させマイク入力をオンにします。そしてMIC VOLUMEノブを少しずつ上げていきます。マイクに向かって歌いながら、レベルが適正になるまでMIC GAINノブで調整します。**

マイクの入力レベルはLEFTオーディオ入力端子の隣にあるMIC GAINノブで調整します。マイクに向かって歌いながらパネル上のAUDIO IN LEDの表示を確認します。この表示がグリーンに点灯するように、またマイクに向かって歌ったときに声が歪んでいないように入力レベル調整をします。この表示がオレンジに点灯することが多い場合は、入力レベルを下げてください。AUDIO IN LED自体があまり点灯しない場合は入力レベルが低すぎる状態です。入力レベルを上げてください。

6 **マイク入力レベルの調整が完了したら、MIC VOLUMEノブでマイクの音量とPa900の演奏のバランスを調整します。**

ボーカルのトーンを設定する

マイク入力には、イコライザーやコンプレッサー、ゲートを使用してボーカルのトーンを調整したり、音量変化を一定に保つようにすることができます。これらを使用することで、ボーカルが劇的に上手くなるということはありませんが、ライブなどの状況で起こりうる問題を解消できる手助けになります。

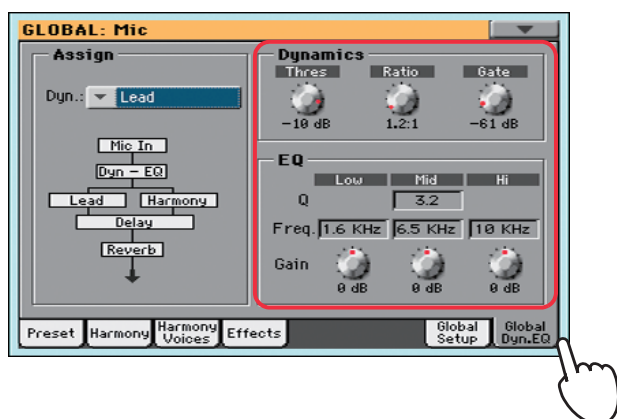
1 **ボーカルのトーンが必要以上にコモって聴こえる場合（「ブーミー」な状態とも言います）は、Globalモード Mic：Global Setupページに入ります。手順は、GLOBALキーを押し、画面上にあるMicボタンをタッチし、Global Setupタブをタッチします。**

Global Setupページが画面に表示されます。

ヒント：SHIFTキーを押しながらMICボタンを押すとGlobalモードのMic Setupページにジャンプできます。

2 **Low Cut Freq.”パラメーターで低音域をカットします。**

低い周波数からスタートして、マイクの音質が改善するまで徐々に周波数を上げていきます。また、マイクから少し離れて歌うことで音質が改善することもあります。

3 Global Dyn./EQタブをタッチしてボーカルのトーンなどを調整します。

Global Dynamics/EQページが開きます。

4 コンプレッサーとゲートの設定を行います。

コンプレッサーのスレッショルド（"Thres"）とレシオ（"Ratio"）を調整することにより、ボーカルの声がよりハッキリとした音質になります。ゲート（"Gate"）は、マイクから拾われる不要な雑音をカットしたいときに使用します。また、ゲートを使用することによりマイクのハウリングを防ぐこともできます。

5 イコライザーの調整をします。

ボーカルの音質そのものは、イコライザーで調整することができます。ハイを上げるとよりブライトな音質になり、子音の発音も明瞭に聴こえやすくなります。ローを上げると、ボーカル·サウンドのいわばボディ部分とも言うべき芯の部分が持ち上がりますが、上げ過ぎるとマイクを口にピッタリと付けて発声した時のような、こもった声になりますのでご注意ください。ミッドを上げるとより明瞭度の高いボーカル·トーンにすることができますが、上げ過ぎると耳障りの悪い音質になりますのでご注意ください。

ヒント：
イコライザー（EQ）には、メイン画面のマイク・パネルからアクセスすることもできます。

6 EXITキーを押してメイン画面に戻ります。

7 ダイナミクスやイコライザー（EQ）を使うことによりマイクのボリュームが変化することがありますので、MIC VOLUMEノブでもう一度マイクのボリュームを調整します。

ボイス・プロセッサーのプリセットを選択する

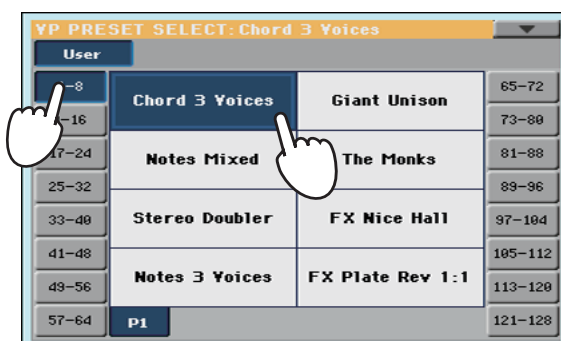
ボイス・プロセッサーのプリセットを使用してマイク入力にエフェクトをかけることができます。これらのプリセットはボイス・プロセッサーのエフェクトに必要なすべてのセッティングをメモリーしたものです。プリセットはエディットすることもできます。

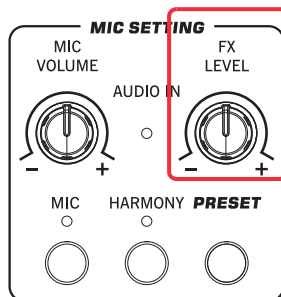
1 MIC SETTINGセクションにあるPRESETボタンを押し、VP Preset Selectウィンドウからプリセットを選択します。

ボイス・プロセッサー・プリセット(VPプリセット)には、様々なボイス・プロセッサー・エフェクトのセッティングがあります。プリセットを選択することにより、様々なエフェクト・サウンドをお楽しみいただけます。

VPプリセットには、Pa900全体で使用するグローバルVPプリセットの他に、パフォーマンスやスタイル、ソングブックのエントリーごとに設定可能な「ローカル」VPプリセットもあります。これらのプリセットを選択すると、即座にボイス・プロセッサーの設定がプリセットの内容に切り替わり、ボーカル・マイクに様々なエフェクトを追加します。VPプリセットは、メイン画面のMicタブから選択できます。

PRESETボタンを押すか、またはVPプリセット名をタッチしてVPプリセットを選択します。

ここにチェックが入っている場合、選択しているVPプリセットがグローバルのVPプリセットであることを表示しています。

2 マイクに向かって歌いながらエフェクト音を確認します。

3 リバーブまたはディレイ・エフェクトの音量は、MIC SETTINGセクションにあるFX LEVELノブで調整できます。

4 別のプリセットを選択し、エフェクト音がどのように変化するかを確かめてみましょう。

スタイルを演奏しながらボーカルにハーモニーを付ける

Pa900では、ボーカル・マイクに自動的に最大で3声までのハーモニーを付けることができます。各VPプリセットにはそれぞれ異なるハーモニーのスタイル(例えば、ボイス数の違いやハーモニーのコントロール元(キーボードやスタイルまたはソング)などの違い)が内蔵されています。

ここでは、Style PlayモードでのVPプリセットの使用法をご紹介します。

1 **STYLE PLAYキーを押してStyle Playモードに入り、演奏したいスタイルを選択します。**

2 **VPプリセットの「Chord 3 Voice」を選択します。**

このVPプリセットは、キーボード上のコード・スキャン・エリアで演奏されたコード情報を使ってハーモニー・パートを生成します(ハーモニー・モードは「Chord」になっています)。

Note: このVPプリセットは、Song Playモードでも使用できます。この場合もStyle Playモードと同様、キーボード上のコード・スキャン・エリアで演奏したコードでボーカルにハーモニーを付けられます。

3 **HARMONYキーを押してLEDを点灯させます。ハーモニー機能がオンになります。**

4 **スタイルをスタートします。**

5 **コードを演奏してボイス・プロセッサーにハーモニー・パートを生成するためのコード情報を送り、マイクに向かって歌います。**

ボーカルにハーモニー・パートがプラスされます。

6 **スタイルを停止します。**

7 **HARMONYキーを押してLEDを消灯させます。ハーモニー機能がオフになります。**

ソングを演奏しながらボーカルにハーモニーを付ける

ハーモニー・パートを生成するためのノート情報(音程情報)は、ソングのトラックから受け取ることもできます。ここでは、Song PlayモードでのVPプリセットの使用法をご紹介します。

1 **SONG PLAYキーを押してSong Playモードに入り、演奏したいソングを選択します。**

2 **VPプリセットの「Notes 3 Voices」を選択します。**

このプリセットは、スタンダードMIDIファイルのトラック5に入っているMIDIデータからハーモニー・パートを生成するためのノート情報を受け取ります。別のトラックを選択するには、SHIFTキーを押しながらHARMONYキーを押してハーモニー・ページを開き、"Song Control"パラメーターで別のトラックを選択します。

Note: このプリセットはStyle Playモードでも使用できます。この場合、ハーモニー・パートを生成するためのノート情報は、キーボードの全域から指定できます。

3 **HARMONYキーを押してLEDを点灯させます。ハーモニー機能がオンになります。**

4 **ソングをスタートさせます。**

5 **ソングに合わせて歌います。この時、ボイス・プロセッサーはソングのトラックに入っているノート情報を基にハーモニー・パートを生成します。**

6 **ソングを停止させます。**

7 **HARMONYキーを押してLEDを消灯させます。ハーモニー機能がオフになります。**

ボーカルとエフェクト、トラックの音量バランスを調整する

ボイス・プロセッサーのエフェクト設定が完了したら、次はボーカルとボーカル・エフェクト、そしてスタイルやソングの音量バランスを調整します。

1　必要に応じて、スタイルまたはソングをスタートさせます。

2　MIC VOLUMEノブでボーカルの最終的な音量を調整します。

MIC VOLUMEノブの設定は保存されませんので、スタイルやパフォーマンス、ソングやボイス・プロセッサーのセッティングを切り替えてもそのままの設定になります。

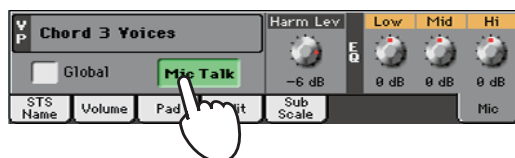
3　ハーモニー機能がオンのときは、ハーモニー・ボイスの音量をマイク・パネルのメイン画面にある"Harmony Level"パラメーターで調整します（デフォルト設定では、このパラメーターはAssignableノブにアサインされています）。

4　ボイス・エフェクトの音量レベルをFX LEVELノブで調整します。

トーク機能を使う

ライブでは、客席に向かって話をしたりすることがあります。トーク機能を使うと、バックの音楽の音量が小さくなるので、声がよく伝わるようになります。

1　Style Playモード、またはSong Playモードのメイン・ページで、Micタブをタッチしてボイス・プロセッサーの設定を表示します。

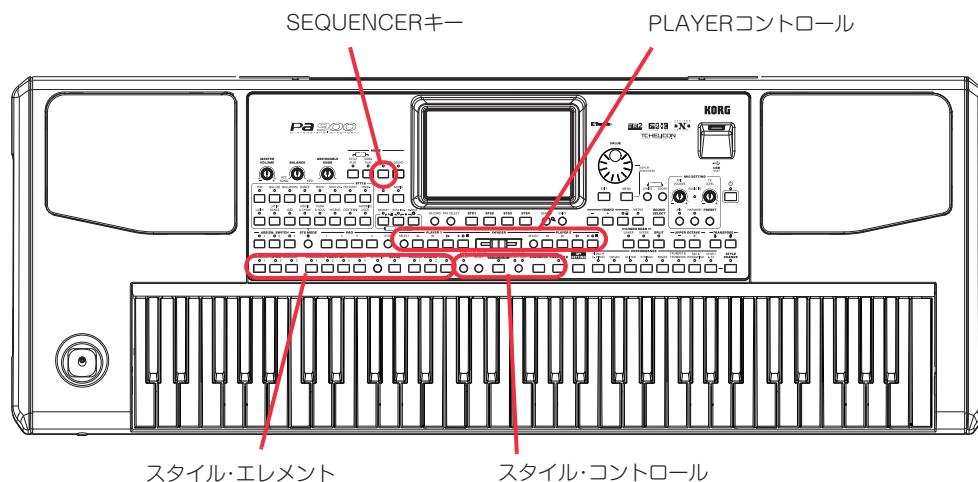
2　再生中に、Talkボタンをタッチしてトーク機能をオンにします。

3　マイクに向かって歌ったり話したりします。

バックの音楽が小さくなって、声が大きく聞こえます。

4　Talkボタンをタッチしてトーク機能をオフにします。

バックの音楽は元の音量に戻ります。

新しいソングを録音する（スタンダード MIDI ファイル）

Pa900では、いろいろな方法でソングを録音することができます。最も簡単な方法は、スタイル・プレイを使って、アレンジャー機能でアカンパニメント・トラックを再生しながら、鍵盤の演奏をリアルタイムに録音する方法です。

スタイルやサウンドの準備をする

Recordモードに入る前に、録音に使用するスタイルやサウンドの準備を事前に行っておくことをお勧めします。

1 **録音したいスタイルを選択します。**

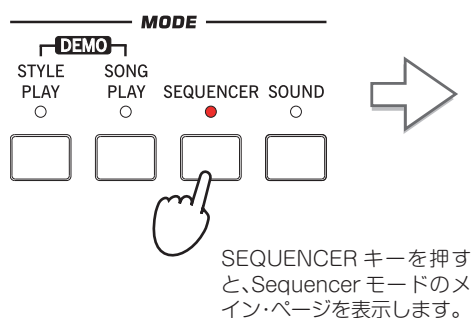
2 **パフォーマンスまたはSTSを選択して録音に使用するサウンドを準備します。**

これで準備完了です。Recordモードに入る準備が整いました。

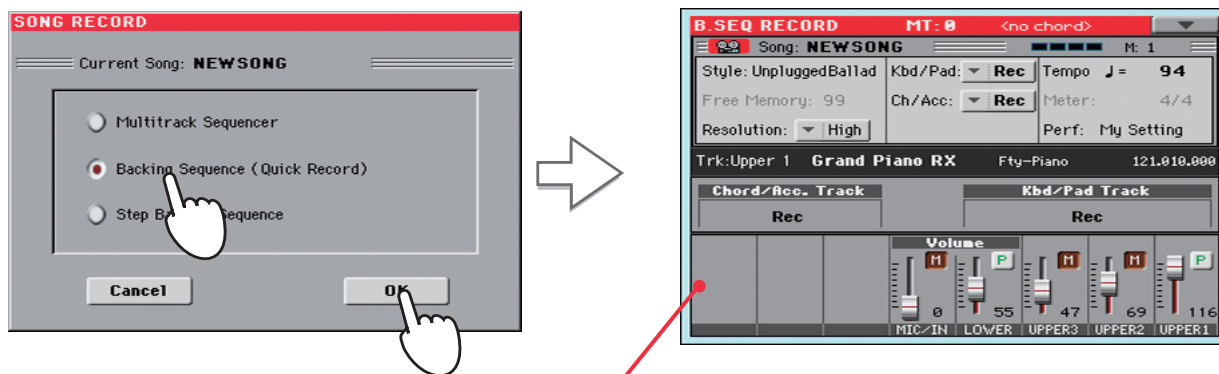
Backing Sequence（Quick Record）モードに入る

1 **SEQUENCERキーを押して、Sequencerモードに切り替えます。**

SEQUENCER キーを押すと、Sequencer モードのメイン・ページを表示します。

2 **RECORDキーを押して、Song Recordモードのダイアログ・ボックスを表示します。**

RECORDキーを押して、Song Recordモードのダイアログ・ボックスを表示します。

3 **“Backing Sequence(Quick Record)”を選択し、OKボタンをタッチしてBacking Sequence Recordモードに入ります。**

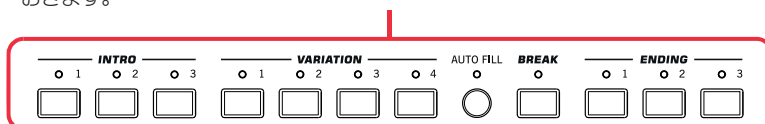
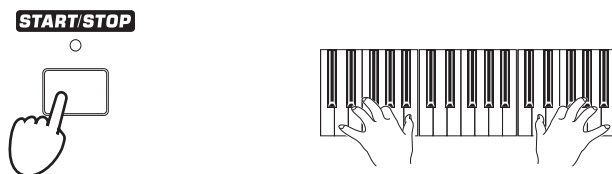
“Backing Sequence(Quick Record)”を選択すると、バッキング・シーケンス録音ページを表示します。

録音パラメーターの設定

Backing Sequence Recordモードでは、モードに入る直前に使用していたスタイルやサウンドが選択されていて、すべてのトラックの録音準備ができています。スタイル・プレイと同じように演奏すれば、その演奏を録音できます。必要に応じて設定してください。

- **必要に応じて、画面のエディット可能なパラメーターを調整します。**

録音開始

1　録音を開始する前に、スタイル・エレメントを選択します。

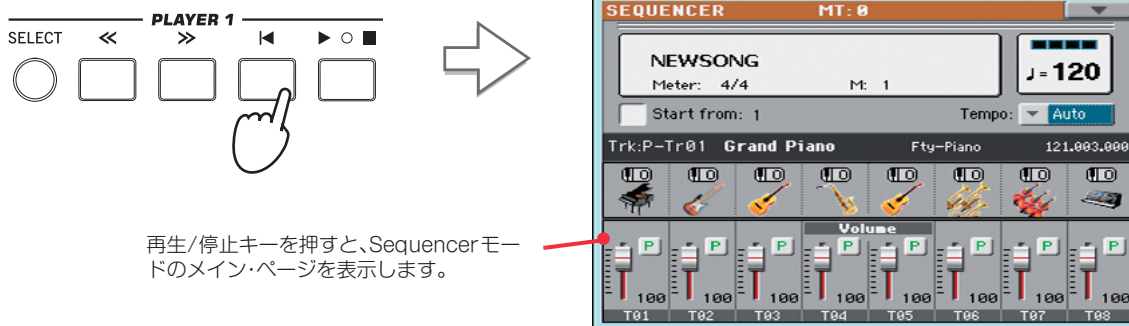
一般的には、はじめにイントロを選択し、イントロを使って開始します。録音の前にイントロ終了後に演奏される最初のバリエーションを、あらかじめ選択しておきます。

2　START/STOPキーを押して、録音を開始します。

3　演奏してください。

録音中は、スタイル・エレメント(イントロ、バリエーション、ブレーク、エンディング)を選択できます。START/STOPキーを押してスタイルを停止し、もう一度押してスタイルを再開させることもできます。

Backing Sequence Recordモードでは、SYNCHRO、TAP TEMPO/RESETキー、BALANCE VOLUMEコントロールは無効になるので注意してください。

Note: スタイルを再生しないでソングを開始するときは、PLAYER1セクションの ▶/■ (再生/停止)キーを押します。そして録音を開始し、その後でスタイルを開始させます。スタイルは次の小節から開始します。

4 ソングの録音が終了したら、PLAYERセクションの ▶/■（再生/停止）キーを押して、Sequencer モードのメイン・ページに戻ります。

再生/停止キーを押すと、Sequencerモードのメイン・ページを表示します。

5 Sequencer モードのメイン・ページで、PLAYERセクションの ▶/■（再生/停止）キーを押し、録音されたソングを聴きます。

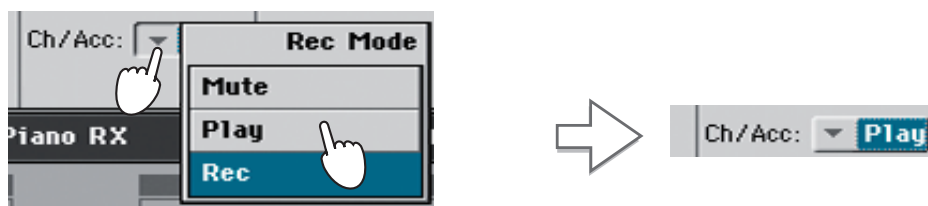
バッキング・シーケンスのソングは、通常のソング（スタンダードMIDIファイルまたは".MID"フォーマット）に変換されます。これを保存（86ページ）してから、Song Playモードで改めて読み込んだり、外部シーケンサーで再生することもできます。

6 ソングをエディットするときは、パネルのMENUキーを押してEditモードに入ります。

2度目の録音をする（オーバーダビング）

録音をした結果、さらに追加のグルーピングされたトラックを録りたかったり、あるいはミスをしたトラックを差し替えたいと思われることがあるかも知れません。そんな場合、コード情報とスタイル・エレメントの切り替えを最初のテイクとして録音し、その後にキーボード・トラックやパッドの演奏を録音するのが良いかも知れません。

1 RECORDキーを押して、再度録音します。Song Recordモードのダイアログ・ボックスが表示されたら、"Backing Sequence(Quick Record)"を選択し、OKボタンをタッチしてBacking Sequence Recordモードに入ります。

2 トラックのどちらか片方に録音する場合は、録音しないトラックの"Rec Mode"をPlayに設定します。

3 録音の手順を繰り返し、PLAYER1セクションの ▶/■（再生/停止）キーを押して録音を停止し、Sequencerモードのメイン・ページに戻ります。

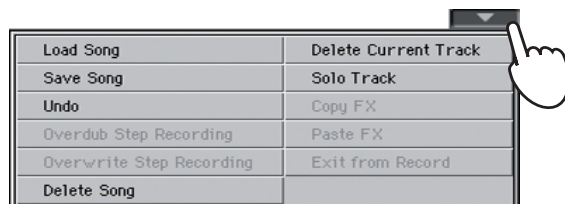
4 Sequencer モードのメイン・ページで、PLAYER1セクションの ▶/■（再生/停止）キーを押し、録音されたソングを聴きます。

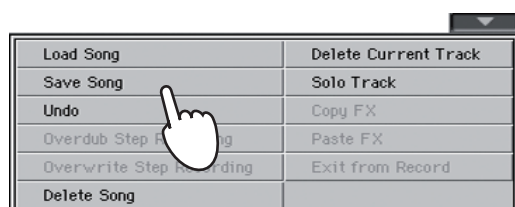
バッキング・シーケンスのソングは、再度、通常のソング形式（スタンダードMIDIファイル）に変換されます。

ソングを保存する

ソングを録音したら、Pa900をオフにして消えてしまわないように保存しましょう。

1　Sequencer　モードのメイン・ページで、ページ・メニュー・ボタンをタッチしてページ・メニューを開きます。

Load Song	Delete Current Track
Save Song	Solo Track
Undo	Copy FX
Overdub Step Recording	Paste FX
Overwrite Step Recording	Exit from Record
Delete Song	

2　メニューから“Save song”を選んで、ソング保存ウィンドウを表示します。

この画面はMEDIAモードのSaveページとよく似ていますが、このページではソング・ファイルのみが表示されます。

メニューから“Save song”を選んで、ソング保存ウィンドウを表示します。

3　ソングを保存するデバイスとフォルダを選択します。

ソングを選択（反転表示）している場合、ソングの名前を変更しないで保存すると、そのソングに新しいソングを上書きします。ソングを選択していない場合、ソングを保存すると、デバイス上に新規のソング・ファイルを作ります。選択されたソングを解除するときは、ソング・リストの他の部分をタッチするか、同じ保存先デバイスを再度選択します。

スクロール・バーを使ってリスト内のすべてのソングを閲覧します。SHIFTキーを押しながら、上下のスクロール・アロー（▲、▼）をタッチすると、次か前のアルファベットがリストの先頭になります。VALUEダイヤルを使っても、ソングを閲覧することができます。

Saveボタンをタッチし、ソングを現在のフォルダに保存します。

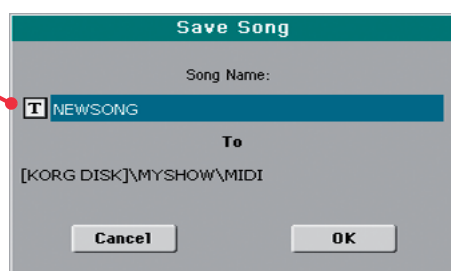
Deviceポップアップ・メニューを使って、デバイスを選択します。

Open、Close　ボタンを使って、フォルダ内を閲覧できます。

EXIT

ソングを保存しないで、元のページに戻るときは、EXITキーを押します。

4　画面のSaveボタンをタッチして、Save Songダイアログ・ボックスを開きます。

テキスト・エディット・ボタンをタッチして、ソングの名前をエディットします。

5　画面のOKボタンをタッチして保存します。Cancelボタンをタッチしたときは保存の操作を中止します。

新しいソングを録音する (MP3 ファイル)

Pa900での演奏をMP3ファイルとして録音することができます。この時、次のことにご注意ください:

- キーボードでの演奏やスタイル、プレイヤーで演奏したスタンダードMIDIファイルのすべてを録音できます。
- AUDIO IN端子から入力されたオーディオ信号もすべて録音できます(“Mic In to Voice Processor”オプションを選択した場合のマイク入力、“Audio In to Direct Out”オプションを選択した場合の左右のライン入力も含みます。詳しくはユーザー・マニュアルを参照してください)。また、ボイス・プロセッサーで生成されたハーモニー・パートも録音できます。
- Pa900にロードしたMP3ファイルをMP3ファイルに録音することはできません。また、MP3ファイルの再生中にはMP3での録音をすることはできません。

録音をした後のMP3ファイルは、Pa900のプレイヤーで再生できます。

Note: Sequencer、Mediaモードからは MP3 Record に入ることはできません。

録音

1 SHIFTキーを押しながらRECORDキーを押すと、MP3 Recordモードに入ります。

この時、MP3 Recordダイアログが画面に表示されます。

録音を開始していない場合、“Status”の欄は「Idle」と表示されます。

2 “Quality”のポップアップ・メニューを開き、録音するMP3の音質を設定します。

高音質に設定するほど、録音後のMP3ファイルの容量が大きくなります。

Note: MP3ファイルの音質設定時に低いクオリティを選択すると完成後のMP3ファイルの音質もあまり良くないものになります。録音後にMP3ファイルのクオリティを変更することはできませんのでご注意ください。

3 “Device”パラメーターで、録音されるMP3ファイルを一時的に保管しておく場所を設定します。

ここでの設定は、最終的にMP3ファイルを保存する場所を決めるものではなく、録音終了後に別の場所を指定することもできます。但し、ここで設定する際に、“Free space”パラメーターでMP3ファイルを保管する場所に十分な容量があるかどうかをご確認ください。

デフォルト設定では、録音可能なデバイスを自動的に選択していますが、必要に応じて“Device”のポップアップ・メニューで別のデバイスを選択できます。この時、Pa900の内蔵メモリー以外に、USBポートに録音可能なデバイスを接続している場合は、そのデバイスも選択できます。

4 準備が完了しましたら、画面に表示されているRecボタンをタッチして録音を開始します。

Recボタンをタッチすると、ボタンの表示がStopボタンに変わりますので、録音を終えましたらStopボタンをタッチします。また、録音が始まると、“Status”の表示が「Recording」になります。

5 演奏を始めます。

キーボードでの演奏やスタイル、ソングの演奏だけでなく、Pa900に接続したマイクから入力されたボーカルなども録音できます。言い換えれば、演奏のすべてを録音することができます。

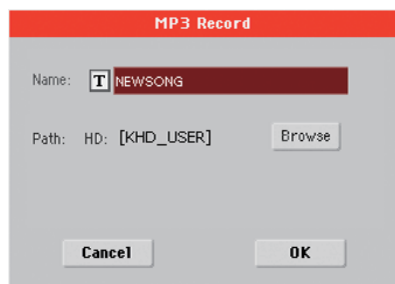
6 **EXITキーを押すと、画面からMP3 Recordダイアログが消え、録音を停止させずにStyle Playや Song Playページに移動することができます。**

7 **再びダイアログを表示させて、ファイル・サイズの確認や録音を停止させるには、SHIFT キーを押しながらRECキーを押します。**

録音を停止させずにEXITキーを押してダイアログの表示を消した場合は、画面に赤いレコーディング・アイコンが点滅表示されます。

MP3 Recordダイアログでは、録音中のMP3ファイルの長さやファイル容量、録音可能な残り時間が表示されます。なお、最大録音可能時間は、選択したデバイスによって変わります。

8 **画面にあるStopボタンをタッチして録音を停止させます。**

Stopボタンをタッチすると、録音が停止し、次のようなダイアログが表示されます。

9 **T(テキスト・エディット)ボタンをタッチして、録音したMP3ファイルに名前を付けます。**

10 **Browseボタンをタッチして、録音したMP3ファイルを保存する場所を指定します。**

11 **Saveボタンをタッチして MP3ファイルを保存します。**

保存したらMP3ファイルは他のソングと同様にSong Playモードで再生することができます。

また、保存したMP3ファイルは、USBメモリーなどにコピーして、コンピューターに移動させることもできます。

ファイルとミュージカル・リソースの検索

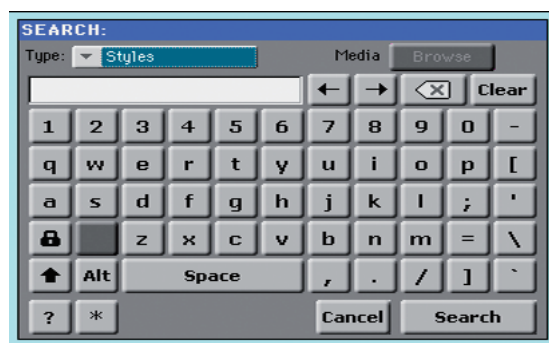
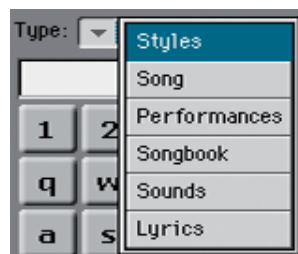
Pa900ではファイルやミュージカル･リソースの検索をすることができます。

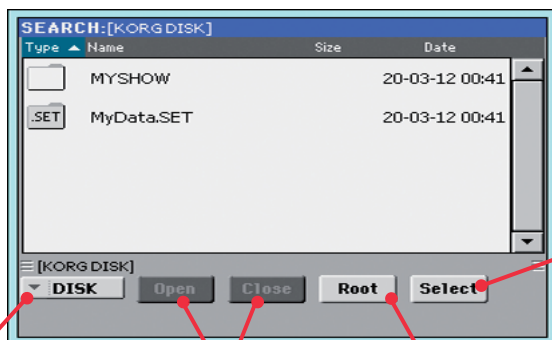
サーチ機能の使い方

各モードでサーチ機能を使うことによって、様々なタイプのデータを検索することができます。例えば、Mediaモードではファイルのみを検索でき、Style PlayモードやSong Playモードではスタイルやソング、歌詞などを検索できます。

また、表示しているページによっては、検索する対象がないためにサーチ機能が使用できないページもあります（例えば、Globalモードの各ページなど）。

サーチ機能の手順は、次のとおりです。

1 パネルにあるSEARCHキーを押して検索画面を表示します。

2 必要に応じて、Typeのポップアップ･メニューをタッチし、検索したいデータのタイプを選択します。

ファイルやソング、歌詞を検索する場合は、Browseボタンが使用でき、メディア内のファイルを検索できます。

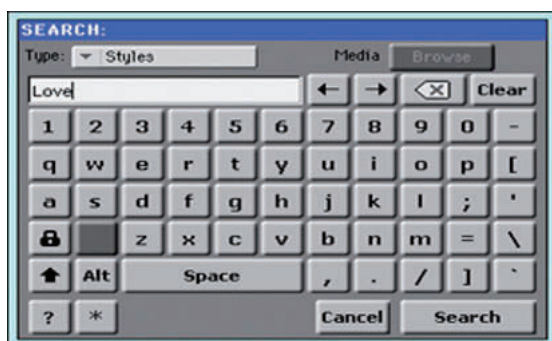
3 **メディア内のファイルを検索する場合は、Browseボタンをタッチして、メディア画面を表示します。**

あなたが探しているファイルを含むフォルダが見つかったら、そのフォルダをタッチし、Selectボタンをタッチして、メディア画面を閉じます。
選択したフォルダの名前が検索画面のタイトル・ウィンドウに表示されます。

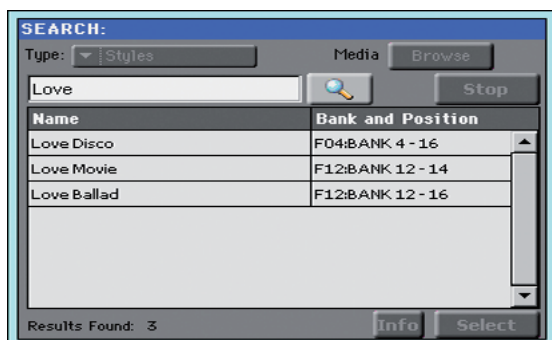
デバイス・ポップアップ・メニューを使って、デバイスを選択します。

Open、Closeボタンを使って、フォルダ内を閲覧できます。

ディレクトリを見失った場合は、"Root"ボタンをタッチしてデバイスのルートに移動します。

4 **検索ワードを入力します。**

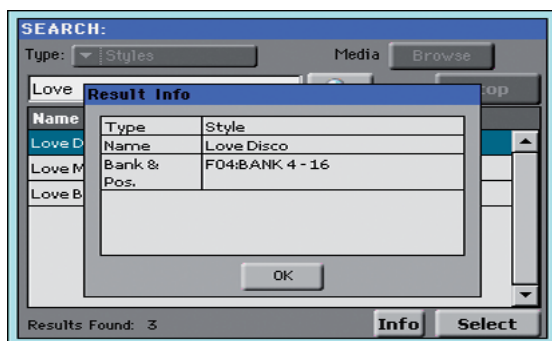
検索ワードは大文字、小文字の区別は不要です（「LOVE」も「Love」も「love」も検索上は同一です）。

5 **検索ワードを入力し終えたら、Searchボタンをタッチします。**

検索ワードに該当したファイルがリスト表示されます。

Searchボタンを押すと、Searchボタンの名前がStopに変わります。必要なときに、このボタンをタッチして検索を停止します。ボタンの名前が"Search"に戻ります。新しい検索を実行するまで検出されたすべてのファイルは、表示のままになります。

検索が完了するのに必要な時間は、デバイスのサイズやファイルの数によります。

Note: 1度に検索できる項目は1つだけです。現在の検索が完了するのを待つか、STOPボタンをタッチして検索を停止してから、新たな検索を行ってください。

ヒント： 画面のCancelボタンやパネルのEXITキーを押してこの画面から抜けて、他の操作を行うことができます。検索はバックグラウンドで継続されます。

6 **リスト表示されたアイテムをタッチして選択し、Info ボタンをタッチするとそのアイテムの情報が表示されます。**

OKボタンを押すとInfoダイアログが閉じます。

7 **サーチ機能のメイン・ページに戻って、もう一度検索をしたいときは、サーチ・アイコン をタッチします。**

8 **または検索の結果、必要なアイテムが見つかったら、その名前をタッチし、Select ボタンをタッチします。**

9 **EXITキー、またはSEARCHキーを押してサーチ機能を終了します。**

サーチ機能の使用上のご注意

ワイルドカード

検索ワードによるサーチ機能は、完全一致、部分一致の両方の結果を表示します。例えば、検索ワードに「love」と入力した場合、検索結果には「LOVE」や「LoveSong」というように、「love」の文字列を含むものがすべて表示されます。

この時、ワイルドカードとして「?」（単文字）や「*」（文字列）を検索ワードに含めてサーチすることができます。たとえば、「*love」で検索した場合（「文字列の後ろに“love”が続く語を含むアイテムを検索」という意味です）、「MyLove」はヒットしますが「LoveSong」はヒットしません。同様に「??love」で検索した場合（「2文字の後に「love」が続く語を含むアイテムを検索」という意味です）、「MyLove」はヒットしますが「TrueLove」はヒットしません。

また、スペルが少し似ている言葉を検索する場合、「?」をワイルドカードとして使うことができます。たとえば、「gr?y」で検索した場合、「gray」と「grey」の両方がヒットします。

内蔵時計バックアップ用電池の交換

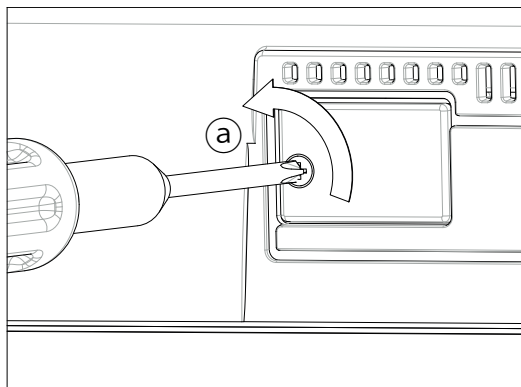
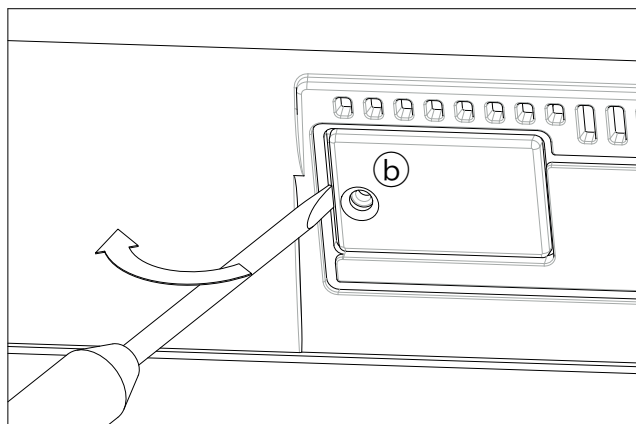
内蔵時計のバックアップ用電池は一般的なリチウム電池(CR2032)で交換可能です。交換用電池は、必ず指定の型番のものをご使用ください。それ以外の型番のものを使用すると、Pa900を破損する場合があります。電池の交換は、ご自身で行えます。コルグでは電池交換作業によりデータが消去されてしまった場合や、交換用電池が正しく装着されていなかったことにより発生した損害等につきましては、一切の責任を負いません。

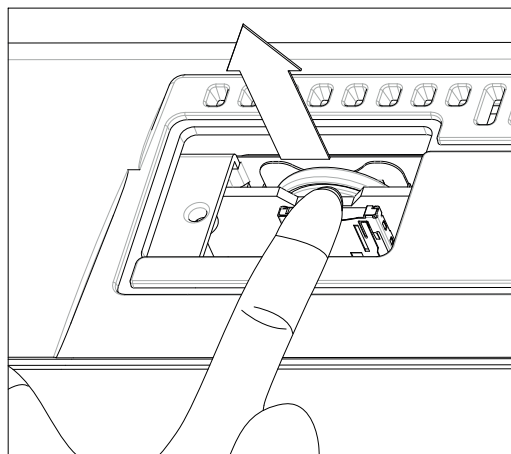
注意事項

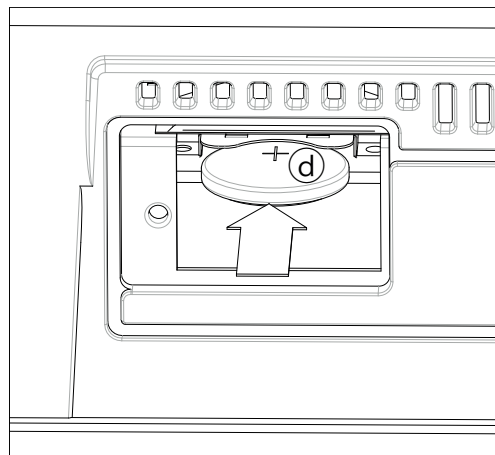
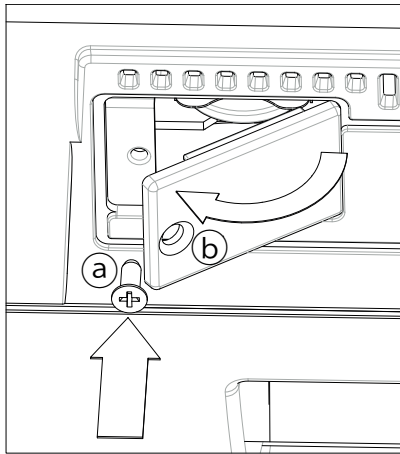
- ・電池の交換は自己責任で行ってください。コルグでは、電池が正しく装着されていなかったことにより発生した損害等につきましては、一切の責任を負いません。
- 作業を行う前に、Pa900の電源をオフにし、電源ケーブルをPa900から取り外してください。
- 人体の静電気によるPa900の内部パーツの破損を防ぐため、無塗装の金属部分に触れてから作業を行ってください。

交換作業手順

交換作業には、プラスとマイナスのドライバーが必要です(Pa900には付属していません)。

1. Pa900の電源をオフにし、電源ケーブルをPa900から取り外します。
2. プラスドライバーを用意し、Pa900 のリアパネルにあるプラスネジ(a)を取り外します。

3. マイナスドライバーを用意し、カバーとリアパネルの隙間に挿入し、カバー(b)を取り外します。

4. 指の爪やマイナスドライバーの先端部分を利用して電池(c)をバッテリー・スロットから取り出します。

   電池をPa900内部に落とさないように十分注意してください。

5. 新しい電池(d)をバッテリー・スロットに挿入します。この時、「+」の文字が見える側を上に向けて挿入します。

   電池をPa900内部に落とさないように十分注意してください。

6. 取り外したカバー(b)を取り付け、プラスネジ(a)を取り付けて固定します。

microSD カードを使用する

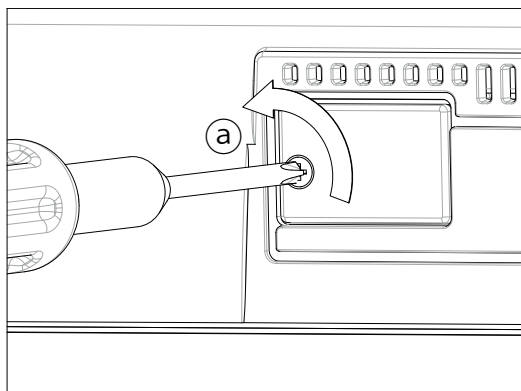
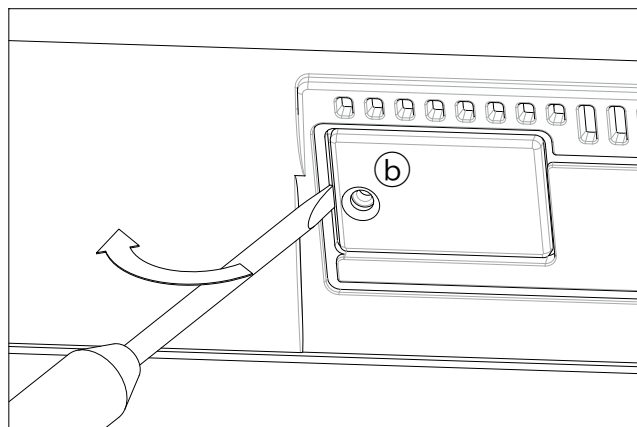
Pa900内部のカード･スロットに、市販のmicroSDカードを装着することによって、Pa900の内部メモリーを拡張することが可能です。microSDカードの取り付け作業は、ご自身で行えます。コルグではmicroSDカードの取り付け作業によりデータが消去されてしまった場合や、SDカードが正しく装着されていなかったことにより発生した損害等につきましては、一切の責任を負いません。

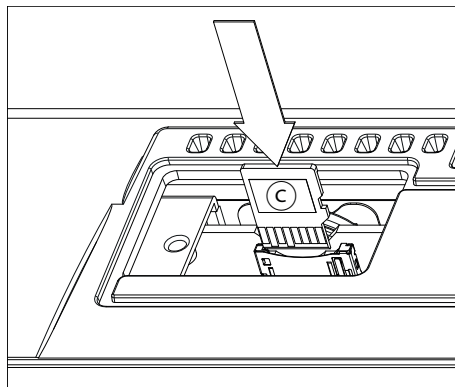
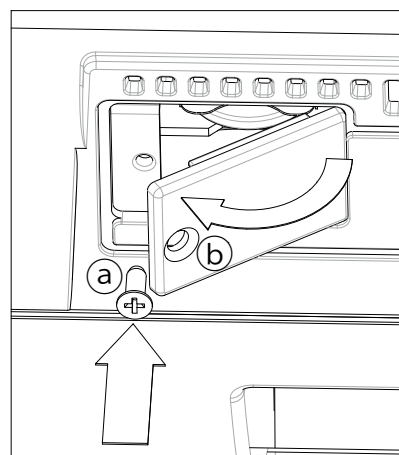
注意事項

- SDカードの追加作業は自己責任で行ってください。コルグでは、microSDカードが正しく装着されていなかったことにより発生した損害等につきましては、一切の責任を負いません。
- 作業を行う前に、Pa900の電源をオフにし、電源ケーブルをPa900から取り外してください。
- 人体の静電気によるPa900の内部パーツの破損を防ぐため、無塗装の金属部分に触れてから作業を行ってください。

取り付け作業手順

作業には、プラスとマイナスのドライバーが必要です（Pa900には付属していません）。

1. Pa900の電源をオフにし、電源ケーブルをPa900から取り外します。
2. プラスドライバーを用意し、Pa900 のリアパネルにあるプラスネジ（a）を取り外します。

3. マイナスドライバーを用意し、カバーとリアパネルの隙間に挿入し、カバー（b）を取り外します。

4. 空のスロットにmicroSDカード（c）を挿入します。コネクター側を下に、そして本体へ向かう方向にしてカード･スロットに押し込みます。クリック音したらカードから手を離します。

   Warning: SDカードは正確に装着してください。また、Pa900内部に落とさないように注意してください。

5. 取り外したカバー（b）を取り付け、プラスネジ（a）を取り付けて固定します。

microSDカードへアクセスする

microSDカードの取り付けが終了したら、Pa900の電源をオンします。Media モードのデバイス・ポップアップ・メニューから「SD [KORG SD]」を選択すると、microSDカードにデータをセーブしたりロードすることができます。

microSDカードの取り外し

microSDカードをスロットから外すときは、カードを装着したときと同様にカバーを開けカードを取り出します。そして、カバーを取り付けます。

仕様

製品名	KORG Pa900
鍵盤	61 キー・セミ・ウェイテッド、ベロシティ、アフタータッチ付き
システム	アップグレード可能なオペレーティング・システム、RX（Real eXperience）、DNC（Defined Nuance Control）、マルチタスク、再生しながらロード可能
ディスプレイ	7 インチ・カラー・タッチビュー・グラフィカル・ユーザー・インターフェイス（800 × 400）
音源	コルグ EDS（Enhanced Definition Synthesis）音源、128 ボイス、128 オシレーター、トラックごとに 3 バンド EQ、レゾナンス付きフィルター
エフェクト	4 ステレオ・デジタル・マルチエフェクト・ブロック・システム、125 マスター・エフェクト・タイプ+ 2 グローバル・エフェクト
ボイス・プロセッサー	TC Hellicon によるボイスプロセッサー・テクノロジー。3 声ハーモナイザー、リバーブ、ディレイ、コンプレッサー、EQ
サウンド	1100 以上（ステレオ・ピアノ、GM レベル 1 とレベル 2 互換のサウンドを含む）、70 以上のドラム・キット ユーザー・エリア : 512 サウンド、128 ドラム・キット Defined Nuance Control（DNC）テクノロジーによるサウンド
デジタル・ドローバー	9 フィート
サンプリング	WAV、AIFF、Soundfont のロード / インポート。Wav、AIFF へのエクスポート、エディット : タイム・スライス PCM ユーザー・メモリー : 192MB
スタイル	400 以上のプリロード・スタイル、自由に再構成可能 フェバリットとユーザー・バンクを含む使用可な 1200 のスタイル 8 スタイル・トラック、4 シングル・タッチ・セッティング（STS）、スタイルごとのに 4 パッドと 1 スタイル・セッティング、ギター・トラック・モード× 2、パラレルおよび固定ノート・トランスポーズ・テーブル ステップ入力によるスタイル録音、トラック・エディットおよびイベント・エディット機能 スタイル・コントロール : 3 イントロ、4 バリエーション、4 フィル、1 ブレーク、3 エンディング、シンクロ・スタート / ストップ、タップ・テンポ / リセット、ベース・インバージョン、オート・フィル、マニュアル・ベース、メモリー、アカンパニメント・ミュート、ドラム・マッピング、スネア＆キック・デスティネーション、シングル・タッチ
コード・シーケンサー	リアルタイム・スタイル・コード・シーケンサー・レコーダー
パフォーマンス	320 パフォーマンス、「My Setting」機能
STS	すべてプログラム可能 / 各スタイルあたり 4STS まで、ソング・ブックあたり 4STS まで
ソング・プレイ	XDS クロスフェード・デュアル・シーケンサー・プレーヤー（MID、MID+G、KAR、MP3+lyrics、MP3+G フォーマットをサポート）、プレーヤーごとのソング・セレクト、スタート / ストップ、ホーム、巻き戻し、早送り、X フェーダー・バランス・コントロール、歌詞、スコア、コード・データをディスプレイまたは接続した市販のビデオ・モニターに表示可能、マーカー機能、ジュークボックス機能
MP3 プレーヤー / レコーダー	2 台の MP3 プレーヤー / レコーダー、リアルタイム・トランスポーズ機能（+6/ − 5 半音）、テンポ・チェンジ（± 30%）、ボーカル・リムーバー スタイル、SMF、リアルタイムに演奏したトラック、パッド、マイク、エフェクトを M3P ファイルとして録音可能
シーケンサー	クイック録音（バッキング・シーケンス）、マルチトラックまたはステップ録音機能。 16 トラック、200,000 イベント、SMF 対応のフル機能を備えたシーケンサー
ソング・ブック	エディット可能なミュージック・データーベース スタイル、SMF、カラオケ、MP3 を自動選択可能な Style Play モードと Song Play モード ユーザー定義可能なカスタム・リスト、フィルタリングと曲順設定オプション
互換性	i シリーズ : スタイル（いくつかの調整が必要）、Pa シリーズ : スタイル、パッド、パフォーマンス、サウンド、PCM サンプル、ソング、ソング・ブック
マルチ・パッド	アサイナブル可能な 4 つのパッド+ STOP キー、パッド録音機能
コントロール	MASTER VOLUME、FADE IN/OUT、BALANCE VOLUME、EMSEMBLE、UPPER OCTAVE、TRANSPOSE、STYLE CHANGE、PERFORMANCE/STS リアルタイム・コントローラー : ジョイスティック（ピッチ+モジュレーション）、MIC VOLUME、FX VOLUME、MIC ON/OFF、MIC PRESET、HARMONY ON/OFF 3 アサイナブル・スイッチ、TEMPO +/-、TEMPO LOCK、DIAL、SERCH、SHIFT、CHORD SCAN、SPLIT、METRO-NOME ON/OFF、SOUND SELECT
コントロール・インプット	1 ダンパー（オプションの KORG DH-1H ハーフダンパー・ペダル対応）、1 アサイナブル・ペダル / フットスイッチ
クロック	内蔵システム・クロック
マス・ストレージ / ディスク	SSD 標準、microSD（オプション、リア・パネル・スロット）
MIDI	MIDI IN、OUT 端子。USB デバイスポートを使用して USB 経由での MIDI、8 ユーザー定義可能な MIDI 設定
ビデオ・アウトプット	RCA 端子
USB	1 ホスト（フロント・パネル）、1 デバイス（リア・パネル）2.0 Hi Speed 対応。
MIC/LINE オーディオ入力	2 アンバランス端子 : LEFT（MIC）端子（ゲイン・コントロール付き）、RIGHT 端子
オーディオ出力	2 アンバランス端子 : LEFT 端子、RIGHT 端子 ステレオ端子 : PHONES 端子

製品名	KORG Pa900
アンプ / スピーカー	4 スピーカー（100 mm ウーハー+ツイーター）、2 ウェイ、バスレフ型
消費電力	20W、AC100 ～ 240V　50/60Hz
外形寸法 (W × D × H)	1030 × 378.3 × 127mm（譜面台を除く）
質量	10.76kg
付属品	クイック・ガイド、電源ケーブル、譜面台、アクセサリー・ディスク
オプション	コルグ EXP-2、コルグ XVP-10、コルグ DS-1H（ハーフ・ペダル対応）、コルグ PS-1、PS-3

仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

MIDI インプリメンテーション・チャート

KORG Pa900
OS Version 1.0 - March 01, 2013

ファンクション...		送　信	受　信	備　考	
ベーシック チャンネル	電源ON時	1-16	1-16	記憶される	
	設定可能	1-16	1-16		
モード	電源ON時		3		
	メッセージ	X	X		
	代用	****************			
ノート ナンバー:		0-127	0-127		
	音域	****************	0-127		
ベロシティ	ノート・オン	O 9n, V=1-127	O 9n, V=1-127		
	ノート・オフ	O 8n, V=0-127	O 8n, V=0-127		
アフタータッチ	キー別	O	O	プレーヤー・データのみ	*1
	チャンネル別	O	O	プレーヤー・データのみ	*1
ピッチベンド		O	O		
コントロール・チェンジ	0, 32	O	O	バンク・セレクト (MSB, LSB)	*1
	1, 2	O	O	モジュレーション	*1
	6	O	O	データ・エントリーMSB	*1
	38	O	O	データ・エントリーLSB	*1
	7, 11	O	O	ボリューム, エクスプレッション	*1
	10, 91, 93	O	O	パンポット, A/B マスターFXセンド	*1
	64, 66, 67	O	O	ダンパー, ソステヌート, ソフト	*1
	65, 5	O	O	ポルタメントOn/Off, ポルタメント・タイム	*1
	71, 72, 73	O	O	ハーモニー・コンテンツ, EGタイム(リリース, アタック)	*1
	74, 75	O	O	ブライトネス, ディケイ・タイム	*1
	76, 77, 78	O	O	ビブラート・レート, デプス, ディレイ	*1
	98, 99	O	O	NRPN (LSB, MSB)	*1, 2
	100, 101	O	O	RPN (LSB, MSB)	*1, 3
	120, 121	X	O	オール・サウンド・オフ, リセット・コントローラー	*1
プログラム・チェンジ		O 0-127	O 0-127		*1
	設定可能範囲	****************	0-127		
エクスクルーシブ		O	O		*4
コモン	:ソング・ポジション	X	X		
	:ソング・セレクト	X	X		
	:チューン	X	X		
リアルタイム	クロック	O	O		*5
	コマンド	O	O		*5
その他	:ローカル ON/OFF	X	X		
	:オール・ノート・オフ	X	O (123-124)		
	:アクティブ・センシング	O	O		
	:リセット	X	X		
Notes	*1: Global モードで MIDI フィルターの In/Out をオフに設定したときに送受信。 *2: ドローバー設定、サウンド・パラメーター, ソング・ブック・エントリーの選択, ドラム・キットの設定。 *3: LSB、MSB = 00、00: ピッチ・ベンド・レンジ =01、00: ファイン・チューン =02、00: コース・チューン。 *4: インクワイアリー、マスター・ボリューム・メッセージ、エフェクト設定、クォーター・トーンの設定を含む。GM モード・オン。 *5: Global モードの Clock Send パラメーターをオンに設定したときにのみ送信。				

モード 1: オムニ・オン、ポリ　　モード 2: オムニ・オン、モノ　　O: あり
モード 3: オムニ・オフ、ポリ　　モード 4: オムニ・オフ、モノ　　X: なし

保証規定（必ずお読みください）

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より 1 ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
   - 消耗部品（電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど）の交換。
   - お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
   - 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - 本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より 3 ケ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、お客様相談窓口までお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめお客様相談窓口へご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ Pa900　**保証書**

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日　　年　　月　　日

販売店名

アフターサービス

■ 保証書
本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間
お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理
保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理
修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお客様相談窓口へお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に
故障かな？とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、お客様相談窓口へお問い合わせください。

■ 修理時のお願い
修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について
修理または商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!
この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。
This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 ナビダイヤル 0570-666-569
PHS 等一部の電話ではご利用できません。固定電話または携帯電話からおかけください。
受付時間 月曜～金曜 10:00 ～ 17:00（祝祭日、窓口休業日を除く）

●サービス・センター：〒168-0073　東京都杉並区下高井戸1-15-12

Pa900 クイック・ガイド KORG J1

KORG 株式会社コルグ
本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2
URL: http://www.korg.co.jp/